

平成 28 年 度

履 修 要 項

文 学 部

文 学 研 究 科

鶴 見 大 学

平成 28 年 度

履 修 要 項

文 学 部

文 学 研 究 科

鶴 見 大 学

文学部の教育

文学部長 高田 信敬

高い叡智と豊かな感性を備え、未来創造に貢献できる人材の育成。これが文学部の教育目標です。知的能力は勿論、人間性涵養も大学においては学問を通して形成されます。個々の興味・関心を伸ばし、足りないところを補い、理想の実現へむかって努力してください。

普遍的・基礎的な力を養う共通教育科目

文学部には、独自の研究領域を持つ日本文学科・英語英米文学科・文化財学科・ドキュメンテーション学科の4学科があります。この多彩な学科構成が本学文学部の特色であり、みなさんはいずれかの学科に所属して専門的な力を獲得することになります。しかし、将来実社会で活躍するための一般的知識や、各専門を支える基礎的技能も欠かせません。そこで、普遍的・基礎的な能力を身につける「共通教育科目」が用意されています。

履修にあたり、好きな学問系統あるいは専門の研究に役立つような領域だけではなく、今まであまり関心の無かった分野やちょっと苦手な科目にも挑戦されることをお勧めします。「キャリア形成科目群」、「外国語科目群」、「文化・芸術科目群」など幅広い科目群から、卒業までの4年間を視野に入れた学修計画を立ててください。

該博な知見に根ざす独自の専門科目

個性的な4つの学科では、専門性の土台作りとなる基礎科目や、最先端の研究成果を伝える科目を、体系的に用意しています。他学科開講の専門科目も履修可能です。どの科目も学科の特色を生かした創意工夫が凝らされていますので、学問のおもしろさ・発見のよろこびを、是非味わってください。

社会へ羽ばたくために

卒業後、学問の道に進まれる人もあるでしょうが、多くの方々は社会へ羽ばたいてゆくことになります。多様な進路がみなさんの前に開けており、どのようにそれぞれの明日を設計するかは、一人一人にゆだねられています。よりよい巣立ちのための科目や、職業と直結する各種資格に関わる科目も充実していますので、活用してください。教職を始め、図書館司書・司書教諭・博物館学芸員など、様々な資格取得が可能です。

どうぞ、私たちのところへ

その他、横浜市内にキャンパスを持つ12の大学相互で、「単位互換」の協定を結んでいます。他大学の開講科目を受講し、その単位を本学の卒業単位として認定する制度があります。これも、積極的に利用してはいかがでしょうか。

本学では、教員と職員とが協力して、学修のみならず学生生活全般が快適円滑なものとなるよう、できる限りの支援をしたいと考えます。何か気になることがあれば、なんでも質問してください。また問題がなくても、私たちの所へ気軽に来てください。

卒業の時、輝かしい未来があなた方の前に開けていることを期待します。

目 次

文学部の教育

《文学部》

平成28年度文学部学年暦	1
--------------	---

学修について

1. まえがき	5
2. 単位制	5
3. 履修に関する一般的注意	5
4. 履修科目の登録	6
5. 履修登録単位数の上限	6
6. 授業	6
7. 試験	8
8. 成績の評価とその通知	10
9. 卒業	11
10. 卒業論文	11
11. 学籍	12
12. 横浜市内大学間単位互換制度	13
13. 東京国立博物館キャンパスメンバーズ	15
14. その他の注意事項	15

教育課程

日本文学科

平成21～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	21
2. 平成28年度開講科目及び担当者	22

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目
- ⑤ 生活・環境系科目
- ⑥ キャリア形成科目

《専門科目》	26
--------	----

- ① 必修科目
- ② 必修選択科目
- ③ 選択科目
 - (1) 選択A群
 - (2) 選択B群
 - (3) 選択C群

《書道専門科目》

英語英米文学科

平成28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	33
2. 平成28年度開講科目及び担当者	34

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目
- ⑤ 生活・環境系科目
- ⑥ キャリア形成科目

《専門科目》	38
--------	----

- ① 必修科目
- ② 選択科目
 - (1) 選択A群
 - (2) 選択B群

平成24～27年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	42
2. 平成28年度開講科目及び担当者	43

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 …………… 47

① 必修科目

② 選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 …………… 51

2. 平成28年度開講科目及び担当者 … 52

《共通科目》 …………… 52

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 …………… 56

① 必修科目

② 選択科目

(1) 選択必修英語科目

(2) 選択必修概論科目

(3) 選択科目

文化財学科

平成24～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 …………… 63

2. 平成28年度開講科目及び担当者 … 64

《共通科目》 …………… 64

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 …………… 68

① 必修科目

② 選択科目（専攻科目）

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 …………… 70

2. 平成28年度開講科目及び担当者 … 71

《共通科目》 …………… 71

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 …………… 75

① 必修科目

② 選択科目（専攻科目）

ドキュメンテーション学科

平成24～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 …………… 79

2. 平成28年度開講科目及び担当者 … 80

《共通科目》 …………… 80

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 …………… 84

① 必修科目

② 選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 …………… 87

2. 平成28年度開講科目及び担当者 … 88

《共通科目》 …………… 88

① 基礎科目

② 外国語科目

◎ 文化・芸術系科目	
◎ 人間・社会系科目	
◎ 生活・環境系科目	
◎ キャリア形成科目	
《専門科目》	92
①必修科目	
②選択科目	
(1) 選択A群	
(2) 選択B群	

資格課程	
教職課程	97
司書・司書教諭課程	107
学芸員課程	117

宗侶養成課程	125
--------	-----

諸規程	129
-----	-----

《文学研究科》

平成28年度大学院文学研究科学年曆	141
-------------------	-----

開講科目及び担当者	
1. 日本文学専攻	145
博士前期課程	
博士後期課程	
2. 英米文学専攻	147
博士前期課程	
博士後期課程	
3. 文化財学専攻	151
博士前期課程	
博士後期課程	

履修方法・研究指導

1. 博士前期課程	155
日本文学専攻	
英米文学専攻	
文化財学専攻	
2. 博士後期課程	161
日本文学専攻	
英米文学専攻	
文化財学専攻	

その他の事項	165
--------	-----

諸規程	171
-----	-----

《履修登録の手引き》	183
------------	-----

Web 履修登録・資格申請・ 成績照会の操作方法	191
-----------------------------	-----

《教室等配置図》	207
----------	-----

《地震発生時の措置 及び東海大地震等警戒宣言 発令時の諸注意》	221
---------------------------------------	-----

《文 学 部》

平成28年度文学部学年暦

平成28年 3月30日 (水) から	}	新入学生履修指導及び在学生平成28年度時間割発表、全学生健康診断
4月 4日 (月) まで		
5日 (火)		入学式
6日 (水)		前期授業開始
9日 (土)		クラブ関係オリエンテーション (休講)
6日 (水) から	}	履修登録期間
20日 (水) まで		
22日 (金) から	}	履修中止申請期間
26日 (火) まで		
29日 (金)		昭和の日
5月 3日 (火)		憲法記念日
4日 (水)		みどりの日
5日 (木)		こどもの日
7月 1日 (金)		精霊祭参列 (2時限休講)
9日 (土)	}	午後補講日 ※午前は通常授業
16日 (土)		
18日 (月)		海の日
19日 (火)		前期試験時間割発表
23日 (土)		午後補講日 ※午前は通常授業
26日 (火)		前期授業最終日
27日 (水) から	}	補講日
28日 (木) まで		
29日 (金) から	}	前期試験期間
8月 4日 (木) まで		
11日 (木)		山の日
5日 (金) から	}	夏季休暇期間
9月14日 (水) まで		
9月 5日 (月)		前期成績発表 (郵送)
7日 (水) から	}	後期科目履修修正期間
13日 (火) まで		
15日 (木)		後期授業開始
19日 (月)		敬老の日
22日 (木)		秋分の日
23日 (金) から	}	後期科目履修中止申請期間
27日 (火) まで		
10月10日 (月)		体育の日
12日 (水)		御征忌
21日 (金)		大学祭準備 (全時限休講)
22日 (土) から	}	大学祭 (全時限休講)
23日 (日) まで		
24日 (月)		大学祭後片付け (1・2時限休講) ※午後は通常授業

11月 3日 (木)	文化の日
18日 (金)	太祖降誕会 (予修)
21日 (月)	開学記念日 ※文学部通常授業
22日 (火)	全学研修日 (休業)
23日 (水)	勤労感謝の日
12月 3日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
8日 (木)	成道会参列 (2時限休講)
10日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
12日 (月)	卒業論文提出期間
13日 (火)	
14日 (水)	
17日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
23日 (金)	天皇誕生日
24日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
28日 (水)	午前月曜授業振替日、午後補講日
29日 (木) から	冬季休暇期間
平成29年 1月 5日 (木) まで	
6日 (金)	授業再開
7日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
9日 (月)	成人の日
10日 (火)	英語英米文学科「卒業研究」小論文提出期間
11日 (水)	
12日 (木)	
13日 (金)	補講日 (午前のみ) ※午後休講
14日 (土)	大学入試センター試験 (休講)
16日 (月)	後期試験時間割発表
17日 (火)	補講日
21日 (土)	補講日
23日 (月)	後期授業最終日
24日 (火)	補講日
25日 (水) から	後期試験期間
31日 (火) まで	
2月11日 (土)	建国記念の日
15日 (水)	涅槃会
20日 (月)	4年生後期成績発表
3月 3日 (金)	1～3年生後期成績発表 (郵送)
14日 (火)	卒業式
20日 (月)	春分の日

※予定を変更する場合には1週間前までに教学課掲示板に発表する。

※追試験、特別試験及び再試験の予定は別に教学課掲示板に発表する。

学 修 に つ い て

白紙

1. まえがき

所定の授業科目を適切な計画のもとに順序よく履修することは、大学生活の根幹をなすもので、そのためには、学則の第5章（「学生生活」参照）を熟読することが必要であるが、ここでは履修に関する必要な諸事項について説明する。

2. 単位制

単位制は、一定の授業科目を履修し、それらに割り当てられている所定の単位を修得することによって成り立つものである。

1年間の授業週数は、定期試験などの期間を含めて35週である。これを前期及び後期の2期に分ける。

授業科目は、定期試験期間をのぞきそれぞれ1年間30週をもって完結するのが原則であるが、前期または後期の15週だけで完結するものもある。1年間30週をもって完結する科目を通年科目といい、前期または後期の15週をもって完結する科目を1期科目という。また、この他にも、定められた短期間に集中して授業を行うことにより完結する集中講義がある。

大学教育における単位の一般的算定基準として決められているものは次のとおりである。

- (1) 講義および演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。文学部においては、授業科目は、(a) 講義、(b) 演習、(c) 実験・実習・実技の3種類に分けられ、1時限の授業が2時間として計算され、通年科目及び1期科目の単位は次のように算定されている。
 - (a) 講義科目は毎週1時限の授業が1年間行われて4単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて2単位が与えられる。
 - (b) 演習科目は毎週1時限の授業が1年間行われて2単位又は4単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて1単位又は2単位が与えられる。
 - (c) 英語・フランス語・ドイツ語・中国語および書道は毎週1時限の授業が1年間行われて2単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて1単位が与えられる。
 - (d) 実習・実技においては、毎週1時限の学内授業を1年間、または毎週2時限の学内授業を半年間履修することによって2単位が与えられる。

実習・実技の科目は、教科の特質上実践することが必要である。期を通して所定の出席回数に足りないと、単位を修得できないことになるので、担当教員の指示にしたがって、極力出席することが大切である。

3. 履修に関する一般的注意

- (1) 卒業のために必要な授業科目及びその単位数に関する規定は極めて厳格なものであって、1単位の不足があっても、卒業はできない。
- (2) 個々の授業科目について、出席状況、試験やレポートなどの成績、担当教員が必要と認める学習作業の結果などを総合して、合格と判定された科目に対しては所定の単位が与えられ

る。したがって、試験の成績が合格の程度に達していても他の評価が基準に達していない場合には不合格となることがある。

- (3) 授業科目の選択は1年間の勉学方針の決定であり、次年度以降の科目の履修にも大きく影響するので、本履修要項を熟読の上、慎重に決定することが望ましい。
- (4) 自分の履修する科目について不明な点または疑問点があったなら、担当教員または教学課にたずね、疑問を残さないようにしなければならない。
- (5) 前年度までに修得すべき科目が未修得のままに残っている場合には、履修登録前に、学級担任、担当教員または教学課の助言を受けることが望ましい。

4. 履修科目の登録

- (1) 学生は学年の初めの所定の期日までに、履修登録を完了しなければならない。具体的な履修登録の手続きは本文183頁「履修登録の手引き」による。期日までにこの手続きをとらなかった者は、その年度の履修が認められず、たとえ授業を受けても試験を受ける資格がなく、したがって単位は与えられない。
- (2) 履修科目の登録は、指定された期間に必ず本人が行うものとする。登録期間内に手続きができない場合は必ず事前に教学課まで申し出ること。
- (3) すでに単位を修得した科目を、重ねて履修することはできない。また、同一年度に同一科目を重複して履修することはできない。
- (4) 上級学年配当科目を下級年次において履修することは認めない。ただし、下級学年配当科目を上級年次において履修することは差し支えない。
- (5) 履修できなかった必修科目または不合格となった必修科目は、次の年度以降において再履修しなければならない。再履修すべき必修科目が時間割の上で当該学年の履修科目と重なった場合には、再履修科目の方を優先して履修しなければならない。
- (6) 必修科目の演習については、当該クラスで履修することを原則とする。

5. 履修登録単位数の上限

1年間に履修科目として登録できる単位数の上限を以下のとおり定める。

卒業所要単位に算入される科目について、履修登録単位数の上限を44単位とする。44単位には再履修科目の単位数も含むこととする。

なお、前年度のGPAが3.0以上の学生については、履修登録単位数の上限を52単位とする。

6. 授 業

(1) 授業時間

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
9 : 00	10 : 40	13 : 00	14 : 40	16 : 20
}	}	}	}	}
10 : 30	12 : 10	14 : 30	16 : 10	17 : 50

※補講については
その都度掲示する。

(2) 休 講

- ① 担当教員より連絡があり次第、休講掲示板にその旨を掲示する。
始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教学課に申し出てその指示を受けること。
- ② 「暴風警報」、「大雨警報」、「洪水警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」の気象警報が発令された場合

(1) 対象となる警報並びに条件

神奈川県下に「暴風警報・大雨警報・洪水警報」が同時に発令された場合及び「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」が発令された場合、次項(2)の基準を適用する。

(2) 授業・試験の実施基準

【警報解除時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに警報が解除された場合	平常どおり実施
午前11時までに警報が解除された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに警報が解除された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても解除されない場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

- ③ 自然災害や交通ストライキによって交通機関の運行が停止した場合

(1) 対象となる交通機関

下記2線のいずれも不通となった場合のみ、次項(2)の基準を適用する。

J R 京浜東北線・根岸線（東京～大船間）

私鉄 京浜急行線（品川～三崎口間）

(2) 授業・試験の実施基準

【運行開始時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに運行開始された場合	平常どおり実施
午前11時までに運行開始された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに運行開始された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても不通の場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

- ④ 東海大地震等警戒宣言が発令された場合の措置等については、221頁を参照してください。

(3) 欠 席

1週間以上にわたる欠席のときは、事前または事後に、速やかに事由および日時を詳記し教学課に届け出なければならない。届出様式は「学生生活」を参照。試験に欠席した場合の欠席届については「7. 試験」の項を参照すること。

- ① 病欠は医師の診断書を添える。
- ② 事故の時はその理由を明らかにする。

- ③ 忌引は次の期間内に限り欠席時数に算入しない。保証人の証明書を添えること。
両親の忌引は7日以内
祖父母、兄弟、姉妹の忌引は3日以内

7. 試 験

学則第12条第3項の規定で定める試験についての細則は次のとおりとする。
試験には定期試験、追試験、特別試験、再試験がある。

(1) 定期試験

前期および後期の末に行う。試験の方法には、筆記、レポート、実技などがある。

定期試験の時間割は試験開始日から遅くとも1週間前までに掲示をもって発表する。発表後に変更する場合もあるので注意すること。

なお、所定の定期試験期間1週間前の授業時に実施する試験も定期試験とみなす。

① 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、定期試験を受験することができない。また、受験しても無効となる。

(a) 履修登録されていない授業科目

(b) 授業料等学納金が未納の場合

(c) 当該授業科目について、1期または1年を通じて授業時数の3分の2以上出席していない場合

② 平常試験

随時授業時間内に行う。この場合すべて科目担当者の指示に従うこと。

③ レポート

定期試験が筆記試験によらず、レポート提出をもって行われる場合は、下記に従うこと。

(a) レポート提出の資格は、受験資格に準ずる。

(b) 題目、枚数、提出期日、提出先は、掲示等により確認すること。

(c) 教学課提出の場合

(イ) 必ず表紙を付け、学籍番号、氏名、科目名、科目担当者名等、必要事項を記載すること。

(ロ) 提出場所は教学課カウンターとし、本人が直接提出すること。

(ハ) 提出期日は、定められた日1日限りとする。

提出時間 9:00～16:00

(ただし、土曜日は、9:00～12:00)

※提出期日および提出時間を過ぎたレポートは、受理しない。

(ニ) 一度提出したレポートの変更、訂正は認めない。

(d) 科目担当者に直接提出する場合は、科目担当者の指示に従うこと。

(2) 追 試 験

下記の事情により定期試験を欠席した者は、当該科目の試験実施の日を含めて1週間以内に、科目名、科目担当者名、詳細な欠席理由を明記した所定の「試験欠席届」に下記の証明書を添えて教学課に提出し、許可を受けることにより追試験を受験することができる。

前期試験の追試験は、前期終了科目について行う。ただし、通年科目についても行う場合

がある。

なお、定期試験に代わるものとして課せられた提出先が教学課のレポートについて、提出期日に提出できなかった場合も同様に扱う。

(イ) 病気（診断書を要する）

(ロ) 交通事故（相当証明書を要する）

(ハ) その他特別な事情により、文学部教授会が正当と認めた場合（相当証明書を要する）
追試験に関する手続きは次のとおりである。

① 所定の期間内に「追試験申込用紙」（用紙は教学課にある）を教学課に提出する。

② 受験料は1科目1,000円とし、納付書に記入の上、証紙を貼付し提出する。

③ 教学課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(3) 特別試験

下記の事情により定期試験を欠席した者は、当該科目の試験実施の日を含めて1週間以内に、科目名、科目担当者名、詳細な欠席理由を明記した所定の「試験欠席届」に下記の証明書を添えて教学課に提出することにより、特別試験を受験することができる。

なお、定期試験に代わるものとして課せられた提出先が教学課のレポートについて、提出期日に提出できなかった場合も同様に扱う。

(イ) 忌引（保証人の証明書を要する）

(ロ) 就職試験（就職試験受験先よりの証明書を要する）

(ハ) 教育実習、介護等の体験及び博物館実習

特別試験に関する手続きは次のとおりである。

① 所定の期間内に「特別試験申込用紙」（用紙は教学課にある）を教学課に提出する。

② 教学課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(4) 再試験

再試験は4年次で履修登録をした科目について実施する。

4年次で定期試験ならびに特別試験を受験し、不合格となった者で、1科目再試験を受験することによって、卒業所要単位を充足し得る者についてのみ実施する。なお、9月卒業申請者については、前期の定期試験ならびに特別試験を受験し、不合格となった者で、1科目再試験を受験することによって、前期終了日までに卒業所要単位を充足し得る場合にも実施する。

ただし、追試験を受験し、不合格になった者については行わない。

次に掲げる学科目の再試験は行わない。

(イ) 卒業論文又は卒業研究

(ロ) 体育

(ハ) 資格に関する科目

再試験に関する手続きは次のとおりである。

① 所定の期間内に「再試験申込用紙」（用紙は教学課にある）を教学課に提出する。

② 受験料は1科目2,000円とし、納付書に記入の上、証紙を貼付し提出する。

③ 教学課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(5) 受験上の注意事項

(a) 試験は指定されたクラス・試験場で受験しなければならない。

(b) 試験場における座席は学籍番号順とする。

- (c) 試験中は机上に学生証を提示しなければならない。
- (d) 学生証を忘れた者は、教学課で当日限り有効の仮受験票(1,000円)の交付を受けること。
- (e) 着席後は私語を慎み、学生証、筆記具(鉛筆またはペン、および消しゴム)のみ机上に置き、科目担当者があらかじめ持ち込みを許可したものを除いては、教科書、参考書、辞書、ノート、下敷、携帯電話、情報端末等の電子機器や、撮影・録音機能を有するもの等、不要なものはいっさい机に出してはならない。これに従わない場合は、不正行為とみなす。特に、携帯電話、情報端末等は時計としての利用も認めず、受験者が試験中に手に取ったり操作したことを監督者が目視した時点で不正行為とみなされるので注意すること。また、携行品は、かばん・紙袋等に入れること。
- (f) ノート・参考書等の参照が許可された科目を受験するときには、科目担当者が許可した場合を除き、必ず自分のものを使用し、コピー等の参照は不可とする。また、試験中の貸借は不正行為とみなす。
- (g) 試験に遅刻した者は、試験開始後20分を経過した場合は、試験場に入ることができない。また、試験場に入った者は、試験終了まで退席は認めない。
- (h) 答案用紙は試験場を退出する際必ず提出しなければならない。棄権は認めない。また無記名の答案は無効とする。
- (i) 試験場における秩序維持等すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (j) 定期試験の実施時間は次のとおりである。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:20 }	10:40 }	13:20 }	14:40 }	16:00 }
10:10	11:30	14:10	15:30	16:50

- (k) 受験中不正行為をなした者は、ただちに当該試験を含め試験期間中の全ての受験が停止される。その後、事実確認が行われ、文学部教授会の審議を経て、その科目を含む当該期に履修中の全ての科目が失格となる。なお、前期に不正行為が行われた場合、通年科目も失格となる。

8. 成績の評価とその通知

	可否	評価	成績評価基準	GP	評価内容
成績評価対象	合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
		A	89～80点	3.0	優れた成績
		B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
		C	69～60点	1.0	合格と認められる最低限の成績
		合	合否のみ判定	—	合格と認められる成績
	不合格	D	59点以下	0.0	不合格の成績
E		受験失格 レポート未提出 試験欠席	0.0	不合格の成績	
否		合否のみ判定	—	不合格の成績	
対象外		T	単位認定科目	—	編入学等により他大学等で修得した単位を本学の単位として認定した科目
		W	履修中止科目	—	所定の手続を経て履修を中止した科目

※S、Aは学則に規定する「優」に、Bは「良」に、Cは「可」に、Dは「不可」に相当する。

- (a) 各科目の成績は、定期試験のほかに随時行われる平常試験・レポートなどの成績、平常の学習態度を総合して定める。
- (b) 成績評価基準、成績評価および付与される評定値（GP）は以下のとおりとし、合否欄に合格と記された評価を得た科目について所定の単位が与えられる。

(c) GPA制度

GPAとは、Grade Point Average の略で、成績評価に評定値（GP）を設定し、履修した科目の1単位あたりの評定平均値を計算したものである。GPAは、各学生の学修成果を総合的に示す指標となるものであり、成績通知書並びに成績証明書に表示される。

GPAの計算方法は、以下のとおりとする。

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修単位数 (評価 S,A,B,C,D,E のすべてを含む)}}$$

※不合格科目を再履修して合格した場合には、不合格分の単位数も分母に含める。

- (d) 成績は、前期においては前期科目のみの発表とし、後期においては、通年科目および後期科目を発表する。
- (e) 成績通知書は前期末および年度末に本人に交付する。
- (f) 追試験の成績は、80点を上限とする。
- (g) 再試験の成績は、合格点を全て60点とする。
- (h) 成績優秀者の認定

GPAに基づいて、当該年度、成績が優秀であったと認められる者については、「成績優秀者」として認定し、認定証を授与する。

9. 卒業

卒業の要件は、4年以上在学し、各学科毎に定められた卒業に必要な単位を修得することとする。卒業の時期は、学年の終了日とする。ただし、在学期間が4年を超える学生については、妥当な事由があり、次のいずれかに該当する場合は、教授会の議を経てこれを前期の終了日とすることができる。

この規定の適用を希望する者は、履修登録の際、必ず教学課配布の「9月卒業申請書」に必要な事項を記入し申し出ることとする。

- (1) 前期に開講する授業科目を履修して、前期の終了日までに卒業に必要な単位を修得した場合。
- (2) 前期の終了日までに卒業論文を除く他の卒業に必要な単位を修得している者が、教授会の承認を得て卒業論文を提出し、その単位を修得した場合。

10. 卒業論文

(1) 履修手続き

卒業論文の題目は、2回にわたり提出することとする。題目は第1回目を4年次の5月、第2回目を4年次の11月中の定められた日までに教学課へ届け出なければならない。第2回目の題目は最終題目であり、提出後の変更は一切できない。提出の日時等詳細については

- ③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は全て学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなくてはならない。

(2) 学籍異動

① 休 学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類は教学課まで提出すること。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

なお、休学者は現学年に留まり、復学に際しては休学時の学年に復学する。

② 復 学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、2月末までに学長に願い出る。

書類は教学課まで提出すること。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学にあたっては現学年（休学した学年）に復学する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

③ 退 学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願に、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類は教学課まで提出すること。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

④ 除 籍

学費未納入の学生で、督促を受けた後も必要な手続きを怠るなど、正当な理由の認められない者に対しては、教授会の議を経て除籍する。

- (注) 1 提出書類は全てペン書とし、鉛筆書は受け付けない。
2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意すること。
3 保証人印と学生本人の印が同一のものは正式書類として受け付けない。

12. 横浜市内大学間単位互換制度

(1) 横浜市内大学間単位互換制度について

単位互換制度とは、この制度に参加する大学が提供する科目を履修し、それを所属大学の単位として認定してもらうという制度です。

この制度においては、各参加大学から、人文科学（哲学・歴史・芸術等）、社会科学（法律・政治経済等）、自然科学（物理・化学・医学工学等）のほぼ全分野にわたる科目が提供されています。自分の専攻を深めるため、あるいは自分の大学に無い分野の科目を学ぶためなど、学生の皆さんの幅広い関心と興味に応じた履修の機会が大幅に拡がることが期待されます。

今年度は、横浜市内の12大学が単位互換制度に参加します。これらの大学に在学する学

生は、所属大学の定める範囲内において、単位互換科目を履修することができます。受講料は原則として無料です。

具体的な出願方法については、「横浜市内大学間単位互換生募集要項」を参照してください。

(2) 2016年度 単位互換制度への参加大学

今年度、横浜市内大学間の単位互換に参加する大学・学部は次のとおりです。

- ・ 神奈川大学 法学部、経済学部、外国語学部、人間科学部、工学部、経営学部、理学部
- ・ 関東学院大学 文学部、経済学部、法学部、人間環境学部、理工学部、建築・環境学部、看護学部、国際文化学部、社会学部、教育学部、栄養学部、人間共生学部
- ・ 國學院大學 文学部、法学部、経済学部、神道文化学部
- ・ 鶴見大学 文学部
- ・ 桐蔭横浜大学 法学部、医用工学部、スポーツ健康政策学部
- ・ 東洋英和女学院大学 人間科学部、国際社会学部
(ただし、受入れは女子学生のみ)
- ・ フェリス女学院大学 文学部、国際交流学部、音楽学部
(ただし、受入れは女子学生のみ)
- ・ 東京都市大学 環境情報学部、環境学部、メディア情報学部
- ・ 横浜国立大学 教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部
- ・ 横浜商科大学 商学部
- ・ 横浜市立大学 国際総合科学部
- ・ 明治学院大学 社会学部、国際学部

(3) 本学文学部における単位互換履修の取り扱い

① 出願資格

本学では、単位互換履修の出願資格を以下のとおり定めます。

《日本文学科》

すべての学年で単位互換履修の申請ができます。ただし、1年生は、後期開講科目のみの履修が可能です。

《英語英米文学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

《文化財学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

《ドキュメンテーション学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

② 履修可能単位数および卒業所要単位への算入方法

全学科とも履修科目数・単位数に上限はありません。また、単位互換により修得した単位は、本学で修得した単位として認定されます。ただし、単位互換により修得した単位のうち、卒業所要単位に算入できる単位数の上限は8単位とします。

13. 東京国立博物館キャンパスメンバーズ

文学部学生は、東京国立博物館キャンパスメンバーズに加入しています。東京国立博物館に入館する際に、本学生証を提示してください。総合文化展（常設展）の無料観覧、博物館セミナーへの参加、特別展の入場料の割引等が適用されますので、活用してください。

14. その他の注意事項

(1) 掲 示

履修をはじめ教務に関する学生への通知事項は、すべて教学課の掲示板に発表するので、登校下校の際は必ず掲示板を見ること。

(2) 問い合わせ

行事予定、休講、その他授業及び試験等に関しての電話での問い合わせにはいっさい応じない。

必要ある場合は、登校のうえ、掲示板を見るか教学課に出向いて問い合わせること。

(3) 健康診断

春の定期健康診断は必ず受けなければならない。これを受けなければ諸証明書の発行及び教育実習は認められない。

(4) 証明書発行について

各種証明書の発行については、証明書自動発行機及び教学課窓口申込の2通りの方法がある。教学課で発行する証明書及び手数料は次のとおりである。

①証明書自動発行機による発行

事 項	手数料	交付日	有効期限	備 考
単位成績証明書（和文）	200	即日	3ヶ月	
単位修得証明書（和文）	200	〃	〃	
卒業見込証明書（和文）	100	〃	〃	履修登録終了後より発行
教員免許状取得見込証明書	100	〃	〃	〃
司書資格取得見込証明書	100	〃	〃	〃
学芸員資格取得見込証明書	100	〃	〃	〃
在学証明書（和文）	100	〃	〃	

(イ) 利用時間は教学課窓口取扱時間内とする。

※大学行事、メンテナンス等により利用時間が変更となる場合には、掲示及び鶴見大学ポータルシステムで知らせる。

(ロ) 証明書自動発行機の操作には、学生証と鶴見大学ポータルシステムのログイン用パスワードが必要である。操作方法は証明書自動発行機に表示される手順に従って行うこと。

(ハ) 証明書用封筒は教学課窓口にある。また、厳封が必要な場合には教学課窓口に出ること。

(ニ) 証明書自動発行機での証明書発行は在学生のみにとなる。4年生については卒業式以降の証明書発行は、教学課窓口での申込受付となるので注意すること。

②教学課窓口申込による発行

事 項	手数料(円)		交 付 日	有効期限
	和文	英文		
単 位 成 績 証 明 書	200	1000	3日以降 (英文は7日以降)	3ヶ月
単 位 修 得 証 明 書	200		3日以降	〃
卒 業 (見 込) 証 明 書	100	500	3日以降 (英文は7日以降)	〃
教員免許状取得見込証明書	100		3日以降	〃
司書資格取得(見込)証明書	100		〃	〃
学芸員資格取得(見込)証明書	100		〃	〃
調 査 書 (大 学 院 受 験 用)	1000		7日以降	〃
在 籍 証 明 書	100		3日以降	〃
在 学 証 明 書	100	500	〃 (英文は7日以降)	〃
備考 英文による証明書は同文2通目からは全て200円とする。				

申し込みは、所定用紙に必要事項を記入し、手数料相当の証紙を貼付のうえ申し込むこと。
 なお、英文証明書申し込みの際は、教学課に相談すること。

(ホ) 証明書は学生証を提示のうえ交付を受けること。

(ハ) 証明書交付の所要日数は原則として3日以降とする。ただし、調査書(大学院受験用)及び英文による証明書は7日以降とする。また、4月から7月と3月はたいへん混雑が予想されるので、掲示に注意し十分余裕をもって申し込むこと。

(ト) 在学証明書以外の証明書は原則として卒業年次生について発行する。

(5) 事務室の事務取り扱い時間

◇授業実施期間 (※補講を含む)

月～金曜日 8時50分～18時00分

土曜日 8時50分～13時00分

◇上記以外の期間

月～金曜日 8時50分～16時50分

土曜日 8時50分～13時00分

ただし、春、夏、冬の休暇および定期試験期間の事務取り扱い時間については、その都度掲示で連絡する。

教 育 課 程

白紙

日 本 文 学 科

白紙

平成21～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	2			
専門科目	必修科目	24 単位		72 単位以上		
	必修選択科目	4 単位以上				
	選択科目	40 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成 28 年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

④基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)宮崎和広 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志、平川澄子、 鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) 草薙優加 (b) 上村祐子 (c) 大淵利春 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 宮下治政 (b) 山口哲央 (c) 菅野素子 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) 松山明子 (b) 上村祐子 (c) 大淵利春 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 富岡悦子 (e)(f)(g) 塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 富岡悦子 (e)(f)(g) 塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(h)(k) 田中智幸 (i) 内田じゅん子 (j) 平井 徹 (L) 土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(h)(k) 田中智幸 (i) 内田じゅん子 (j) 平井 徹 (L) 土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c) 富岡悦子 (d) 塚本由美	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c) 富岡悦子 (d) 塚本由美	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e) 田中智幸 (f) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e) 田中智幸 (f) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、IA・IBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）IA・IBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・パリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	

言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	注1

注1 平成24年度入学生より共通科目として開講。平成23年度以前入学生は資格課程科目（司書・宗侶）として開講。

㊦生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 平成24年度入学生より体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

㊦キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1) 鈴木かおり (2)(3) 横山 博	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a) 横山 博 (b) 松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b) 手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

日本文学科では、国文学と日本語学を学ぶ。

そのために、日本文学科のカリキュラムには、いろいろの配慮がなされているが、大きくとらえれば、基礎的学力を重視することと、学生一人一人の興味や関心を伸ばすことの、二点が挙げられる。

まず、日本文学科の学生として、どうしても身につけておいてもらいたい、いわば学習上の核になる科目を必修科目として置いてある。たとえば1年次の「基礎古文」「基礎漢文」「現代文読解」などを学ぶことで基礎的学力を固め、以後の学習の土台を作り上げることをめざす。2年次の「国文学講読」「国文学概論」「日本語学概論」で、国文学・日本語学に関するおおまかな見通しを学び、学習・研究の方法を身につけるようにする。また、国文学・日本語学と密接な関係を持つ中国文学についても、「漢文講読」「中国古典文学」などを学ぶことになる。

その上で、2年次から4年次に配当されている国文学・日本語学に関する科目を、一人一人の学生の関心に応じて選択して学び、興味のある分野について、より深く学習することができるように工夫してある。「国文学史」「日本語史」「国文学演習」「日本語学演習」および上代から近代に至る、各時代の文学の「講義」、「日本語学講義」などがそれである。

これらの科目は、すべての時代、分野にわたって、ひろく学んでもよいし、自分の関心に応じて、ある分野に重点を置いて学んでもよい。たとえば古典文学あるいは近代文学に興味のある学生は、古典文学あるいは近代文学関係の文学史、演習、講義を重点的に選択して学ぶことができる。日本語学に興味がある学生は、日本語史、日本語学演習、日本語学講義を重点的に選択することができるのである。

これらの科目以外にも、関連科目として「中国文学史」「有職故実」など、他の学科の専門科目も含めて選択できるようになっていて、学生の幅広い興味にこたえられるように配慮してある。また、社会に直結する科目として、「教職国語科」「就職日本語」が用意されている。各々の進路希望に従って学ぶことになる。

こうして学習を積み重ねて、力を養った上で、学生生活の総決算とも言うべき「卒業論文」を作成することになる。一人一人、それぞれの関心に応じて国文学・日本語学に関するテーマを決め、成果をまとめるのである。

なお、日本文学科では、修得した国文学・日本語学の単位を基礎として、国語の教育職員免許状（高等学校教諭一種・中学校教諭一種）を取得することができるし、書道専門科目を修得することで、書道の教育職員免許状（高等学校教諭一種）を取得することもできる。

国文学・日本語学そのものを深く学ぶ、あるいは資格を目指す。いずれにせよ生き生きとした興味を持って、広く豊かに学び、充実した学生生活を送ってもらいたいものである。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎古文	2	通年	(a)平藤 幸 (b)石澤一志 (c)新沢典子 (d)須藤 敬 (e)丸山陽子	1		注
基礎漢文	2	通年	(a)(d)阿部光麿 (b)(c)田中智幸	1		注

現代文読解	2	通年	(a)(d) 奥村英司 (b) 小橋孝子 (c) 小原佳那子	1		注
漢文講読	2	通年	(a) 金文京 (b)(c)(d) 菊地隆雄	2		注
国文学概論	4	通年	(a) 神林尚子 (b) 石澤一志	2		
日本語学概論	4	通年	(a) 久保田篤 (b) 小林恭治	2		
中国古典文学	4	通年	金文京	3		
専門英語	2	通年	(a)(b) ベルシアーニ (c)(d) 大野ロベルト	3		
卒業論文指導	2	通年	(a) 新沢典子 (b) 高田信敬 (c) 中川博夫 (d) 神林尚子 (e) 片山倫太郎 (f) 山田吉郎 (g) 久保田篤	4		
卒業論文	4		(a) 新沢典子 (b) 高田信敬 (c) 中川博夫 (d) 神林尚子 (e) 片山倫太郎 (f) 山田吉郎 (g) 久保田篤	4		
必要単位合計	28					

注) 指定されたクラスで履修すること。

②必修選択科目

以下の科目から2科目4単位以上を修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学講読(古典)	2	通年	(a) 丸山陽子 (b) 石澤一志 (c) 平藤 幸 (d) 神林尚子	2		
国文学講読(近代)	2	通年	(a) 片山倫太郎 (b) 岩田ななつ	2		
日本語学資料処理	2	通年	岡崎友子	2		

③選択科目

以下の A、B、C 各群で規定された修得条件を充足し、かつ合計40単位以上修得すること。

(1) 選択A群

以下の科目の中から8単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学史(上代・中古)	4	通年	山本令子	2・3・4	○	
国文学史(中世・近世)	4	通年	平藤 幸	2・3・4	○	
国文学史(近代)	4	通年	片山倫太郎	2・3・4	○	
日本語史	4	通年	広瀬満希子	2・3・4	○	

(2) 選択B群

以下の科目の中から12単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学演習 (上代・中古)Ⅰ	4	通年	高田信敬	2・3・4		
国文学演習 (上代・中古)Ⅱ	4	通年	新沢典子	2・3・4		
国文学演習 (上代・中古)Ⅲ	4	通年	山本令子	2・3・4		
国文学演習 (中世・近世)Ⅰ	4	通年	平藤 幸	2・3・4		
国文学演習 (中世・近世)Ⅱ	4	通年	中川博夫	2・3・4		
国文学演習 (中世・近世)Ⅲ	4	通年	神林尚子	2・3・4		
国文学演習 (近代)Ⅰ	4	通年	山田吉郎	2・3・4		
国文学演習 (近代)Ⅱ	4	通年	岩田ななつ	2・3・4		
国文学演習 (近代)Ⅲ	4	通年	小橋孝子	2・3・4		
日本語学演習Ⅰ	4	通年	須藤 敬	2・3・4		
日本語学演習Ⅱ	4	通年	須藤 敬	2・3・4		
日本語学演習Ⅲ	4	通年	広瀬満希子	2・3・4		

(3) 選択C群

以下の科目の中から4単位以上を修得すること。ただし、備考欄に※印のついた科目を1科目以上含んでいなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
日本語学入門	4	通年	小原佳那子	1		
中国文学演習	4	通年	金 文京	3・4		
上代文学講義Ⅰ	4	通年	新沢典子	3・4	○	
上代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
中古文学講義Ⅰ	4	通年	高田信敬	3・4	○	※
中古文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
中世文学講義Ⅰ	4	通年	中川博夫	3・4	○	※
中世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
近世文学講義Ⅰ	4	通年	神林尚子	3・4	○	※
近世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
近代文学講義Ⅰ	4	通年	片山倫太郎	3・4	○	※
近代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
日本語学講義Ⅰ	4	通年	小林恭治	3・4	○	※
日本語学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※28年度閉講
中国文学史	4	通年	金 文京	3・4	○	

書道史	4	通年	石井清和	3・4	○	
古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
教職国語科	4	通年	岩間正則	3・4		
就職日本語	4	通年	須藤 敬	3・4		
有職故実Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
有職故実Ⅱ	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	

【書道専門科目】

カリキュラムの目的及び特徴

書道専門科目は教育職員免許状取得希望者のために開講する。取得資格を満たすために、本書100頁以後の注意を読んで誤りがないように履修登録をすること。また「書道Ⅴ・Ⅵ」は、学内展示への出品が単位認定の要件になる。

各科目の内容

詳しくは「文学部授業概要」で確認すること。

- ・Ⅰは漢字で、結構法、楷書・行書の臨書を学ぶ。
- ・Ⅱはかなで、基本、古筆の臨書を学ぶ。
- ・Ⅲは漢字で、隷書・草書の臨書を学ぶ。
- ・Ⅳはかなで、古筆の臨書を学ぶ。変体がなの読みに習熟する。
- ・Ⅴ・Ⅵでは、漢字・かなの古典を臨書し、作品制作と展覧会の準備・開催を経験する。

これら実技科目以外にも日本文学科の開講科目には、免許状取得の必修科目「書道史」「古筆鑑賞」「書道科教育法」がある。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
書道Ⅰ（漢字）	2	通年	(a)(b) 田村南海子	全学年	
書道Ⅱ（かな）	2	通年	(a)(b)(c) 松本文子	2・3・4	
書道Ⅲ（漢字）	2	通年	石井清和	2・3・4	
書道Ⅳ（かな）	2	通年	松本文子	3・4	
書道Ⅴ	2	通年	松本文子	4	
書道Ⅵ	2	通年	—————	4	28年度閉講
必要単位合計	10				

※ 中学校（国語）の免許状取得希望者は書道Ⅰ・書道Ⅱが必修科目である。2年次以後、書道Ⅰと書道Ⅱを同時に履修してもよい。書道Ⅲは書道Ⅰの単位を、書道Ⅳは書道Ⅱの単位を修得しなければ履修することができない。また、書道Ⅴ並びに書道Ⅵは、書道Ⅰおよび書道Ⅱの2科目の単位を修得しなければ履修することができない。

白紙

英語英米文学科

白紙

平成28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	32 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	16 単位以上		
	キャリア形成科目	2	—			
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	計	12	4			
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

④基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	下室覚道	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a) 宮崎和広 (b) 小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期		2	
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期		2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期		2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期		2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期		2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期		2	
中国語ⅡA	1	必選	前期		2	
中国語ⅡB	1	必選	後期		2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期		2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期		2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期		2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期		2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期		2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期		2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期		2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期		2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期		2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期		2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)(3)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期		2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期		2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期		2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期		2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期		2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期		3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科はコース制を取り入れている。1. 英語コミュニケーションコース（英語で話したり書いたりするといった実践的な英語能力の養成に最重点を置くコース）、2. 英語文学コース（英語で書かれた様々な文学を読み、人間と社会の関係を深く考察するコース）、3. 国際文化コース（広く世界の文化を学び、グローバル化した世界についての知識と認識を深めるコース）、4. 英語教育コース（幼児から高校生までの英語教育に関わる能力を養成するコース）の4つのコースが設けられている。2年次から各自の希望により4つのいずれかに所属して、そのコースに特徴的な科目を重点的に学ぶことにより、目的意識を強く持ち、学習効果がより高められることを意図している。それぞれのコースで履修しなくてはならない科目を指定するが、他のコースの科目も履修することができ、各自の関心で自由に履修できる科目もあるので、それらの単位を総合して卒業単位に組み入れることになる。実態は比較的緩やかなコース制ということができる。

必修科目である「リーディング」（1年）、「ライティング」（1年）、「オーラル・コミュニケーションⅠ」（1年）、「オーラル・コミュニケーションⅡ」（1年）は学科の基礎の科目であるが、さらなる英語能力の向上のため、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ」（2年）と「メディア・イングリッシュ」（3年）も必修とする。一方で、小人数編成のクラスで「教養演習」（1年）、「特別演習Ⅰ」（2年）及び「特別演習Ⅱ」（3年）を必修としているのは、情報の取得と調査方法、その整理と発表の方法、レポートの書き方を学び、それらの学習を踏まえ、専門的な内容の研究をすることを段階的に指導するためである。このうち「特別演習Ⅱ」及び「卒業研究」は、各コースに対応した内容で履修できる。最終学年に履修する「卒業研究」では、それぞれのコースにふさわしい内容の研究が、小論文という形式で、それまでの学習が総合された結果として示されることを期待している。

なお、1年次の「リーディング」と「ライティング」の2科目は、プレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
リーディング	2	通年	(a) 深谷素子 (b) 草薙優加 (c) 菅野素子 (d) 鈴木周太郎	1		注1
ライティング	2	通年	(a) 有賀明子 (b) 眞川まりこ (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注1
オーラル・コミュニケーションⅠ	2	通年	(a)(b) モリグチ (c)(d) ベイドン	1		注1
オーラル・コミュニケーションⅡ	2	通年	(a)(b) ミラー (c)(d) モリグチ	1		注1
教養演習	4	通年	(a) 松山明子 (b) 宮下治政 (c) 加川順治 (d) 草薙優加 (e) 根岸純子	1		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュ	2	通年		2		注1
特別演習Ⅰ	4	通年		2		注1
メディア・イングリッシュ	4	通年		3		注1
特別演習Ⅱ	4	通年		3		注1

卒業研究	6	通年		4		注2
必要単位合計	32					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教学課に提出しなければならない。

② 選択科目

以下の(1) 選択A群・(2) 選択B群で規定された、コース毎の修得条件を充足し、かつ(1)・(2)の中から、合計46単位以上修得すること。

(1) 選択A群

各自が選択したコースに指定された科目のいずれか一つを含み、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
イギリス文学概論	4	通年	菅野素子	全学年		○		○	○	
アメリカ文学概論	4	通年	深谷素子	全学年		○		○	○	
イギリス文化概論	4	通年	渡辺一美	全学年			○		○	
アメリカ文化概論	4	通年	鈴木周太郎	全学年			○		○	
英語学概論	4	通年	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語コミュニケーション概論	4	通年	草薙優加	全学年	○				○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに指定された科目の中から20単位以上を修得しなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○			○	○	★隔年開講 28年度閉講
海外文化研修	4	集中	菅野素子 深谷素子	全学年			○	○	○	★隔年開講
TOEIC IA	2	集中	(a)内田 愛 (b)鏑木 元	全学年	○				○	土曜午後前期 集中/受講者 全員IP受験 注3
TOEIC IB	2	集中	鏑木 元	全学年	○				○	土曜午後後期 集中/受講者 全員IP受験
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○				○	隔年開講夏季 集中 28年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	コネリー	全学年	○				○	隔年開講夏季 集中
イギリス史	4	通年	土方史織	全学年			○	○	○	
アメリカ史	4	通年	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
英語文学入門A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	全学年		○				

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
英語文学入門B	2	後期	宮崎敬子	全学年		○				
英 文 法	4	通年	(a)眞川まりこ (b)片山七三雄	全学年				○		
スクリーン・イングリッシュ	4	通年		2・3・4			○			
英語音声学	4	通年		2・3・4			○			
エッセイ・ライティング	4	通年		2・3・4		○		○		
ビジネス・ライティング	4	通年		2・3・4	○		○			
プレゼンテーション・スキル	4	通年		2・3・4	○			○		
コミュニケーション・スキルI	4	通年		2・3・4	○					
リーディング・スキル	4	通年		2・3・4		○				
TOEIC II A	2	集中		2・3・4	○				○	土曜午後前期 集中 / 受講者 全員IP受験 注4
TOEIC II B	2	集中		2・3・4	○				○	土曜午後後期 集中 / 受講者 全員IP受験 注4
イギリス小説研究A	2	前期		2・3・4		○				
イギリス小説研究B	2	後期		2・3・4		○				
アメリカ小説研究A	2	前期		2・3・4		○				
アメリカ小説研究B	2	後期		2・3・4		○				
英米児童文学研究A	2	前期		2・3・4		○			○	
英米児童文学研究B	2	後期		2・3・4		○			○	
イギリス文化研究A	2	前期		2・3・4			○		○	
イギリス文化研究B	2	後期		2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究A	2	前期		2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究B	2	後期		2・3・4			○		○	
英語教育研究 A	2	前期		2・3・4				○		
英語教育研究 B	2	後期		2・3・4				○		
特 別 実 習	2	集中		2・3・4	○	○	○	○		
特 別 英 語 研 修	2	集中		2・3・4	○	○	○	○		28年度閉講
異文化間コミュニケーション研究	4	通年		3・4	○			○	○	
翻 訳 演 習	4	通年		3・4		○				
英 米 詩 研 究	2	前期		3・4		○				
英 米 演 劇 研 究	2	後期		3・4		○				
比較文化研究 A	2	前期		3・4			○		○	
比較文化研究 B	2	後期		3・4			○		○	
社会言語学研究	4	通年		3・4	○			○	○	
国際文化研究 A	2	前期		3・4			○		○	
国際文化研究 B	2	後期		3・4			○		○	
コミュニケーション・スキルII	4	通年		3・4	○					

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

注4) TOEIC IA・IB 履修者及び TOEIC 受験経験者対象。

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

平成24～27年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	32 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	16 単位以上		
	キャリア形成科目	2	—			
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	計	12	4			
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	下室覚道	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a) 宮崎和広 (b) 小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)(3)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)横山 博 (b)松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科はコース制を取り入れている。1. 英語コミュニケーションコース（英語で話したり書いたりするといった実践的な英語能力の養成に最重点を置くコース）、2. 英語文学コース（英語で書かれた様々な文学を読み、人間と社会の関係を深く考察するコース）、3. 国際文化コース（広く世界の文化を学び、グローバル化した世界についての知識と認識を深めるコース）、4. 英語教育コース（幼児から高校生までの英語教育に関わる能力を養成するコース）の4つのコースが設けられている。2年次から各自の希望により4つのいずれかに所属して、そのコースに特徴的な科目を重点的に学ぶことにより、目的意識を強く持ち、学習効果がより高められることを意図している。それぞれのコースで履修しなくてはならない科目を指定するが、他のコースの科目も履修することができ、各自の関心で自由に履修できる科目もあるので、それらの単位を総合して卒業単位に組み入れることになる。実態は比較的緩やかなコース制ということができる。

必修科目である「リーディング」（1年）、「ライティング」（1年）、「オーラル・コミュニケーションⅠ」（1年）、「オーラル・コミュニケーションⅡ」（1年）は学科の基礎の科目であるが、さらなる英語能力の向上のため、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ」（2年）と「メディア・イングリッシュ」（3年）も必修とする。一方で、小人数編成のクラスで「教養演習」（1年）、「特別演習Ⅰ」（2年）及び「特別演習Ⅱ」（3年）を必修としているのは、情報の取得と調査方法、その整理と発表の方法、レポートの書き方を学び、それらの学習を踏まえ、専門的な内容の研究をすることを段階的に指導するためである。このうち「特別演習Ⅱ」及び「卒業研究」は、各コースに対応した内容で履修できる。最終学年に履修する「卒業研究」では、それぞれのコースにふさわしい内容の研究が、小論文という形式で、それまでの学習が総合された結果として示されることを期待している。

なお、1年次の「リーディング」と「ライティング」の2科目は、プレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
リーディング	2	通年	(a) 深谷素子 (b) 草薙優加 (c) 菅野素子 (d) 鈴木周太郎	1		注1
ライティング	2	通年	(a) 有賀明子 (b) 眞川まりこ (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注1
オーラル・コミュニケーションⅠ	2	通年	(a)(b) モリグチ (c)(d) ペイドン	1		注1
オーラル・コミュニケーションⅡ	2	通年	(a)(b) ミラー (c)(d) モリグチ	1		注1
教養演習	4	通年	(a) 松山明子 (b) 宮下治政 (c) 加川順治 (d) 草薙優加 (e) 根岸純子	1		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュ	2	通年	(a) 広川 治 (b)(d) 市川泰弘 (c) 片山七三雄	2		注1
特別演習Ⅰ	4	通年	(a) 渡辺一美 (b) 松山明子 (c) 宮下治政 (d) 根岸純子 (e) 菅野素子	2		注1
メディア・イングリッシュ	4	通年	(a) 伊藤満里 (b)(d) 野川浩美 (c) 渡部孝治	3		注1
特別演習Ⅱ	4	通年	(a) コネリー (b) ミラー (c) 深谷素子 (d) 草薙優加 (e) 鈴木周太郎 (f) 渡辺一美	3		注1

卒業研究	6	通年	(a)コネリー (b)ミラー (c)菅野素子 (d)深谷素子 (e)根岸純子 (f)鈴木周太郎 (g)渡辺一美	4		注2
必要単位合計	32					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教学課に提出しなければならない。

②選択科目

以下の(1) 選択A群・(2) 選択B群で規定された、コース毎の修得条件を充足し、かつ(1)・(2)の中から、合計46単位以上修得すること。

(1) 選択A群

各自が選択したコースに指定された科目のいずれか一つを含み、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
イギリス文学概論	4	通年	菅野素子	全学年		○		○	○	
アメリカ文学概論	4	通年	深谷素子	全学年		○		○	○	
イギリス文化概論	4	通年	渡辺一美	全学年			○		○	
アメリカ文化概論	4	通年	鈴木周太郎	全学年			○		○	
英語学概論	4	通年	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語コミュニケーション概論	4	通年	草薙優加	全学年	○				○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに指定された科目の中から20単位以上を修得しなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○			○	○	★隔年開講 28年度閉講
海外文化研修	2	集中	菅野素子 深谷素子	全学年			○	○	○	★隔年開講
TOEIC IA	2	集中	(a)内田 愛 (b)鏑木 元	全学年	○				○	土曜午後前期 集中/受講者 全員IP受験 注3
TOEIC IB	2	集中	鏑木 元	全学年	○				○	土曜午後後期 集中/受講者 全員IP受験
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○				○	隔年開講夏季 集中 28年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	コネリー	全学年	○				○	隔年開講夏季 集中
イギリス史	4	通年	土方史織	全学年			○	○	○	
アメリカ史	4	通年	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
英語文学入門A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	全学年		○				

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
英語文学入門B	2	後期	宮崎敬子	全学年		○				
英 文 法	4	通年	(a)眞川まりこ (b)片山七三雄	全学年				○		
スクリーン・イングリッシュ	4	通年	ミラー	2・3・4			○			
英語音声学	4	通年	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
エッセイ・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子	2・3・4		○		○		
ビジネス・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4	○		○			
プレゼンテーション・スキル	4	通年	根岸純子	2・3・4	○			○		
コミュニケーション・スキルI	4	通年	(a)コネリー (b)ミラー	2・3・4	○					
リーディング・スキル	4	通年	(a)有賀明子 (b)福島君子	2・3・4		○				
TOEIC II A	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後前期 集中/受講者 全員IP受験 注4
TOEIC II B	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後後期 集中/受講者 全員IP受験 注4
イギリス小説研究A	2	前期	コネリー	2・3・4		○				
イギリス小説研究B	2	後期	コネリー	2・3・4		○				
アメリカ小説研究A	2	前期	深谷素子	2・3・4		○				
アメリカ小説研究B	2	後期	深谷素子	2・3・4		○				
英米児童文学研究A	2	前期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
英米児童文学研究B	2	後期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
イギリス文化研究A	2	前期	土方史織	2・3・4			○		○	
イギリス文化研究B	2	後期	土方史織	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究A	2	前期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究B	2	後期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
英語教育研究A	2	前期	根岸純子	2・3・4				○		
英語教育研究B	2	後期	根岸純子	2・3・4				○		
特別実習	2	集中	加川順治	2・3・4	○	○	○	○		
異文化間コミュニケーション研究	4	通年	松山明子	3・4	○			○	○	
翻訳演習	4	通年	菅野素子	3・4		○				
英米詩研究	2	前期	内田 愛	3・4		○				
英米演劇研究	2	後期	木村利夫	3・4		○				
比較文化研究A	2	前期	加川順治	3・4			○		○	
比較文化研究B	2	後期	富岡悦子	3・4			○		○	
社会言語学研究	4	通年	松山明子	3・4	○			○	○	
国際文化研究A	2	前期	富岡悦子	3・4			○		○	
国際文化研究B	2	後期	加川順治	3・4			○		○	
コミュニケーション・スキルII	4	通年	(a)ミラー (b)コネリー	3・4	○					

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

注4) TOEIC IA・IB 履修者及び TOEIC 受験経験者対象。

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	32 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	12	4			
専門科目	必修科目	34 単位			78 単位以上	
	選択科目	44 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成 28 年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	下室覚道	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a) 宮崎和広 (b) 小林恭治	1	
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)(3)鈴木かおり	1	
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)横山 博 (b)松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科では二つのことを学ぶ。コミュニケーションのための英語、そしてイギリス、アメリカの言語、文化、文学である。カリキュラムは、使える英語の能力に加えて研究およびプレゼンテーションの能力を磨くと同時に、英米の文化と言葉についての理解を深めることにより、確かなコミュニケーションの能力を育てるように作られている。

特に少人数のクラス編成による英語スキルを学ぶ『必修科目』および海外研修や集中科目の「オーラル・コミュニケーション」を含む『選択必修英語科目』を通じて、英語の基礎力、コミュニケーション能力を卒業時まで身に付ける。

同時に1年次の「教養演習」から4年次の「卒業研究」へと続く演習セミナーでは、調査、分析、発表のための力を育て、自分の考えを効果的に発表するためのコミュニケーションの能力を一貫して養成する。「教養演習」においては、読書、資料収集、レポートの書き方、発表の仕方等を指導しながら、学習、発表技能の基礎を築く。「特別演習Ⅰ」においては、英語資料の読解、分析を含めて、調査、発表の力を伸ばす。「特別演習Ⅱ」においては、さらに英語にかかわるコミュニケーション、英語学、英米文化、英語文学等、特定の分野についての調査、発表力を身につける。「卒業研究」においては、コミュニケーション、英語学、英米文学、英語文学、あるいはこれらの関連領域について、セミナーと個人指導を通じて、調査、発表の力を発展させる。その成果をまとめる意味で「卒業研究」では小論文の提出が課せられる。

調査、発表の能力を高度に発展させるためには、専門的な文化、文学、ことばについての知識と理解を深めてゆくことが不可欠である。『選択必修概論科目』、および『選択科目』の授業においては、英米の文学、文化、英語学についての専門的な科目を通じて、こうした知識と同時に、文化、言葉と人間性の問題について学び、考える。これらの科目群が選択科目となっているのは、学生各自に主体的関心を持って学んでほしいからである。授業概要をよく読んで、何を勉強したいのかよく考えて履修してほしい。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
リーディング	2	通年	(a) 深谷素子 (b) 草薙優加 (c) 菅野素子 (d) 鈴木周太郎	1		注1
ライティング	2	通年	(a) 有賀明子 (b) 眞川まりこ (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注1
オーラル・コミュニケーションⅠ	2	通年	(a)(b) モリグチ (c)(d) ペイドン	1		
オーラル・コミュニケーションⅡ	2	通年	(a)(b) ミラー (c)(d) モリグチ	1		
教養演習	4	通年	(a) 松山明子 (b) 宮下治政 (c) 加川順治 (d) 草薙優加 (e) 根岸純子	1		注1
コプリヘンジブ・イングリッシュ	2	通年	(a) 広川 治 (b)(d) 市川泰弘 (c) 片山七三雄	2		
オーラル・コミュニケーションⅢ	2	通年	(a) コネリー (b) ミラー	2		注2
特別演習Ⅰ	4	通年	(a) 渡辺一美 (b) 松山明子 (c) 宮下治政 (d) 根岸純子 (e) 菅野素子	2		

メディア・イングリッシュ	4	通年	(a)伊藤満里 (b)(d)野川浩美 (c)渡部孝治	3		注1
特別演習Ⅱ	4	通年	(a)コネリー (b)ミラー (c)深谷素子 (d)草薙優加 (e)鈴木周太郎 (f)渡辺一美	3		注1
卒業研究	6	通年	(a)コネリー (b)ミラー (c)菅野素子 (d)深谷素子 (e)根岸純子 (f)鈴木周太郎 (g)渡辺一美	4		注3
必要単位合計	34					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) オーラル・コミュニケーションⅢの再履修者は人数制限科目登録期間に履修登録すること。なお、希望するクラスの抽選にもれた場合は教学課まで申し出ること。

注3) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教学課に提出しなければならない。

②選択科目

以下の(1)選択必修英語科目・(2)選択必修概論科目で規定された修得条件を充足し、かつ(1)・(2)・(3)の中から、合計44単位以上修得すること。

(1) 選択必修英語科目

以下の科目の中から、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
英文法	4	通年	(a)眞川まりこ (b)片山七三雄	全学年		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○	★隔年開講 28年度閉講
海外文化研修	2	集中	菅野素子 深谷素子	全学年	○	★隔年開講
TOEIC I A	2	集中	(a)内田 愛 (b)鏑木 元	全学年	○	土曜午後前期集中 受講者全員IP受験 注3
TOEIC I B	2	集中	鏑木 元	全学年	○	土曜午後後期集中 受講者全員IP受験
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○	隔年開講夏季集中 28年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	コネリー	全学年	○	隔年開講夏季集中
リーディング・スキル	4	通年	(a)有賀明子 (b)福島君子	2・3・4		
コミュニケーション・スキル	4	通年	(a)ミラー (b)コネリー	2・3・4		
プレゼンテーション・スキル	4	通年	根岸純子	2・3・4		
エッセイ・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子	2・3・4		
ビジネス・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4		
TOEIC II A	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○	土曜午後前期集中 受講者全員IP受験
TOEIC II B	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○	土曜午後後期集中 TOEIC I A・I B履 修者およびTOEIC 受験経験者対象 受講者全員IP受験

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

(2) 選択必修概論科目

以下の科目の中から、8単位以上を修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
イギリス文学概論	4	通年	菅野素子	全学年	○	
アメリカ文学概論	4	通年	深谷素子	全学年	○	
イギリス文化概論	4	通年	渡辺一美	全学年	○	
アメリカ文化概論	4	通年	鈴木周太郎	全学年	○	
英語学概論	4	通年	宮下治政	全学年	○	
英語コミュニケーション概論	4	通年	草薙優加	全学年	○	

(3) 選択科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
イギリス史	4	通年	土方史織	全学年	○	
アメリカ史	4	通年	鈴木周太郎	全学年	○	
スクリーン・イングリッシュ	4	通年	ミラー	全学年		
英語音声学	4	通年	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4		
英米文学演習A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	2・3・4		
英米文学演習B	2	後期	宮崎敬子	2・3・4		
イギリス小説研究A	2	前期	コネリー	3・4		
イギリス小説研究B	2	後期	コネリー	3・4		
アメリカ小説研究A	2	前期	深谷素子	3・4		
アメリカ小説研究B	2	後期	深谷素子	3・4		
英米詩研究	2	前期	内田 愛	3・4		
英米演劇研究	2	後期	木村利夫	3・4		
英米児童文学I	2	前期	渡辺一美	3・4	○	
英米児童文学II	2	後期	渡辺一美	3・4	○	
英語学研究A	2	前期	根岸純子	3・4		
英語学研究B	2	後期	根岸純子	3・4		
イギリス文化研究A	2	前期	土方史織	3・4	○	
イギリス文化研究B	2	後期	土方史織	3・4	○	
アメリカ文化研究A	2	前期	鈴木周太郎	3・4	○	
アメリカ文化研究B	2	後期	鈴木周太郎	3・4	○	
比較文化研究	2	前期	加川順治	3・4	○	
比較文学研究	2	後期	富田悦子	3・4	○	
異文化間コミュニケーション研究	4	通年	松山明子	3・4	○	
社会言語学研究	4	通年	松山明子	3・4	○	
翻訳演習	4	通年	菅野素子	3・4		

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

白紙

文化財学科

白紙

平成24～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	4			
専門科目	必修科目	40 単位		78 単位以上		
	選択科目	32 単位以上				
	卒業論文	6 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	下室覚道	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

②外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a)渡邊 俊 (b)内田 愛 (再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a)伊藤満里 (b)椀台七重 (再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a)渡邊 俊 (b)内田 愛 (再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語 II B	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	必選	前期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
ドイツ語 II B	1	必選	後期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
中国語 II A	1	必選	前期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
中国語 II B	1	必選	後期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講

◎必修選択科目の外国語(フランス語・ドイツ語・中国語)より1ヵ国語を選択し、I A・I B、II A・II Bの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)横山 博 (b)松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

文化財学科の専門科目では、文化財に対する知識を得るだけでなく、それらを実際に取り扱い、分析・研究し、保存修復できるよう、実物・実地学習にも重点を置いている。

文化財を理解し、その生み出された背景を知るために、1・2年次において必修の「基礎概説科目」として1年次にオムニバス形式の文化財研究法、1・2年次に考古学・文化人類学・地理学、2年次に博物館学概論・博物館経営論・歴史資料講読を置いている。また、文化財の扱いについて精通するため、1年次から4年次まで必修の「実習科目」が用意されている。3年次進級時に、必修の「演習科目」の指導教員並びに自己の専攻分野を決定する。卒業論文は演習の担当教員によって指導される。

2年次より履修できる選択科目（専攻科目）は、1期で完結する多数の科目が3系列にわかれている。自己の専攻とする系列だけではなく、幅広い選択履修が望ましい。

①必修科目

区分	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎概説科目	文化財研究法	4	通年	石田千尋・田中和彦・緒方啓介 伊藤正義・小池富雄・宗基秀明 下室覚道・星野玲子	1		注
	考古学	4	通年	田中和彦	1・2	○	
	文化人類学	4	通年	鈴木佑記	1・2	○	
	地理学	4	通年	落合康浩	1・2	○	
	博物館概論	2	前期	緒方啓介	2		
	博物館経営論	2	後期	小池富雄	2		
実習科目	歴史資料講読	2	前期	伊藤正義	2		
	実習ⅠA(巡検)	2	集中	(1)宗基秀明 (2)田中和彦	1		
	実習ⅠB(考古資料)	2	後期	(a)田中和彦 (b)(c)宗基秀明	1		
	実習ⅡA(古文書)	2	後期	(a)石田千尋(b)星野玲子(c)山口悟史	2		
	実習ⅡB(発掘実習)	2	集中	(1)田中和彦 (2)宗基秀明	2		
	実習ⅢA (材質研究と保存処理)	2	前期	(1)(2)星野玲子	3		
	実習ⅢB (文化財の取り扱いと保存環境)	2	集中	(1)小池富雄 (2)緒方啓介	3		
演習科目	実習Ⅳ	2	集中	(a)緒方啓介(b)小池富雄(c)田中和彦	4		
	文化財演習Ⅰ	2	後期	(a)緒方啓介(b)小池富雄(c)星野玲子 (d)伊藤正義(e)田中和彦(f)石田千尋 (g)小林恭治(h)宗基秀明(i)下室覚道	3		
卒業論文	文化財演習Ⅱ	2	通年	(a)緒方啓介(b)小池富雄(c)星野玲子 (d)伊藤正義(e)田中和彦(f)石田千尋 (g)小林恭治(h)宗基秀明(i)下室覚道	4		
	卒業論文	6		(a)緒方啓介(b)小池富雄(c)星野玲子 (d)伊藤正義(e)田中和彦(f)石田千尋 (g)小林恭治(h)宗基秀明(i)下室覚道	4		
必要単位合計		46					

※ 今年度の実習は、I Aは校外での文化財巡検（見学）を主とし、土曜・日曜を利用して実施する。実習II Bは野外考古学（発掘調査）であり、夏季休暇期間に実施する。実習III Bは学内と学外（旅行）を実施する。実習IVは国外・国内・自主の中から、3年次に希望をとり実施する。
 ※ 文化財演習Iは、2年次の11月に担当者を決定する。詳細は研究室からの掲示で指示する。
 注）8人の講師によるオムニバス方式

②選択科目（専攻科目）

以下の科目の中から、自己の専攻する系列より8科目16単位以上、その他の各系列より3科目6単位以上、合計16科目32単位以上修得すること。

専攻系列の登録は3年次であるので、2年次では各自の興味あるところや将来の進路見通しにしたがって、自由かつ幅広い選択履修が可能である。

系列	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
【歴史・地理系列】	日本史Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	日本史Ⅱ	2	後期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅰ	2	前期	久保田和彦	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅰ	2	前期	下室覚道	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅱ	2	後期	下室覚道	2・3・4	○	
	古文書学Ⅰ	2	前期	石田千尋	2・3・4	○	
	古文書学Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	歴史地理学	2	前期	落合康浩	2・3・4	○	
	歴史地誌学	2	前期	工藤健一	2・3・4	○	
【考古・美術系列】	先史考古学	2	前期	宗基秀明	2・3・4	○	
	歴史考古学	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅱ	2	後期	緒方啓介	2・3・4	○	
	建築史Ⅰ	2	前期	大野 敏	2・3・4	○	
	建築史Ⅱ	2	後期	大野 敏	2・3・4	○	
	工芸史Ⅰ	2	前期	小池富雄	2・3・4	○	
	工芸史Ⅱ	2	後期	原田ロクゴー	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅱ	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
【文化財系列】	文化財科学Ⅰ	2	前期	星 恵理子	2・3・4	○	
	文化財科学Ⅱ	2	後期	星 恵理子	2・3・4	○	
	有職故実Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	有職故実Ⅱ	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅰ	2	前期	星野玲子	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅱ	2	後期	原田一敏	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅲ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅳ	2	後期	富川武史	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅴ	2	後期	室瀬 佑	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅵ	2	前期	森中香奈子	2・3・4	○	
学外館務実習	1	集中	小池富雄 緒方啓介	4		※	
		32					

※ 学芸員課程履修者

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	4			
専門科目	必修科目	40 単位		78 単位以上		
	選択科目	32 単位以上				
	卒業論文	6 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	下室覚道	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

②外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語Ⅰ	2	必修	通年	(再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語Ⅱ	2	必修	通年	(再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語Ⅲ	2	必修	通年	(再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	
中国語ⅠA	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	
中国語ⅠB	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論 I	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論 II (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	

㊦生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論 I	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論 II	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論 I	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論 II	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツ I	1	選択	前期	平川澄子	2	
生涯スポーツ II	1	選択	後期	田村浩志	2	

㊦キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
情報リテラシー I	2	必修	前期後期	(1) 横山 博 (2) 鈴木かおり	1	
情報リテラシー II	2	選択	後期	(a) 横山 博 (b) 松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習 I	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習 II	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習 III	2	選択	前期	(a)(b) 手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習 IV	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習 V	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

文化財学科の専門科目では、文化財に対する知識を得るだけでなく、それらを実際に取り扱い、分析・研究し、保存修復できるよう、実物・実地学習にも重点を置いている。

文化財を理解し、その生み出された背景を知るために、1・2年次において必修の「基礎概説科目」として1年次にオムニバス形式の文化財研究法、1・2年次に考古学・文化人類学・地理学、2年次に博物館学概論・博物館経営論・歴史資料講読を置いている。また、文化財の扱いについて精通するため、1年次から4年次まで必修の「実習科目」が用意されている。3年次進級時に、必修の「演習科目」の指導教員並びに自己の専攻分野を決定する。卒業論文は演習の担当教員によって指導される。

2年次より履修できる選択科目（専攻科目）は、1期で完結する多数の科目が3系列にわかれている。自己の専攻とする系列だけではなく、幅広い選択履修が望ましい。

①必修科目

区分	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎概説科目	文化財研究法	4	通年	石田千尋・田中和彦・緒方啓介 伊藤正義・小池富雄・宗基秀明 下室覚道・星野玲子	1		注
	考古学	4	通年	田中和彦	1・2	○	
	文化人類学	4	通年	鈴木佑記	1・2	○	
	地理学	4	通年	落合康浩	1・2	○	
	博物館学Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2		
	博物館学Ⅱ	2	後期	小池富雄	2	○	
	歴史資料講読	2	前期	伊藤正義	2		
実習科目	実習ⅠA(巡検)	2	集中	(1)宗基秀明 (2)田中和彦	1		
	実習ⅠB(考古資料)	2	後期	(a)田中和彦 (b)(c)宗基秀明	1		
	実習ⅡA(古文書)	2	後期	(a)石田千尋 (b)星野玲子 (c)山口悟史	2		
	実習ⅡB(発掘実習)	2	集中	(1)田中和彦 (2)宗基秀明	2		
	実習ⅢA (材質研究と保存処理)	2	前期	(1)(2)星野玲子	3		
	実習ⅢB (文化財の取り扱いと保存環境)	2	集中	(1)小池富雄 (2)緒方啓介	3		
	実習Ⅳ	2	集中	(a)緒方啓介 (b)小池富雄 (c)田中和彦	4		
演習科目	文化財演習Ⅰ	2	後期	(a)緒方啓介 (b)小池富雄 (c)星野玲子 (d)伊藤正義 (e)田中和彦 (f)石田千尋 (g)小林恭治 (h)宗基秀明 (i)下室覚道	3		
	文化財演習Ⅱ	2	通年	(a)緒方啓介 (b)小池富雄 (c)星野玲子 (d)伊藤正義 (e)田中和彦 (f)石田千尋 (g)小林恭治 (h)宗基秀明 (i)下室覚道	4		
卒業論文	6		(a)緒方啓介 (b)小池富雄 (c)星野玲子 (d)伊藤正義 (e)田中和彦 (f)石田千尋 (g)小林恭治 (h)宗基秀明 (i)下室覚道	4			
必要単位合計	46						

※ 今年度の実習は、I Aは校外での文化財巡検（見学）を主とし、土曜・日曜を利用して実施する。実習II Bは野外考古学（発掘調査）であり、夏季休暇期間に実施する。実習III Bは学内と学外(旅行)を実施する。実習IVは国外・国内・自主の中から、3年次に希望をとり実施する。
 ※ 文化財演習Iは、2年次の11月に担当者を決定する。詳細は研究室からの掲示で指示する。
 注) 8人の講師によるオムニバス方式

②選択科目（専攻科目）

以下の科目の中から、自己の専攻する系列より8科目16単位以上、その他の各系列より3科目6単位以上、合計16科目32単位以上修得すること。

専攻系列の登録は3年次であるので、2年次では各自の興味あるところや将来の進路見通しにしたがって、自由かつ幅広い選択履修が可能である。

系列	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
【歴史・地理系列】	日本史Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	日本史Ⅱ	2	後期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅰ	2	前期	久保田和彦	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅰ	2	前期	下室覚道	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅱ	2	後期	下室覚道	2・3・4	○	
	古文書学Ⅰ	2	前期	石田千尋	2・3・4	○	
	古文書学Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	歴史地理学	2	前期	落合康浩	2・3・4	○	
	歴史地誌学	2	前期	工藤健一	2・3・4	○	
【考古・美術系列】	先史考古学	2	前期	宗基秀明	2・3・4	○	
	歴史考古学	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅱ	2	後期	緒方啓介	2・3・4	○	
	建築史Ⅰ	2	前期	大野 敏	2・3・4	○	
	建築史Ⅱ	2	後期	大野 敏	2・3・4	○	
	工芸史Ⅰ	2	前期	小池富雄	2・3・4	○	
	工芸史Ⅱ	2	後期	原田ロクゴー	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅱ	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
【文化財系列】	文化財科学Ⅰ	2	前期	星 恵理子	2・3・4	○	
	文化財科学Ⅱ	2	後期	星 恵理子	2・3・4	○	
	有職故実Ⅰ	2	前期	伊藤正義	2・3・4	○	
	有職故実Ⅱ	2	後期	伊藤正義	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅰ	2	前期	星野玲子	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅱ	2	後期	原田一敏	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅲ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅳ	2	後期	富川武史	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅴ	2	後期	室瀬 佑	2・3・4	○	
文化財各論Ⅵ	2	前期	森中香奈子	2・3・4	○		
必要単位合計	32						

ドキュメンテーション学科

白紙

平成24～28年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	—	—			
	計	16	2			
専門科目	必修科目	32 単位		80 単位以上		
	選択科目	44 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修16単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	須藤 敬	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

②外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) 宮崎敬子 (b) 朝田美穂子 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 渡部孝治 (b) 竹田道代 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) 宮崎敬子 (b) 朝田美穂子 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 富岡悦子 (e)(f)(g) 塚本由美	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 富岡悦子 (e)(f)(g) 塚本由美	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(h)(k) 田中智幸 (i) 内田じゅん子 (j) 平井 徹 (L) 土屋文子	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(h)(k) 田中智幸 (i) 内田じゅん子 (j) 平井 徹 (L) 土屋文子	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c) 富岡悦子 (d) 塚本由美	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c) 富岡悦子 (d) 塚本由美	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e) 田中智幸 (f) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e) 田中智幸 (f) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 28年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、I A・I Bの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論 I	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論 II (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論 I	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論 II	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論 I	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論 II	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツ I	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツ II	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習 I	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習 II	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習 III	2	選択	前期	(a)(b) 手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習 IV	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習 V	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

本学科は、一般の図書・書類にとどまらず、世の中に存在するあらゆる資料（ドキュメント）をその性質に応じて研究・整理し、コンピュータ技術を用いてデータ化し、データベースあるいは検索システム等の構築を通じて広く社会の利用に供する、という一連の作業のための専門的な知識と技術を学ぶことを目的としている。また、そのための基礎として、社会人としての幅広い教養や柔軟な思考力を養うことも重視している。

取り扱う対象や技術の違いに応じて、つぎの3つのコースを設ける。学生は3年次にそのいずれかに所属する。

- 1 書誌学コース
江戸時代以前の書物の扱い方を学ぶ書誌学中心のコース
- 2 図書館学コース
デジタル時代の図書館員を養成する図書館学中心のコース
- 3 情報学コース
情報の専門家を養成する情報学中心のコース

1年次および2年次前期には、基礎的な科目としてコンピュータ関係の概論および基礎演習、司書課程の科目に読み替えられる図書館学関係の科目、書誌学の入門的な科目を設置している。また、英語力の養成を重視して、2、3年次にも英語の専門科目をおいている。

各コースの専門的な科目の多くは2年次以降に設置されている。選択A群は主として講義科目、選択B群は主として演習科目である。学生は所属したコースの科目をA群から12単位以上、B群から8単位以上、それぞれ修得しなければならないが、それ以外は他のコースの科目も自由に履修できる。

4年次には各教員の卒業論文演習（卒論ゼミ）に所属し、教員の指導のもと、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
図書館概論	2	前期	河西由美子	1		
情報システム概論	2	前期	大矢一志	1	○	
情報機器教育論	2	前期	(1)(2)元木章博	1		
ドキュメント処理概論	2	後期	角田裕之	1		
ネットワーク概論	2	後期	元木章博	1	○	
コンピュータ概論	2	後期	榎本 聡	1	○	
データベース概論	2	後期	田辺良則	1	○	
情報サービス概論	2	前期	河西由美子	2		
情報基礎演習Ⅰ (ネットワーク)	2	前期	(1)榎本 聡 (2)大矢一志	2	○	
情報基礎演習Ⅱ (アプリケーション)	2	前期	(1)湯浅能史 (2)田辺良則	2	○	
情報基礎演習Ⅲ (データベース)	2	前期	(1)田辺良則 (2)松本勝久	2	○	

日本語演習	2	後期	(a)(b)伊倉史人 (c)(d)久保木秀夫	2		
英語演習 I	1	前期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英語演習 II	1	後期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英語演習 III	1	前期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
英語演習 IV	1	後期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
卒業論文演習	4	通年	(a)久保木秀夫 (b)伊倉史人 (c)角田裕之 (d)河西由美子 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
卒業論文	4		(a)久保木秀夫 (b)伊倉史人 (c)角田裕之 (d)河西由美子 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
計	36					

②選択科目

以下の各群で規定された単位修得条件を充足したうえで、合計 44 単位以上修得する。

(1) 選択 A 群

各自が選択したコースに開講された科目の中から 12 単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	書物文化論	2	前期	伊倉史人	1	○	
	古典基礎	2	後期	久保木秀夫	1	○	
	書誌学基礎講義 I	2	前期	高橋裕次	2	○	
	書誌学基礎講義 II	2	後期	伊倉史人	2	○	
	日本書誌学	4	通年	伊倉史人	3・4	○	
	古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
	書誌学特殊講義 I	2	前期	久保木秀夫	3・4	○	
	書誌学特殊講義 II	2	後期	池田早苗	3・4	○	
図書館学 コース	電子出版論	2	前期	加藤裕康	3・4	○	
	図書館情報資源論 I	2	前期	中村克明	2		
	ドキュメント処理各論 I	2	後期	角田裕之	2	○	
	情報サービス各論 I	2	後期	河西由美子	2	○	
	図書館サービス論	2	後期	酒井由紀子	2		
	図書館情報技術論	2	前期	藤田岳久	2		
	ドキュメント処理各論 II	4	通年	角田裕之	3・4		
	情報サービス各論 II	4	通年	河西由美子	3・4		
	図書館制度・経営論	2	前期	蛭田廣一	3・4		
	図書館情報資源論 II	2	前期	伊倉史人	3・4		
	デジタル情報と著作権	2	後期	大矢一志	3・4	○	
児童サービス論	2	後期	汐崎順子	3・4			
情報学 コース	記録管理論	2	後期	大蔵綾子	3・4	○	
	プログラミング概論	2	後期	大矢一志	2	○	
	マルチメディア概論	2	前期	元木章博	2	○	

情報学 コース	情報理論	2	前期	田辺良則	2	○	
	情報システム各論Ⅰ	2	後期	大矢一志	2	○	
	データベース各論Ⅰ	2	後期	田辺良則	2	○	
	ネットワーク各論Ⅰ	2	後期	元木章博	2	○	
	データベース各論Ⅱ	4	通年	田辺良則	3・4		
	ネットワーク各論Ⅱ	4	通年	元木章博	3・4		
	情報システム各論Ⅱ	4	通年	大矢一志	3・4		
	情報社会と倫理	2	前期	星俊雄	3・4	○	
	情報と職業	2	後期	星俊雄	3・4	○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに開講された科目の中から8単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	古典籍読解演習Ⅰ	2	前期	久保木秀夫	2		
	書誌学基礎演習	2	後期	久保木秀夫	2		
	古写本演習	4	通年	久保木秀夫	3・4		
	古版本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古典籍読解演習Ⅱ	2	前期	伊倉史人	3・4		
	書誌学特別演習	2	後期	池田早苗	3・4		
図書館学 コース	ドキュメント処理演習Ⅰ	2	前期	角田裕之	2		
	情報サービス演習Ⅰ	2	前期	(a)河西由美子 (b)宮原志津子	2		
	ドキュメント処理演習Ⅱ	2	後期	(a)長谷川幸代 (b)角田裕之	2		
	情報サービス演習Ⅱ	2	後期	(a)(b)河西由美子	2		
	ビジネス・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		
	特別実習Ⅰ	2	集中	角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則 元木章博・久保木秀夫 河西由美子	3・4		
	特別実習Ⅱ	2	集中	角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則 元木章博・久保木秀夫 河西由美子	1		
	ドキュメント処理演習Ⅲ	2	前期	角田裕之	3・4		
情報学 コース	プレゼンテーション演習	2	前期	(a)久保木秀夫 (b)周東聡子	2		
	データベース演習Ⅰ	2	後期	(a)田辺良則 (b)高野健太郎	2		
	マルチメディア演習	2	後期	元木章博	2		
	ネットワーク演習Ⅰ	2	後期	(a)元木章博 (b)横山博	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2	前期	大矢一志	3・4		
	ネットワーク演習Ⅱ	2	前期	元木章博	3・4		
	データベース演習Ⅱ	2	前期	田辺良則	3・4		
	情報理論演習Ⅰ	2	前期	中澤房紀	3・4		
	プログラミング演習Ⅱ	2	後期	大矢一志	3・4		
	情報システム演習	2	前期	大矢一志	3・4		
	情報理論演習Ⅱ	2	後期	田辺良則	3・4		

平成21～23年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	—	—			
	計	16	2			
専門科目	必修科目	32 単位		80 単位以上		
	選択科目	44 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 平成28年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修16単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	須藤 敬	1	
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

②外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語Ⅰ	2	必修	通年	(再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語Ⅱ	2	必修	通年	(再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語Ⅲ	2	必修	通年	(再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	福島君子	2	
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	28年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	福島君子	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	28年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)富岡悦子 (e)(f)(g)塚本由美	1	
中国語ⅠA	1	必選	前期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	
中国語ⅠB	1	必選	後期	(h)(k)田中智幸 (i)内田じゅん子 (j)平井 徹 (L)土屋文子	1	
フランス語ⅡA	1	選択	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	選択	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	選択	前期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
ドイツ語ⅡB	1	選択	後期	(c)富岡悦子 (d)塚本由美	2	
中国語ⅡA	1	選択	前期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	選択	後期	(e)田中智幸 (f)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	富岡悦子	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	富岡悦子	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	田中智幸	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	田中智幸	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※28年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※28年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1カ国語を選択し、ⅠA・ⅠBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)石岡良治	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	ジョン・バリエントス	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	富岡悦子	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	田中智幸	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	富岡悦子	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b)中路喜之	1	
法学Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	室井俊通	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	室井俊通	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤健一	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	工藤健一	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b)工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	落合康浩	1	
哲学	2	選択	前期	石岡良治	1	
言語学	2	選択	前期	大矢一志	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	

ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	佐藤和雄	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	佐藤和雄	1	
					1	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	前期	大木真徳	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)横山 博 (b)松本勝久	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	笠島美江子	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	岩間正則・吉村順子	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

本学科は、一般の図書・書類にとどまらず、世の中に存在するあらゆる資料（ドキュメント）をその性質に応じて研究・整理し、コンピュータ技術を用いてデータ化し、データベースあるいは検索システム等の構築を通じて広く社会の利用に供する、という一連の作業のための専門的な知識と技術を学ぶことを目的としている。また、そのための基礎として、社会人としての幅広い教養や柔軟な思考力を養うことも重視している。

取り扱う対象や技術の違いに応じて、つぎの3つのコースを設ける。学生は3年次にそのいずれかに所属する。

- 1 書誌学コース
江戸時代以前の書物の扱い方を学ぶ書誌学中心のコース
- 2 図書館学コース
デジタル時代の図書館員を養成する図書館学中心のコース
- 3 情報学コース
情報の専門家を養成する情報学中心のコース

1年次および2年次前期には、基礎的な科目としてコンピュータ関係の概論および基礎演習、司書課程の科目に読み替えられる図書館学関係の科目、書誌学の入門的な科目を設置している。また、英語力の養成を重視して、2、3年次にも英語の専門科目をおいている。

各コースの専門的な科目の多くは2年次以降に設置されている。選択A群は主として講義科目、選択B群は主として演習科目である。学生は所属したコースの科目をA群から12単位以上、B群から8単位以上、それぞれ修得しなければならないが、それ以外は他のコースの科目も自由に履修できる。

4年次には各教員の卒業論文演習（卒論ゼミ）に所属し、教員の指導のもと、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
図書館概論	2	前期	河西由美子	1		
情報システム概論	2	前期	大矢一志	1	○	
情報機器教育論	2	前期	(1)(2)元木章博	1		
ドキュメント処理概論	2	後期	角田裕之	1		
ネットワーク概論	2	後期	元木章博	1	○	
コンピュータ概論	2	後期	榎本 聡	1	○	
データベース概論	2	後期	田辺良則	1	○	
情報サービス概論	2	前期	河西由美子	2		
情報基礎演習Ⅰ (ネットワーク)	2	前期	(1)榎本 聡 (2)大矢一志	2	○	
情報基礎演習Ⅱ (アプリケーション)	2	前期	(1)湯浅能史 (2)田辺良則	2	○	
情報基礎演習Ⅲ (データベース)	2	前期	(1)田辺良則 (2)松本勝久	2	○	

日本語演習	2	後期	(a)(b)伊倉史人 (c)(d)久保木秀夫	2		
英語演習Ⅰ	1	前期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英語演習Ⅱ	1	後期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英語演習Ⅲ	1	前期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
英語演習Ⅳ	1	後期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
卒業論文演習	4	通年	(a)久保木秀夫 (b)伊倉史人 (c)角田裕之 (d)河西由美子 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
卒業論文	4		(a)久保木秀夫 (b)伊倉史人 (c)角田裕之 (d)河西由美子 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
計	36					

②選択科目

以下の各群で規定された単位修得条件を充足したうえで、合計 44 単位以上修得する。

(1) 選択 A 群

各自が選択したコースに開講された科目の中から 12 単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	書物文化論	2	前期	伊倉史人	1	○	
	古典基礎	2	後期	久保木秀夫	1	○	
	書誌学基礎講義Ⅰ	2	前期	高橋裕次	2	○	
	書誌学基礎講義Ⅱ	2	後期	伊倉史人	2	○	
	日本書誌学	4	通年	伊倉史人	3・4	○	
	古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
	書誌学特殊講義Ⅰ	2	前期	久保木秀夫	3・4	○	
	書誌学特殊講義Ⅱ	2	後期	池田早苗	3・4	○	
図書館学 コース	電子出版論	2	前期	加藤裕康	3・4	○	
	図書館資料論Ⅰ	2	前期	中村克明	2		
	ドキュメント処理各論Ⅰ	2	後期	角田裕之	2	○	
	情報サービス各論Ⅰ	2	後期	河西由美子	2	○	
	図書館サービス論	2	後期	酒井由紀子	2		
	ドキュメント処理各論Ⅱ	4	通年	角田裕之	3・4		
	情報サービス各論Ⅱ	4	通年	河西由美子	3・4		
	図書館経営論	2	前期	蛭田廣一	3・4		
	図書館資料論Ⅱ	2	前期	伊倉史人	3・4		
	デジタル情報と著作権	2	後期	大矢一志	3・4	○	
情報学 コース	児童サービス論	2	後期	汐崎順子	3・4		
	記録管理論	2	後期	大蔵綾子	3・4	○	
	プログラミング概論	2	後期	大矢一志	2	○	
	マルチメディア概論	2	前期	元木章博	2	○	

情報学 コース	情報理論	2	前期	田辺良則	2	○	
	情報システム各論Ⅰ	2	後期	大矢一志	2	○	
	データベース各論Ⅰ	2	後期	田辺良則	2	○	
	ネットワーク各論Ⅰ	2	後期	元木章博	2	○	
	データベース各論Ⅱ	4	通年	田辺良則	3・4		
	ネットワーク各論Ⅱ	4	通年	元木章博	3・4		
	情報システム各論Ⅱ	4	通年	大矢一志	3・4		
	情報社会と倫理	2	前期	星 俊雄	3・4	○	
	情報と職業	2	後期	星 俊雄	3・4	○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに開講された科目の中から8単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	古典籍読解演習Ⅰ	2	前期	久保木秀夫	2		
	書誌学基礎演習	2	後期	久保木秀夫	2		
	古写本演習	4	通年	久保木秀夫	3・4		
	古版本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古典籍読解演習Ⅱ	2	前期	伊倉史人	3・4		
	書誌学特別演習	2	後期	池田早苗	3・4		
図書館学 コース	ドキュメント処理演習Ⅰ	2	前期	角田裕之	2		
	情報サービス演習Ⅰ	2	前期	(a)河西由美子 (b)宮原志津子	2		
	ドキュメント処理演習Ⅱ	2	後期	(a)長谷川幸代 (b)角田裕之	2		
	情報サービス演習Ⅱ	2	後期	(a)(b)河西由美子	2		
	ビジネス・ライティング	4	通年	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		
	特別実習	2	集中	角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則 元木章博・久保木秀夫 河西由美子	3・4		
	特別実習Ⅱ	2	集中	角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則 元木章博・久保木秀夫 河西由美子	1		
	ドキュメント処理演習Ⅲ	2	前期	角田裕之	3・4		
情報学 コース	プレゼンテーション演習	2	前期	(a)久保木秀夫 (b)周東聡子	2		
	データベース演習Ⅰ	2	後期	(a)田辺良則 (b)高野健太郎	2		
	マルチメディア演習	2	後期	元木章博	2		
	ネットワーク演習Ⅰ	2	後期	(a)元木章博 (b)横山 博	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2	前期	大矢一志	3・4		
	ネットワーク演習Ⅱ	2	前期	元木章博	3・4		
	データベース演習Ⅱ	2	前期	田辺良則	3・4		
	情報理論演習Ⅰ	2	前期	中澤房紀	3・4		
	プログラミング演習Ⅱ	2	後期	大矢一志	3・4		
	情報システム演習	2	前期	大矢一志	3・4		
情報理論演習Ⅱ	2	後期	田辺良則	3・4			

資 格 課 程

白紙

教 職 課 程

白紙

(1) 教職課程について

大学卒業後、教員を希望する者は、教育職員免許法（以下免許法）に基づいて授与される教育職員免許状（以下免許状）を有していなければならない。

本学の教職課程は、中学校および高等学校の免許状の取得を希望する学生のために、免許法ならびに同法施行規則に基づいて開設されている。この課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をし、また定められた期日に教職課程費を納入しなければならない。なお、本課程の科目は1年次から履修できるので、卒業までに無理なく単位の修得ができるよう、計画をたてることが望ましい。

(2) 取得できる免許状の種類

卒業に必要な単位を修得し、所定の共通科目、教科に関する科目、教職に関する科目の単位を修得した者に対し、本人の申請に基づいて各学科ごとに以下の免許状が与えられる。なお、中学校の免許状を取得する場合は、後述する「介護等の体験」が必要となる。

平成22～28年度入学生

学 科	免許状の種類・教科	基礎資格等	取得に要する最低単位数		
			教科科目	教職科目	計
日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状 国語	1. 学士の学位を有すること	48	35	83 単位
	高等学校教諭一種免許状 国語		54 又は 52	27 又は 29	81 単位
	高等学校教諭一種免許状 書道		58 又は 56	27 又は 29	85 単位
英語英米文学科	中学校教諭一種免許状 英語	2. 指定共通科目を4科目8単元以上修得	40	35	75 単位
	高等学校教諭一種免許状 英語		40	27 又は 29	67 単位
文化財学 科	中学校教諭一種免許状 社会		48	35	83 単位
	高等学校教諭一種免許状 地理歴史		46 又は 44	27 又は 29	73 単位
ドキュメンテーション学科	高等学校教諭一種免許状 情報		36	27	63 単位

(3) 単位履修方法

① 指定共通科目

免許状を取得する場合には、教科に関する科目、教職に関する科目以外に、特に必要な科目として文部科学省令で定められた科目がある。本学ではこれらに相当するものとして次の共通科目等を指定するので、卒業するまでに必ず履修し、単位を修得しなければならない。

- ◇ 「法学Ⅰ（日本国憲法）」 2 単位
- ◇ 「体育」 2 単位
- ◇ ・英語英米文学科：「オーラル・コミュニケーション」 2 単位
 - ・上記以外の学生：「英語Ⅱ」 2 単位
- ◇ ・ドキュメンテーション学科：「情報機器教育論」 2 単位
 - ・上記以外の学生：「情報リテラシーⅠ」 2 単位

② 教科に関する科目

教科に関する科目は各学科の専門科目からなり、次表に示す通りである。

a. 日本文学科

(イ) 中学校・高等学校（国語）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論	4		卒業必修
	日本語史	4		
	日本語学演習	4		
国 文 学 (国文学史を含む。)	国文学概論	4		卒業必修
	国文学史	8		
	国文学演習	8		
漢 文 学	中国古典文学	4		卒業必修
	漢文講読	2		卒業必修
書 道 (書写を中心とする。)	書道Ⅰ	2		中学校のみ
上記の区分以外の科目	上代文学講義		4	中学校のみ
	中古文学講義		4	
	中世文学講義		4	
	近世文学講義		4	
	近代文学講義		4	
	日本語学講義		4	
	中国文学演習		4	
	中国文学史		4	
	教職国語科		4	
	書道Ⅱ	2		

※1 中学校免許状を取得する場合は上記の科目のうち、必修42単位（書道Ⅰ・Ⅱを含む）、選択6単位、合計48単位以上修得すること。

※2 高等学校免許状を取得する場合は上記の科目のうち、必修38単位、選択16単位、合計54単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道德教育」2単位を修得した場合は選択14単位、合計52単位でよい。

(ロ) 高等学校（書道）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
書道（書写を含む。)	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	8		
書道史	書道史	4		
「書論、鑑賞」	古筆鑑賞	4		
「国文学、漢文学」	国文学史	8		卒業必修
	国文学概論	4		
	国文学演習	8		

	中国古典文学	4		卒業必修
	漢文講読	2		卒業必修
上記の区分以外の科目	書道V		2	} 何れか1科目必修
	書道VI		2	
	上代文学講義		4	
	中古文学講義		4	
	中世文学講義		4	
	近世文学講義		4	
	近代文学講義		4	
	中国文学演習		4	
	中国文学史		4	
	教職国語科		4	

※ 上記の科目のうち、必修 44 単位、選択 14 単位、合計 58 単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道德教育」2 単位を修得した場合は選択 12 単位、合計 56 単位でよい。

b. 英語英米文学科

中学校・高等学校（英語）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
英語学	英語学概論	4		
英米文学	イギリス文学概論	4		
	アメリカ文学概論	4		
英語コミュニケーション	社会言語学研究		4	} 何れか1科目必修
	英語コミュニケーション概論		4	
異文化理解	イギリス文化概論		4	} 何れか1科目必修
	アメリカ文化概論		4	
	異文化間コミュニケーション研究		4	
上記の区分以外の科目	英文法	4		◎
	英語音声学	4		◎
	メディア・イングリッシュ	4		卒業必修
	ライティング	2		卒業必修
	コンプリヘンシブ・イングリッシュ	2		卒業必修
	イギリス史		4	} 何れか1科目必修
	アメリカ史		4	

※ 1 上記の科目のうち、40単位以上修得すること。

※ 2 備考欄の◎印は教育実習（実習校実習）参加要件科目を示す。詳細は105頁参照のこと。

c. 文化財学科
(イ) 中学校 (社会)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
日本史及び外国史	日本歴史Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		卒業必修 卒業必修
	世界歴史Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		
	考古学	4		
	文化財研究法	4		
地理学 (地誌を含む。)	地理学	4		卒業必修 卒業必修
	地誌学概説	2		
	歴史地誌学	2		
	文化人類学	4		
「法学、政治学」	政治学Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		
「社会学、経済学」	社会学Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		
「哲学、倫理学、宗教学」	宗教学	4		卒業必修
	倫理学Ⅰ(概説)・Ⅱ		4	
上記の区分以外の科目	日本史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本文化史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本仏教史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本美術史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	工芸史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	古文書学Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	歴史資料講読		2	卒業必修
	イギリス史		4	
	アメリカ史		4	
	歴史考古学		2	
	歴史地理学		2	
	経済学Ⅰ(概説)・Ⅱ		4	

※ 上記の科目のうち、必修40単位、上記の区分以外の科目の中より選択8単位、合計48単位以上修得すること。

(ロ) 高等学校 (地理歴史)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
日本史	日本歴史Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		卒業必修 卒業必修
	考古学	4		
	文化財研究法	4		
外国史	世界歴史Ⅰ(概説)・Ⅱ	4		
人文地理学及び自然地理学	地理学	4		卒業必修
	歴史地理学	2		

	文化人類学	4		卒業必修
地誌	地誌学概説	2		
	歴史地誌学	2		
上記の区分以外の科目	日本史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本文化史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本仏教史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本美術史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	有職故実Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	工芸史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	古文書学Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	歴史資料講読		2	卒業必修
	イギリス史		4	
	アメリカ史		4	
	歴史考古学		2	
	史跡特論Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位

※ 上記の科目のうち、必修30単位、選択16単位、合計46単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道德教育」2単位を修得した場合は、選択14単位、合計44単位でよい。

d. ドキュメンテーション学科
高等学校（情報）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			備 考
	科 目	単位数		
		必修	選択	
情報社会及び情報倫理	情報社会と倫理	2		
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	コンピュータ概論	2		卒業必修
	プログラミング概論	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2		
	情報理論	2		
	情報理論演習Ⅰ	2		
情報システム (実習を含む。)	情報システム概論	2		卒業必修
	データベース概論	2		
	データベース演習Ⅰ		2	卒業必修
	情報基礎演習Ⅲ(データベース)	2		
	データベース各論Ⅰ		2	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワーク概論	2		卒業必修
	ネットワーク演習Ⅰ		2	
	情報基礎演習Ⅰ(ネットワーク)	2		卒業必修
	ネットワーク各論Ⅰ		2	
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	マルチメディア概論	2		
	マルチメディア演習		2	

	プレゼンテーション演習	2		
	情報基礎演習Ⅱ(アプリケーション)	2		卒業必修
情報と職業	情報と職業	2		

※ 上記の科目のうち、必修30単位、選択6単位、合計36単位以上修得すること。

③ 教職に関する科目

平成22～28年度入学生に適用

免許法に規定されている科目及び単位数	本学開講科目および単位数			開講期間	担当者	履修学年	備考		
	科目	必修	選択						
教職の意義等に関する科目	2	教師論	2		前期	(a)(b) 岩間正則	3		
教育の基礎理論に関する科目	6	教育原理	2		前期	(a)(b) 湯浅且敏	1	学芸員課程と共通 (22-23年度入学生)	
		教育史	2		後期	(a)(b) 高山有紀			
		教育心理学	2		前期	(a)(b) 吉村順子	2		
教育課程及び指導法に関する科目	中 16 高 6	教育課程論	2		前期	(a)(b) 山下俊幸	2	日本文学科 に開講	
		国語科教育法Ⅰ	4		通年	岩間正則			
		国語科教育法Ⅱ	4		通年	菊地隆雄	3		
		書道科教育法	4		通年	松本文子			
		英語科教育法Ⅰ	4		通年	伊藤満里	2		英語英米文 学科に開講
		英語科教育法Ⅱ	4		通年	根岸純子	3		
		社会科教育法Ⅰ(社会・公民)	2		前期	本田 清	2	文化財学科 に開講	
		社会科教育法Ⅱ(社会・公民)	2		前期	尾崎正善	3		
		地理歴史科教育法Ⅰ	2		後期	本田 清	2		
		地理歴史科教育法Ⅱ	2		後期	尾崎正善	3		
		情報科教育法	4		通年	小原久美	3	ドキュメンテーション	
		道徳教育		2	前期	(a)(b) 岩間正則	2	中学校は必修 学芸員課程と共通	
特別活動	2		後期	(a)(b) 岩間正則					
視聴覚教育	2		前・後	(a)(b)(c) 鈴木かおり					
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導	2		前期	(a)(b) 吉村順子	2		
		教育相談	2		後期	(a)(b) 吉村順子			
教育実習	中 5	中学校教育実習Ⅰ	1		後期	(a)(b) 岩間正則	3	学内指導 実習校実習	
		中学校教育実習Ⅱ	4		—	岩間正則	4		
	高 3	高等学校教育実習Ⅰ	1		後期	(a)(b) 岩間正則	3	学内指導 実習校実習	
		高等学校教育実習Ⅱ	2		—	岩間正則	4		
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2		後期	(a) 岩間正則 (b) 吉村順子	4		

※1 上記の科目は、中学校、高等学校に共通である。中学校は35単位、高等学校は27単位修得すること。

※2 「道徳教育」は中学校にのみ必修であるが、高等学校の「情報」を除く教科に関する科目の単位数に含むことができる。

※3 各教科の「教育法」は取得する免許教科ごとに選択必修であるが、次の通り、各学科ごとに履修条件に規定があるので注意されたい。

〔日本文学科〕 中学校（国語）を取得する場合は、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（国語）を取得する場合は、国語科教育法Ⅱの4単位を修得しなければならない。

〔英語英米文学科〕 専門科目の「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」及び「ライティング」の単位が未修得の場合は、英語科教育法Ⅱを履修できない。

中学校（英語）を取得する場合は、英語科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（英語）を取得する場合は、英語科教育法Ⅱの4単位を修得しなければならない。

〔文化財学科〕 中学校（社会）を取得する場合は、社会科教育法Ⅰ（社会・公民）・Ⅱ（社会・公民）および、地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（地理歴史）を取得する場合は、地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

〔ドキュメンテーション学科〕 特に定めなし。

※4 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「教育原理」「視聴覚教育」

(4) 教育実習について

① 教育実習は学内で行なう事前および事後の指導と実習校における実習からなり、中学校は5単位、高等学校は3単位である。

本学では、中学校教育実習Ⅰ、高等学校教育実習Ⅰを事前および事後の指導1単位とし、免許状の種類に関らず、何れか1単位を修得すればよい。

教育実習Ⅱは実習校での実習であり、取得する免許状の種類により、中学校（4単位）または高等学校（2単位）において実習を行なう。ただし、中学校と高等学校の免許状を併せて取得する場合は、中学校で実習を行なえばよい。

② 実習校は原則として出身中学校または出身高等学校とする。実習校の選定については、種々の事務的な手続き等が必要である。本学ではそのための実習説明会を開催し、詳細を説明するので、教育実習履修希望者は定められた説明会に必ず出席し遺漏のないよう注意すること。説明会の日程は掲示により連絡する。

③ 実習校実習を行なう時期は原則として4年次の5月から10月までとし、期間は中学校は3週間、高等学校は2週間を原則とする。

④ 実習校実習に参加するための要件は次の通りである。

i. 次の科目の単位を修得していること。

	共通科目	専門科目(単位)	教職に関する科目
日本文学科	必修 18 単位 必選 2 単位 選択 18 単位	必修・必修選択 16 単位 選択 16 単位	〔平成 22 ～ 28 年度入学生〕 教育実習Ⅱ及び教職実践 演習を除く全科目（高等学 校で実習する場合は道徳教 育を除く）
英語英米文学科	必修 12 単位 必選 4 単位 選択 16 単位	〔平成 24 ～ 28 年度入学生〕 英文法 (4) 英語音声学 (4) オーラル・コミュニケーションⅡ(2)	
		〔平成 22 ～ 23 年度入学生〕 英文法 (4) 英語音声学 (4) オーラル・コミュニケーションⅢ(2)	
文化財学科	必修 18 単位 必選 4 単位 選択 16 単位	/	
ドキュメンテーション学科	必修 16 単位 必選 2 単位 選択 18 単位		

ii. 中学校または高等学校の教育実習Ⅰを履修していること。

iii. 定期健康診断を受診し異常のないこと。

iv. 前後 3 回の教育実習説明会に全て出席していること。

(5) 「介護等の体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律」および同法施行規則により、義務教育課程の免許状を取得する場合は、特別支援学校および社会福祉施設等での 7 日間の介護、介助、交流等の体験が義務づけられている。従って中学校の免許状取得を希望する者は、この体験を行なう必要がある。

本学では、体験を行なう学年を 3 年次と定め、大学が窓口となり関係諸施設等と交渉、連絡にあたる。このための説明会並びに事前指導を 2 ～ 3 年次に行ない、詳細を説明するので、中学校免許状取得希望者は必ず出席すること。説明会の日程は掲示により連絡する。

(6) 免許状授与申請について

所定の単位を修得した者（中学校免許状取得予定者は介護等の体験を終了している者）は、自ら申請することにより教育委員会から免許状が授与される。その申請の方法は二通りある。

① 一括申請

神奈川県教育委員会に対して大学を通じて一括して免許状授与申請を行なう、一括申請手続きがある。この取り扱いを希望する者に対しては説明会を開催するので、必ず出席し遺漏のないようにすること。説明会の日程は掲示により連絡する。

一括申請の取り扱いを受けた者には、卒業時に免許状が配布される。

② 個人申請

一括申請によらない場合は、各自が住民票のある都道府県教育委員会に申請し、免許状の交付を受ける。

司書・司書教諭課程

白紙

平成24～28年度入学生に適用

1. 司書課程について

「図書館法」(昭和25年公布) 第四条には「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。司書は、図書館の専門的事務に従事する。司書補は司書の職務を助ける。」と規定されている。この法律でいう図書館とは、社会教育の重要な施設としての一般公共図書館のことである。図書館における専門的事務とは、図書館活動に必要な図書館資料を選択収集し、これを専門技術によっていつでも利用できる状態に整理保存し、さらに人々の要求に応じて所蔵資料の十分な活用を図ることである。したがって図書館業務に従事しようとする者には、この資格は必要不可欠からざるものとなっている。

この資格を取得するためには、この法律の第五条に三つの方法が示されているが、その一つに「大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの」という条項がある。本学の司書課程はこの条項に基づいて設置されたもので、第1年次から第4年次までの間に所定の科目の単位を修得すれば、卒業と同時に司書となる資格を取得したことを証明する「修了証書」が、本学学長名で交付される。

2. 司書教諭課程について

司書教諭とは「学校図書館法」(昭和28年公布) で規定された学校図書館の専門的職員で、同法第五条には「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」とある。ここでいう学校図書館とは小、中、高校に設けられた図書館を指している。この司書教諭の資格取得については、同法第五条の2項に「前項の司書教諭は、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は教諭(以下この項において「主幹教諭等」という。)をもって充てる。この場合において、当該主幹教諭等は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。」と規定されている。本学の司書教諭課程はこの講習を代行するものとして設置されたものであるが、この課程で資格を取得しようとする者は、卒業と同時に教育職員免許状をもあわせて取得できるように配慮しなければならない。

司書教諭の資格は、申請に基づいて文部科学省から「修了証書」が交付されるが、申請に関する書類ならびに手続きについては、4年次の学年末に本学において説明会を行なうので、必ずこれに出席して所定の手続きを行わなければならない。

3. 登録ならびに課程費納入について

(1) 登 録

司書・司書教諭課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

(2) 課程費納入

司書・司書教諭課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

4. 単位履修方法について

(1) 履修上の注意

(イ) 本課程の履修は1年次より許可する。

(ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。

(2) 履修方法

司書の資格を得ようとする者は、(イ) 図書館に関する科目の表中、必修全13科目22単位と選択科目8単位の中から2科目4単位以上をあわせて修得しなければならない。

司書教諭の資格を得ようとする者は、(ロ) 学校図書館に関する科目の表中、全科目12単位を修得しなければならない。

(イ) 図書館に関する科目

図書館法施行規則に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必・選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
図書館概論(2)	図書館概論	必	2	後期	蛭田廣一	1	
情報資源組織論(2)	情報資源組織論	必	2	後期	角田裕之		
生涯学習概論(2)	生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡了	2	学芸員課程と共通
図書館情報技術論(2)	図書館情報技術論	必	2	前期	藤田岳久		
図書館サービス概論(2)	図書館サービス論	必	2	後期	酒井由紀子		
図書館情報資源概論(2)	図書館情報資源論Ⅰ	必	2	前期	中村克明		
情報資源組織演習(2)	情報資源組織演習Ⅰ	必	1	前期	(a)角田裕之 (b)松本勝久		
	情報資源組織演習Ⅱ	必	1	後期	(a)角田裕之 (b)松本勝久		
図書館制度・経営論(2)	図書館制度・経営論	必	2	前期	蛭田廣一	3	
児童サービス論(2)	児童サービス論	必	2	後期	汐崎順子		
情報サービス論(2)	情報サービス論	必	2	前期	宮原志津子		
情報サービス演習(2)	情報サービス演習Ⅰ	必	1	後期	(a)(b)宮原志津子		
	情報サービス演習Ⅱ	必	1	後期	(a)(b)江草由佳		
図書館情報資源特論(1)	図書館情報資源論Ⅱ	選	2	前期	伊倉史人		
図書館サービス特論(1)	図書館サービス特論	選	2	前期	元木章博		
図書館基礎特論(1)	情報リテラシーⅠ	選	2	前・後	鈴木かおり 横山 博	1	
図書・図書館史(1)	図書・図書館史	選	2	前期	久保木秀夫	3	

※ 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「生涯学習概論」「図書館概論」

(ロ) 学校図書館に関する科目

学校図書館司書教諭講習規定に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
学校経営と学校図書館 (2)	学校経営と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
学校図書館メディアの構成 (2)	図書館情報資源論 I	必	2	前期	中村克明	2	
	情報資源組織論	必	2	後期	角田裕之	1	
学習指導と学校図書館 (2)	学習指導と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
読書と豊かな人間性 (2)	読書と豊かな人間性	必	2	後期	河西由美子	3	
情報メディアの活用 (2)	情報メディアの活用	必	2	前・後	鈴木かおり 横山 博	1	※

※ 「情報メディアの活用」は、日本文学科、英語英米文学科、文化財学科の学生は「情報リテラシー I」を履修し単位を修得すること。

ドキュメンテーション学科の学生は「情報機器教育論」を履修し、単位を修得すること。

◎ドキュメンテーション学科の学生の司書・司書教諭課程履修について

ドキュメンテーション学科の学生は、下表右欄に掲げた学科専門科目の単位を修得することにより、左欄に掲げた図書館・学校図書館に関する科目の単位を修得したものとみなす。

図書館・学校図書館に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目及び単位
図書館概論 (2)	図書館概論 (2)
情報資源組織論 (2)	ドキュメント処理概論 (2)
情報リテラシー I (2)	情報機器教育論 (2)
情報サービス論 (2)	情報サービス概論 (2)
情報資源組織演習 I (1)	ドキュメント処理演習 I (2)
情報資源組織演習 II (1)	ドキュメント処理演習 II (2)
情報サービス演習 I (1)	情報サービス演習 I (2)
情報サービス演習 II (1)	情報サービス演習 II (2)
図書館情報技術論 (2)	図書館情報技術論 (2)
図書館サービス論 (2)	図書館サービス論 (2)
図書館情報資源論 I (2)	図書館情報資源論 I (2)
図書館情報資源論 II (2)	図書館情報資源論 II (2)
図書館制度・経営論 (2)	図書館制度・経営論 (2)
児童サービス論 (2)	児童サービス論 (2)

5. 資格修了証について

司書については、本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

司書教諭については、本学所定の単位を修得し、かつ教育職員免許状を取得した者に対して、本人の申請に基づき本学が文部科学省に一括して申請する。「修了証書」は卒業後文部科学省から交付される。該当者は4年次の学年末に行う説明会に必ず出席し、申請に要する書類を所定の期日までに教学課へ提出すること。

平成21～23年度入学生に適用

1. 司書課程について

「図書館法」(昭和25年公布) 第四条には「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。司書は、図書館の専門的事務に従事する。司書補は司書の職務を助ける。」と規定されている。この法律でいう図書館とは、社会教育の重要な施設としての一般公共図書館のことである。図書館における専門的事務とは、図書館活動に必要な図書館資料を選択収集し、これを専門技術によっていつでも利用できる状態に整理保存し、さらに人々の要求に応じて所蔵資料の十分な活用を図ることである。したがって図書館業務に従事しようとする者には、この資格は必要不可欠からざるものとなっている。

この資格を取得するためには、この法律の第五条に三つの方法が示されているが、その一つに「大学を卒業した者で大学において図書館に関する科目を履修したもの」という条項がある。本学の司書課程はこの条項に基づいて設置されたもので、第1年次から第4年次までの間に所定の科目の単位を修得すれば、卒業と同時に司書となる資格を取得したことを証明する「修了証書」が、本学学長名で交付される。

2. 司書教諭課程について

司書教諭とは「学校図書館法」(昭和28年公布) で規定された学校図書館の専門的職員で、同法第五条には「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」とある。ここでいう学校図書館とは小、中、高校に設けられた図書館を指している。この司書教諭の資格取得については、同法第五条の2項に「前項の司書教諭は、教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。」と規定されている。本学の司書教諭課程はこの講習を代行するものとして設置されたものであるが、この課程で資格を取得しようとする者は、卒業と同時に教育職員免許状をもあわせて取得できるように配慮しなければならない。

司書教諭の資格は、申請に基づいて文部科学省から「修了証書」が交付されるが、申請に関する書類ならびに手続きについては、4年次の学年末に本学において説明会を行なうので、必ずこれに出席して所定の手続きを行なわなければならない。

3. 登録ならびに課程費納入について

(1) 登録

司書・司書教諭課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

(2) 課程費納入

司書・司書教諭課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

4. 単位履修方法について

(1) 履修上の注意

- (イ) 本課程の履修は1年次より許可する。
- (ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。
- (ハ) 旧科目と新科目の読み替え等について

平成21年に図書館法施行規則の一部改正に伴う図書館に関する科目の改正が行われたため、本学でも平成24年4月1日から新カリキュラムで開講している。そのため、旧カリキュラムを履修している平成23年度以前入学生は、以下の点に留意する必要がある。

- ① 平成23年度以前入学生は、卒業するまでに旧カリキュラムの司書となる資格に必要なすべての単位を修得した場合に限り、新科目の司書となる資格に必要なすべての単位を修得したものとみなす。
- ② 平成23年度以前入学生が、平成24年4月1日以降に司書の資格取得に必要なすべての旧科目の単位を修得できず卒業した場合、平成24年4月1日以降に修得した旧科目の単位は、相当する新科目の単位とみなすことができないため、無効となる。平成24年3月31日以前に修得した旧科目については新科目に読み替えることができる。
- ③ 旧科目「レファレンスサービス演習」と「情報検索演習」のいずれか一方の科目のみ修得して卒業した場合、科目等履修で残りの科目だけを修得しても新科目「情報サービス演習」を修得したことにはならない。平成24年3月31日以前に旧科目両方を修得している場合のみ、新科目「情報サービス演習」に読み替えが可能となる。どちらか一方のみ修得している場合は、新たに「情報サービス演習」を取り直す必要がある。

(2) 履修方法

司書の資格を得ようとする者は、(イ) 図書館に関する科目の表中、必修全13科目22単位と選択科目8単位の中から1科目2単位以上をあわせて修得しなければならない。

司書教諭の資格を得ようとする者は、(ロ) 学校図書館に関する科目の表中、全科目12単位を修得しなければならない。

(イ) 図書館に関する科目

図書館法施行規則に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
図書館概論(2)	図書館概論	必	2	後期	蛭田廣一	1	
資料組織概説(2)	資料組織概説	必	2	後期	角田裕之		
生涯学習概論(1)	生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡 了	2	学芸員課程と共通
図書館サービス論(2)	図書館サービス論	必	2	後期	酒井由紀子		
図書館資料論(2)	図書館資料論Ⅰ	必	2	前期	中村克明		
資料組織演習(2)	資料組織演習Ⅰ	必	1	前期	(a)角田裕之 (b)松本勝久		
	資料組織演習Ⅱ	必	1	後期	(a)角田裕之 (b)松本勝久		

図書館経営論(1)	図書館経営論	必	2	前期	蛭田廣一	3	
児童サービス論(1)	児童サービス論	必	2	後期	汐崎順子		
情報サービス概説(2)	情報サービス概説	必	2	前期	宮原志津子		
レファレンスサービス演習(1)	レファレンスサービス演習	必	1	後期	(a)(b)宮原志津子		
情報検索演習(1)	情報検索演習	必	1	後期	(a)(b)江草由佳		
専門資料論(1)	図書館資料論Ⅱ	必	2	前期	伊倉史人		
資料特論(1)							
コミュニケーション論(1)	コミュニケーション論	選	2	後期	吉村順子	2	
図書館特論(1)	情報リテラシーⅠ	選	2	前・後	鈴木かおり 横山 博	1	
図書及び図書館史(1)	図書及び図書館史	選	2	前期	久保木秀夫	3	
情報機器論(1)	情報機器教育論	選	2	前期	—————	3・4	28年度閉講

※ 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「生涯学習概論」「図書館概論」「コミュニケーション論」

(ロ) 学校図書館に関する科目

学校図書館司書教諭講習規定に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必・選	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
学校経営と学校図書館(2)	学校経営と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
学校図書館メディアの構成(2)	図書館資料論Ⅰ	必	2	前期	中村克明	2	
	資料組織概説	必	2	後期	角田裕之	1	
学習指導と学校図書館(2)	学習指導と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
読書と豊かな人間性(2)	読書と豊かな人間性	必	2	後期	河西由美子	3	
情報メディアの活用(2)	情報メディアの活用	必	2	前期	元木章博	3・4	※

※ 「情報メディアの活用」は、「情報機器教育論」を履修し単位を修得すること。

◎ドキュメンテーション学科の学生の司書・司書教諭課程履修について

ドキュメンテーション学科の学生は、下表右欄に掲げた学科専門科目の単位を修得することにより、左欄に掲げた図書館・学校図書館に関する科目の単位を修得したものとみなす。

図書館・学校図書館に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目及び単位
図書館概論(2)	図書館概論(2)
情報機器教育論(2)	情報機器教育論(2)
資料組織概説(2)	ドキュメント処理概論(2)
情報サービス概説(2)	情報サービス概論(2)

資料組織演習Ⅰ(1)	ドキュメント処理演習Ⅰ(2)
レファレンスサービス演習(1)	情報サービス演習Ⅰ(2)
資料組織演習Ⅱ(1)	ドキュメント処理演習Ⅱ(2)
情報検索演習(1)	情報サービス演習Ⅱ(2)
図書館サービス論(2)	図書館サービス論(2)
図書館資料論Ⅰ(2)	図書館資料論Ⅰ(2)
図書館経営論(2)	図書館経営論(2)
児童サービス論(2)	児童サービス論(2)
図書館資料論Ⅱ(2)	図書館資料論Ⅱ(2)

5. 資格修了証について

司書については、本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

司書教諭については、本学所定の単位を修得し、かつ教育職員免許状を取得した者に対して、本人の申請に基づき本学が文部科学省に一括して申請する。「修了証書」は卒業後文部科学省から交付される。該当者は4年次の学年末に行う説明会に必ず出席し、申請に要する書類を所定の期日までに教学課へ提出すること。

白紙

学 芸 員 課 程

白紙

平成24～28年度入学生に適用

(1) 学芸員課程について

博物館は、人類共有の財産である貴重な資料を分かち合い、文化を継承、創造していく機関である。博物館は、過去と現在と未来をつなぐことで、豊かな感性と知性にあふれる力ある社会を築くことに貢献する（「博物館関係者の行動規範」から日本博物館協会 平成24年制定）。

日本の博物館には、美術館、郷土館、文学館、植物園、動物園、水族館、天文館など多様で大小様々な規模の館・園があり、「博物館法」（昭和26年制定）により規定されている。設置者や開館日数などの制度的諸条件により「登録博物館」と「相当施設」に分類し、いずれも館長及び学芸員を置くことを条件の一つとしている。博物館の設置者には、地方公共団体、公益法人、宗教法人その他の法人などがあり、館種や成り立ち、地域に即した特色ある活動をしている。

現在の日本の博物館数は、登録博物館が920館、総当施設には388館、その他の施設には2,852館の総計4,160館がある（平成26年3月末、日本博物館協会の集計）。さらに統計に集計されない多数の施設が、他にも存在している。

平成20年に博物館法、翌年には同施工規則が大幅に改正されて、学芸員の養成課程では、履修科目と履修単位が増加し、学外館務実習が必須となった。改正の理由は、より高い資質の学芸員の養成が社会から求められたからである。学芸員とは、博物館の専門的職員で、博物館資料（収蔵品）の「収集、保管、展示及び調査研究その他」など専門的事項をつかさどると、博物館法第4条に規定されている。また同5条に学芸員となるための資格を得るには、学士の学位を有し、大学において文部科学省令で定める博物館に関する所定の科目の単位を修得したものとされている。本学では文学部の学生を対象に、人文系博物館の学芸員を養成するために設置している。

(2) 登録ならびに課程費納入について

① 登録

学芸員課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

② 課程費納入

学芸員課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

(3) 単位履修方法について

① 履修上の注意

(イ) 本課程の履修は1年次より許可する。

(ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。

(ハ) 博物館実習は実技を主とする科目であるから、出席回数を絶対基準としており、最低5分の4以上の出席を必要とする。

② 受講上の注意

(イ) 博物館実習Ⅰを受講する者は県内または東京都内の博物館見学に参加し、レポートを提出しなければならない。

(ロ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、3年次終了までに博物館概論及び博物館実習Ⅰの単位を修得していなければならない。

(ハ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、学内実技及び博物館実務実習に参加し、レポートを提出しなければならない。なお、3年次にガイダンスが行なわれるので、必ず出席し、必要な手

続きを怠らないようにしなければならない。

(二) 博物館実習Ⅱ及び学外館務実習における博物館での実務実習は4年次で行なうことを原則とする。

(ホ) 博物館実習に関する掲示は、教学課掲示板に掲示する。

③ 履修方法

科目名	必・選	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
博物館概論	必	2	前期	緒方啓介	2	司書課程と共通 教職課程と共通
博物館経営論	必	2	後期	小池富雄		
生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡 了		
視聴覚教育	必	2	前・後	(a)(b)(c)(d)鈴木かおり		
博物館教育論	必	2	前期	高橋典子		
文化財各論Ⅳ	必	2	後期	富川武史		
博物館資料論	必	2	前期	大工原 豊	3	
博物館実習Ⅰ	必	1	後期	大工原 豊	2	文化財学科では実習Ⅰ～Ⅳ及び学外 館務実習をもってこれにかえる※1
博物館実習Ⅱ	必	2	通年	内藤浩之	4	
文化財科学Ⅰ	選	2	前期	星 恵理子	2～4	いずれか1科目を必ず修 得すること
文化財科学Ⅱ	選	2	後期	星 恵理子		
考古学	選	4	通年	田中和彦	1～4	
文化人類学	選	4	通年	鈴木佑記		
日本文化史Ⅰ	選	2	前期	久保田和彦	2～4	
日本文化史Ⅱ	選	2	後期	久保田和彦		
日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介		
日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介		
有職故実Ⅰ	選	2	前期	伊藤正義		
有職故実Ⅱ	選	2	後期	伊藤正義		
表象文化論Ⅰ	選	2	前期	(a)(b)石岡良治	1～4	
表象文化論Ⅱ	選	2	後期	(a)(b)石岡良治		
古筆鑑賞	選	4	通年	石澤一志	3・4	

上記より必修科目19単位、選択科目の中から2科目以上8単位以上の合計27単位以上を修得しなければならない。ただし、美術史（有職故実Ⅰ・Ⅱ、表象文化論Ⅰ・Ⅱ、古筆鑑賞を含む）のみの8単位の選択は認めない。

※1 平成26年度以降入学の文化財学科の学生は、実習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB及び博物館概論、博物館経営論の単位が未修得の場合は、学外館務実習を履修できない。

※2 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「生涯学習概論」「視聴覚教育」

(4) 科目等履修生について

在学中に学芸員資格取得のための単位が得られなかった場合には、科目等履修生となり、必要な単位を修得することができる。

(5) 資格修了証について

本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

平成21～23年度入学生に適用

(1) 学芸員課程について

博物館は、人類共有の財産である貴重な資料を分かち合い、文化を継承、創造していく機関である。博物館は、過去と現在と未来をつなぐことで、豊かな感性と知性にあふれる力ある社会を築くことに貢献する（「博物館関係者の行動規範」から日本博物館協会 平成24年制定）。

日本の博物館には、美術館、郷土館、文学館、植物園、動物園、水族館、天文館など多様で大小様々な規模の館・園があり、「博物館法」（昭和26年制定）により規定されている。設置者や開館日数などの制度的諸条件により「登録博物館」と「相当施設」に分類し、いずれも館長及び学芸員を置くことを条件の一つとしている。博物館の設置者には、地方公共団体、公益法人、宗教法人その他の法人などがあり、館種や成り立ち、地域に即した特色ある活動をしている。

現在の日本の博物館数は、登録博物館が920館、総当施設には388館、その他の施設には2,852館の総計4,160館がある（平成26年3月末、日本博物館協会の集計）。さらに統計に集計されない多数の施設が、他にも存在している。

平成20年に博物館法、翌年には同施工規則が大幅に改正されて、学芸員の養成課程では、履修科目と履修単位数が増加し、学外館務実習が必須となった。改正の理由は、より高い資質の学芸員の養成が社会から求められたからである。学芸員とは、博物館の専門的職員で、博物館資料（収蔵品）の「収集、保管、展示及び調査研究その他」など専門的事項をつかさどると、博物館法第4条に規定されている。また同5条に学芸員となるための資格を得るには、学士の学位を有し、大学において文部科学省令で定める博物館に関する所定の科目の単位を修得したものとされている。本学では文学部の学生を対象に、人文系博物館の学芸員を養成するために設置している。

(2) 登録ならびに課程費納入について

① 登録

学芸員課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

② 課程費納入

学芸員課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

(3) 単位履修方法について

① 履修上の注意

(イ) 本課程の履修は1年次より許可する。

(ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。

(ハ) 博物館実習は実技を主とする科目であるから、出席回数を絶対基準としており、最低5分の4以上の出席を必要とする。

(ニ) 旧科目と新科目の読み替え等について

平成21年に博物館法施行規則の一部改正に伴う博物館に関する科目の改正が行われたため、本学でも平成24年4月1日から新カリキュラムで開講している。そのため、旧カリキュラムを履修している平成23年度以前入学生は、以下の点に留意する必要がある。

① 平成23年度以前入学生は、卒業するまでに旧カリキュラムの学芸員となる資格に必要なすべての単位を修得した場合に限り、新科目の学芸員となる資格に必要なすべ

ての単位を修得したものとみなす。

- ② 平成23年度以前入学生が、平成24年4月1日以降に学芸員の資格取得に必要なすべての旧科目の単位を修得できず卒業した場合、平成24年4月1日以降に修得した旧科目の単位は、相当する新科目の単位とみなすことができないため、無効となる。平成24年3月31日以前に修得した旧科目については新科目に読み替えることができる。ただし、平成23年度以前入学の文化財学科の学生で旧科目の単位を修得できず卒業した場合は、博物館実習Ⅰ・博物館実習Ⅱを履修しなければならない。

② 受講上の注意

- (イ) 博物館実習Ⅰを受講する者は県内または東京都内の博物館見学に参加し、レポートを提出しなければならない。
- (ロ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、3年次終了までに博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ及び博物館実習Ⅰの単位を修得していなければならない。
- (ハ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、学内実技及び博物館実務実習に参加し、レポートを提出しなければならない。なお、3年次にガイダンスが行われるので、必ず出席し、必要な手続きを怠らないようにしなければならない。
- (ニ) 博物館実習Ⅱにおける博物館での実務実習は4年次で行うことを原則とする。
- (ホ) 博物館実習に関する掲示は、教学課掲示板に掲示する。

③ 履修方法

科目名	必・選	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
教育原理	必	2	前期	(a)(b)湯浅且敏	1	教職課程と共通
博物館学Ⅰ	必	2	前期	緒方啓介	2	司書課程と共通 教職課程と共通
博物館学Ⅱ	必	2	後期	小池富雄	2	
生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡了	2	司書課程と共通 教職課程と共通
視聴覚教育	必	2	前・後	(a)(b)(c)(d)鈴木かおり		
博物館学各論	必	2	前期	大工原豊	3	
博物館実習Ⅰ	必	1	後期	大工原豊	2	文化財学科では実習Ⅰ～ Ⅳをもってこれにかえる
博物館実習Ⅱ	必	2	通年	内藤浩之	4	
考古学	選	4	通年	田中和彦	1～4	
文化人類学	選	4	通年	鈴木佑記		
日本文化史Ⅰ	選	2	前期	久保田和彦	2～4	
日本文化史Ⅱ	選	2	後期	久保田和彦		
日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介		
日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介		
有職故実Ⅰ	選	2	前期	伊藤正義		
有職故実Ⅱ	選	2	後期	伊藤正義		
表象文化論Ⅰ	選	2	前期	(a)(b)石岡良治	1～4	
表象文化論Ⅱ	選	2	後期	(a)(b)石岡良治		
古筆鑑賞	選	4	通年	石澤一志	3・4	

上記より必修科目15単位、選択科目の中から2科目以上8単位以上の合計23単位以上を修得しなければならない。ただし、美術史（有職故実Ⅰ・Ⅱ、表象文化論Ⅰ・Ⅱ、古筆鑑賞を含む）のみの8単位の選択は認めない。

※ 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「教育原理」「生涯学習概論」「視聴覚教育」

(4) **科目等履修生について**

在学中に学芸員資格取得のための単位が得られなかった場合には、科目等履修生となり、必要な単位を修得することができる。

(5) **資格修了証について**

本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

白紙

宗侶養成課程

白紙

1. 宗侶養成課程について

本学は「建学の精神」のなかに「仏教主義、特に禅の実践によって、感謝とよろこびに充たされた、情操ゆたかな人柄が生まれる」と謳っているように仏教、特に禅の思想に導かれた教育を目指している。そのような趣旨のもと、本学において曹洞宗有為の人材を養成するために、曹洞宗宗侶養成課程（仏教専修科）が設置されている。

曹洞宗の教師資格の取得を希望する者は、卒業に必要な単位を修得し、さらに曹洞宗教育規程に基づく所定の単位を修得しなければならない。本課程は、曹洞宗教育規程に基づいて設置されたもので、これらの単位を修得し、所定の手続きをした者に対して、曹洞宗宗務庁より無試験で教師資格が付与される。本課程で取得できる教師資格は2等教師資格である。ただし在学中に一定の安居条件（曹洞宗宗制に定める僧堂において、規程の特殊安居）を満たしていることが必要で、未了の場合は卒業後の安居が必要となる。

2. 登 録

本課程を履修できる者は、曹洞宗の得度者（得度予定の者も含む）に限る。履修を希望する者は1年次の履修登録期間内に、教学課に届け出なければならない。併せて、所定の期間内に課程費を納入しなければならない。

3. 履修方法

下記の表に示すとおり、曹洞宗規程科目に対応する本学開講科目のうち、必修14単位、選択16単位、併せて30単位以上を履修すること。

曹洞宗教育規程科目（単位）	本学開講科目	必・選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
宗 乗 (8)	禅学	選	4	通年	池田道浩	1	28年度閉講
	禅宗史	選	4	通年	—————	全学年	
	宗典研究Ⅰ	必	2	前期	池田道浩	2・3・4	
	宗典研究Ⅱ	必	2	後期	池田道浩		
余 乗 (8)	宗教学	必	4	通年	下室覚道・ 鈴木一馨	1	
	文化人類学	選	4	通年	鈴木佑記	全学年	
	日本仏教史Ⅰ	選	2	前期	下室覚道	2・3・4	
	日本仏教史Ⅱ	選	2	後期	下室覚道		
	日本文化史Ⅰ	選	2	前期	久保田和彦		
	日本文化史Ⅱ	選	2	後期	久保田和彦		
教 化 (4)	倫理学Ⅰ（概説）	選	2	前期	山本剛史	全学年	
	倫理学Ⅱ	選	2	後期	山本剛史		
	社会学Ⅰ（概説）	選	2	前期	(a)(b)工藤 豪		
	社会学Ⅱ	選	2	後期	工藤 豪		
布 教 (4)	コミュニケーション論	選	2	後期	吉村順子	2・3・4	
	日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介		
	日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介		
	仏教保育	選	2	後期	橋本弘道	全学年	短大部保育科開講科目

参 禅 (4)	参禅Ⅰ	必	2	集中	下室覚道	全学年	} 大本山總持寺にて 実施
	参禅Ⅱ	必	2	集中	下室覚道		
法式声明 (2)	宗学実習	必	2	集中	下室覚道		
合 計			30				

履修する上で次の事項に注意すること。

- 1) 宗乗8単位の履修にあたっては、「禅学」または「禅宗史」のうち何れか1科目4単位を履修すること。
- 2) 備考欄中に短大部開講科目と記載されている科目は鶴見大学短期大学部に開設されている科目である。履修にあたっては、教学課の指示をうけること。
- 3) 「参禅」および「宗学実習」は大本山總持寺にて実施する実習科目である。

4. 実習科目について

「参禅Ⅰ」・「参禅Ⅱ」および「宗学実習」は実習科目であり、実施場所は主として大本山總持寺であるが、実施にあたっては予め教学課が行なう宗侶養成課程実習説明会に出席し、説明を受け、諸手続きを行なう必要がある。実習説明会に欠席した場合は、実習科目の履修を認めない。

- 1) 「参禅Ⅰ」は大本山總持寺において行なわれる日曜参禅会等に20回参加することにより2単位が与えられる。これを参禅実習という。
- 2) 「参禅Ⅱ」および「宗学実習」は大本山總持寺において行なわれる摂心会に参加することにより4単位が与えられる。これを摂心会実習という。
- 3) 参禅実習、摂心会実習のいずれかにおいても学内で行なわれる事前及び事後の指導を受け、定められた期日にレポートを提出しなければならない。

5. 修了証書について

定められた科目、単位を修得したものには、卒業時に修了証書を授与する。

6. 特殊安居について

2等教師の資格を得るためには、本課程を修了すること以外に、各自が曹洞宗宗制による特殊安居を完了しなければならない。

諸 規 程

文学部学生の外国留学に関する内規

鶴見大学文学部派遣留学に関する内規

鶴見大学文学部科目等履修生規程

鶴見大学日本文学会会則

鶴見大学英語英文学会会則

鶴見大学文化財学会会則

鶴見大学ドキュメンテーション学会会則

白紙

文学部学生の外国留学に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、鶴見大学学則第33条（以下「学則」という。）の規定に基づく留学のうち、鶴見大学文学部（以下「本学」という。）の学生で外国の受け入れ大学等高等教育機関において正規の学生として留学するものについて、必要な事項を定めることを目的とする。

(届出)

第2条 留学する者は、学則に基づき、留学前に休学願及び留学届を学長に提出しなければならない。

(授業科目の取り扱い)

第3条 授業継続願を事前に学長に提出することにより、同一科目の授業は留学前の1期と留学後の1期を継続することができる。

(留学修了手続)

第4条 留学を修了して帰国したときは、速やかに次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

- (1) 復学願
- (2) 留学修了届
- (3) 留学先の大学が発行の履修期間及び成績が明記された単位修得証明書

(修得単位の認定)

第5条 留学前及び留学後に、本学において履修した単位については1期ごとの出席状況、試験、レポートなどの成績により、担当教員が合格と判定した科目については文学部教授会の審議を経て、所定の単位が与えられる。

- 2 留学生受け入れ大学において修得した単位は、文学部教授会の審議を経て、30単位を上限として、認定することがある。

附 則

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行に伴い、昭和51年4月1日施行の文学部学生の外国留学に関する内規は廃止する。

鶴見大学文学部派遣留学に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、鶴見大学学則第33条の規定に基づく留学のうち、鶴見大学（以下「本学」という）の文学部学生（以下「学生」という）の派遣留学について、必要な事項を定めることを目的とする。

(派遣留学)

第2条 派遣留学とは、学生が、本学を休学することなく、本学と学術交流協定等を締結している外国の大学において、本学文学部が定める所定のプログラムに基づき、授業科目を履修することをいう。

(留学期間)

第3条 留学期間は、原則として1年以内とする。

2 留学期間の始期は4月1日又は10月1日、終期は9月30日又は3月31日とし、これらの日の前後に出国又は帰国する場合は、いずれかの日に読み替えることとする。

(留学期間中の学籍)

第4条 派遣留学期間中の学籍は、「留学」とし、この期間は在学年数に算入する。

(留学期間中の学納金)

第5条 派遣留学の期間における本学の学生納付金は、これを徴収する。

(留学支援金)

第6条 派遣留学生の修学を支援するため本学より留学支援金を支給することとする。

2 留学支援金の対象並びに金額は、個々の派遣留学プログラムにより決定する。

(修得単位の認定)

第7条 派遣留学において履修した授業科目について修得した単位は、文学部教授会の審議を経て、本学において修得した単位として認定することができる。

2 単位認定の方法及び単位数は、個々の派遣留学プログラムの内容に従い、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

(出願手続)

第8条 派遣留学を希望する学生は、個々の派遣留学プログラムの出願要領に従い、出願手続を行なうこととする。

(選考)

第9条 派遣留学生の選考については、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

(留学届)

第10条 選考された派遣留学生は、所定の留学届により、学長に届け出なければならない。

(留学修了手続)

第11条 派遣留学生在が派遣留学を修了して帰国したときは、速やかに次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

(1) 留学修了届（所定用紙）

(2) 履修期間及び成績が明記された単位修得証明書

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この改正内規は、平成27年4月1日から施行する。

鶴見大学文学部科目等履修生規程

(目的)

- 第1条 この規程は、鶴見大学学則（以下「学則」という。）第49条に基づき、鶴見大学文学部科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 高大連携による特別履修生を科目等履修生として受け入れる場合は、この規程の定めにかかわらず、高大連携高等学校との協定書及び覚書の定めるところによる。

(出願資格)

- 第2条 科目等履修を志願することのできる者は、学則第22条に規定する入学資格を有する者とする。
- 2 前条第2項に定める特別履修生は、高大連携高等学校との協定書及び覚書に基づき志願することができる。

(受入範囲)

- 第3条 科目等履修を志願する者のあるときは、正規の学生の学修の妨げにならない範囲で、選考のうえ受け入れる。

(履修の科目)

- 第4条 科目等履修において履修することのできる科目は、当該年度開講科目とする。ただし、科目等履修除外科目を別に定める。
- 2 履修できる単位数は、16単位を超えないものとする。

(履修の期間)

- 第5条 科目等履修の期間は、1年又は6ヵ月とする。

(出願手続)

- 第6条 科目等履修を志願する者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて願出するものとする。
- (1) 願書（本学所定の用紙）
 - (2) 最終学校の卒業証明書及び単位成績証明書 ただし、大学（短期大学を含む。）に在学中の者は在学証明書及び単位成績証明書（履修中の科目を明示したもの。）
 - (3) 履歴書
 - (4) 健康診断書（本学所定の用紙）
 - (5) 検定料 10,000円
- 2 科目等履修を修了した者が引続き出願をするときは、前項第2号の書類並びに第5号の検定料を省略することができる。

(審査方法)

- 第7条 科目等履修生の審査方法は、書類審査による。

(審査及び履修許可)

- 第8条 科目等履修の審査は、文学部教授会の審議を経て、学長が科目等履修を許可する。

(履修手続)

- 第9条 科目等履修を許可された者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる登録料及び受講料を納入し、誓約書等の書類を提出しなければならない。

- (1) 登録料 21,000 円 (ただし、本学の卒業生は半額とする。)
- (2) 受講料 (別途定める。)
- (3) 誓約書 (本学所定の用紙)
- (4) 写真
- (5) 住民票記載事項証明書 (本学所定の用紙) ただし、外国人の証明書は別に定める。
- (6) 履修届

- 2 科目等履修を修了した者が引続き履修許可されたときは、前項第 1 号の登録料の納入及び第 5 号の書類の提出を免除する。

(科目等履修生証の交付)

第10条 科目等履修手続を完了した者には、科目等履修生証を交付する。

(単位の認定)

第11条 科目等履修を修了した者には単位を認定することができる。単位の認定に当たっては、正規の学生に準じ、出席日数並びに担当教員の指定する試験・レポート等の評価に基づいて、学長が決定する。

(履修許可の取消)

第12条 科目等履修生が本学の秩序を乱すと認めたととき、又は疾病その他の事由により学修の見込みがないと認められた者に対しては、学長が、履修許可を取消することがある。

(規程の準用)

第13条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関する事項は、学則及びその他学内諸規程を準用する。

附 則

この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

鶴見大学日本文学会会則

1. 本会は鶴見大学日本文学会と称する。
2. 本会は鶴見大学文学部日本文学科・同文学研究科日本文学専攻の教職員・学生および卒業生その他の関係者をもって組織する。
3. 本会は日本文化を背景とする国文学・国語学について会員相互の研究を推進しかつ親睦をはかり学術の発展に貢献することを目的とする。
4. 本会は総会を毎年1回開く。ただし、必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
5. 本会は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 研究会・研究発表会。
 - (2) 講演会・展示会等の開催。
 - (3) 会誌・論叢等の編集刊行。
 - (4) 見学等の実施。
 - (5) 他の学会との交流。
 - (6) その他の事業。
6. 本会に次の役員を置く。
 - (1) 会長（1名） 会長は本会を代表し会務を統括する。日本文学科主任がこれに当たる。
 - (2) 委員（若干名） 委員は諸事業の企画運営をはかり実務にたずさわる。委員は専任教職員・学生会員のあいだでそれぞれ互選する。任期は1年とし重任を妨げない。
 - (3) 顧問 必要に応じて置く。
7. 本会の経費は会費（年額千円）・寄付金その他の収入をもってこれに当てる。
8. 本会は事務所を鶴見大学日本文学科研究室に置く。

附則 本会則は昭和40年5月29日から施行する。

平成10年2月3日一部改正。

鶴見大学英語英文学会会則

第1条 本会は鶴見大学英語英文学会 (The Tsurumi Society of English Studies) と称する。

第2条 本会は広く英語、英米文学の研究ならびに会員相互の親睦をはかることを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行なう。

- (1) 研究会
- (2) 講演会
- (3) 研究誌の刊行
- (4) その他

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 普通会員 本大学の英語英米文学科の教職員および在学生
- (2) 準会員 本大学の英語英米文学科の卒業生
- (3) 特別会員 (1)、(2) に該当しない者で本会に入会を希望する者
(ただし会員1名の推薦に基づいて会長の承認を得なければならない)
- (4) 名誉会員 本学を退職された教授

第5条 本会には次の役員をおき、任期は2年とする。

- (1) 会長 1名 (英語英米文学科主任が務め、任期は学科主任在職中とする)
- (2) 委員 { 各クラス2名 (普通会員より選出)
教員 若干名

第6条 総会は講演会と同時に開催する。ただしこの他に必要に応じて開くことができる。

第7条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終る。

第8条 会員は次の会費を収めることを原則とする。(ただし名誉会員を除く)

- | | |
|----------------|------------|
| (1) 教職員および特別会員 | 年額 1,500 円 |
| (2) 学 生 | 年額 1,000 円 |
| (3) 卒 業 生 | 年額 600 円 |

第9条 本会の事務局は横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部英語英米文学科研究室におく。

附 則 本会会則は1979年4月1日から発効せるものとする。

鶴見大学文化財学会会則

- 1条 本会は鶴見大学文化財学会と称する。
- 2条 本会は鶴見大学文化財学科教職員・学生および卒業生、その他の関係者をもって組織する。
- 3条 本会は文化財にかかわる人文・自然諸科学の学問交流を活発化し、会員相互の研究を推進し、かつ親睦をはかることを目的とする。
- 4条 本会は総会を毎年一回開く。ただし必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
- 5条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 研究等の発表
 - (2) 講演会の開催
 - (3) 会誌・会報等の編集刊行
 - (4) 研究部会活動
 - (5) HP上での広報活動
 - (6) 親睦その他の事業
- 6条 本会に次の役員を置く。
 - (1) 会長（1名）は学科主任とし、本会を代表し会務を統括する
 - (2) 委員（若干名）。委員は会員の互選とし、会長の任命を受け会の運営にあたる任期は1年とし重任を妨げない
 - (3) 会計監査（2名）を置く
- 7条 本会の会員は年会費（千五百円）を納入する。経費は会費・寄付金その他の収入をもってこれにあてる。
- 8条 本会は事務局を鶴見大学文化財学科合同研究室に置く。

附則

この会則は、平成11年10月16日から施行する。

附則

この改正会則は、平成28年4月1日から施行する。

鶴見大学ドキュメンテーション学会会則

- 一. 本会は鶴見大学ドキュメンテーション学会と称する。
- 二. 本会は鶴見大学ドキュメンテーション学科教職員・学生および卒業生、その他の関係者をもって組織する。
- 三. 本会は広い範囲における文献情報の処理に関する知識と技術についての研究を推進し会員相互の研鑽をつむと共に親睦をはかることを目的とする。
- 四. 本会は毎年1回総会を開く。ただし、必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
- 五. 本会は第三条の目的を達成するために次の事業を行なう。
 - (1) 研究会
 - (2) 講演会・研究発表会の開催
 - (3) 会誌・会報等の編集刊行
 - (4) 見学会の実施
 - (5) その他の事業
- 六. 本会に次の役員を置く。
 - (1) 会長（1名）は学科主任とし、本会を代表し会務を統括する
 - (2) 委員（若干名）。委員は会員の互選とし、会長の任命を受け会の運営にあたる。
任期は1年とし重任を妨げない
 - (3) 会計監査（2名）を置く
- 七. 本会の会員は年会費（千円）を納入する。経費は会費・寄付金その他の収入をもってこれにあてる。
- 八. 本会は事務局を鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科合同研究室に置く。
附則 本会は、平成16年7月7日から発足する。

《文学研究科》

白紙

平成 28 年度大学院文学研究科学年曆

平成 28 年 4 月	5 日 (火)	入学式・オリエンテーション
	6 日 (水)	前期授業開始
	6 日 (水) から } 20 日 (水) まで }	履修登録期間
	29 日 (金)	昭和の日
5 月	3 日 (火)	憲法記念日
	4 日 (水)	みどりの日
	5 日 (木)	こどもの日
6 月	1 日 (水) から } 2 日 (木) まで }	修士論文題目届提出期間
7 月	1 日 (金)	精霊祭 (2 時限)
	9 日 (土) } 16 日 (土) }	午後補講日 ※午前は通常授業
	18 日 (月)	海の日
	23 日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
	26 日 (火)	前期授業最終日
	27 日 (水) から } 28 日 (木) まで }	補講日
	29 日 (金) から } 8 月 4 日 (木) まで }	前期試験期間
	11 日 (木)	山の日
	5 日 (金) から } 9 月 14 日 (水) まで }	夏季休暇期間
	15 日 (木)	後期授業開始
	19 日 (月)	敬老の日
	22 日 (木)	秋分の日
10 月	10 日 (月)	体育の日
	12 日 (水)	御征忌
	21 日 (金)	大学祭準備 (全時限休講)
	22 日 (土) から } 23 日 (日) まで }	大学祭 (全時限休講)
	24 日 (月)	大学祭後片づけ (1・2 時限休講) ※午後は通常授業
11 月	3 日 (木)	文化の日
	9 日 (水) から } 10 日 (木) まで }	修士論文最終題目届提出期間
	18 日 (金)	太祖降誕会 (予修)
	21 日 (月)	開学記念日 ※通常授業
	22 日 (火)	全学研修日 (休業)
	23 日 (水)	勤労感謝の日
12 月	3 日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業
	8 日 (木)	成道会 (2 時限)
	10 日 (土)	午後補講日 ※午前は通常授業

	17日(土)	午後補講日 ※午前は通常授業
	23日(金)	天皇誕生日
	24日(土)	午後補講日 ※午前は通常授業
	28日(水)	午前月曜授業振替日、午後補講日
平成29年1月	29日(木) から }	冬季休暇期間
	5日(木) まで }	
	6日(金)	授業再開
	7日(土)	午後補講日 ※午前は通常授業
	9日(月)	成人の日
	11日(水) から }	修士論文提出期間
	12日(木) まで }	
	13日(金)	補講日(午前のみ) ※午後休講
	14日(土)	大学入試センター試験(休講)
	17日(火)	補講日
	21日(土)	補講日
	23日(月)	後期授業最終日
	24日(火)	補講日
	25日(水) から }	後期試験期間
	31日(火) まで }	
2月	11日(土)	建国記念の日
	15日(水)	涅槃会
3月	14日(火)	学位記授与式
	20日(月)	春分の日

※ この学年暦は事情により変更することがあります。

開講科目及び担当者

白紙

1. 日本文学専攻

博士前期課程

科 目		単 位	開講期	担 当 者	備 考
I 群	文献読解Ⅰ(古典)	2	後期	講師(非) 平藤 幸	
	文献読解Ⅱ(近代)	2	前期	講師(非) 山田吉郎	
	文献読解Ⅲ(漢文)	2	後期	教授 金 文京	
	文献読解Ⅳ(日本語学)	2	前期	教授 小林恭治	
II 群	日本文学研究Ⅰ(上代)	4	通年	准教授 新沢典子	注(1)
	日本文学研究Ⅱ(中古)	4	通年	教授 高田信敬	注(2)
	日本文学研究Ⅲ(中世)	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学研究Ⅳ(近世)	4	通年	講 師 神林尚子	
	日本文学研究Ⅴ(近代)	4	通年	講師(非) 山田吉郎	
	日本語学研究	4	通年	—————	本年度閉講
	中国文学研究	4	通年	教授 金 文京	注(3)
	日本書誌研究	4	通年	准教授 久保木 秀夫	
	人文情報管理研究	4	通年	教授 田辺良則	
人文情報検索研究	4	通年	教授 河西由美子		
III 群	日本文学演習Ⅰ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅱ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅲ	4	通年	教授 中川 博夫	
	日本文学演習Ⅳ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅴ	4	通年	教授 片山 倫太郎	注(4)
	日本語学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	日本史史料演習	4	通年	—————	本年度閉講
	日本書誌演習Ⅰ(古典)	4	通年	教授 伊倉史人	
	日本書誌演習Ⅱ(近代)	4	通年	—————	本年度閉講

修了所要単位32単位のうち、I群より4科目8単位、II群、III群よりそれぞれ3科目12単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。なお、I群は必修とし原則として1年次に履修すること。

各群所要単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修することができ、単位は認定される。

II群、III群については同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定される。

注(1) 後期課程科目「上代文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅰ(上代)」、後期課程の学生は「上代文学特殊研究」として履修することとする。

注(2) 後期課程科目「中古文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅱ(中古)」、後期課程の学生は「中古文学特殊研究」として履修することとする。

注(3) 後期課程科目「中国文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「中国文学研究」、後期課程の学生は「中国文学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 後期課程科目「近代文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学演習Ⅴ」、後期課程の学生は「近代文学特殊研究」として履修することとする。

博士後期課程

科 目		単 位	担 当 者	備 考
I 群	上代文学特殊研究	4	准教授 新 沢 典 子	注(1)
	中古文学特殊研究	4	教 授 高 田 信 敬	注(2)
	中世文学特殊研究	4	—————	本年度閉講
	近世文学特殊研究	4	—————	本年度閉講
	近代文学特殊研究	4	教 授 片 山 倫 太 郎	注(3)
	日本語学特殊研究	4	—————	本年度閉講
	中国文学特殊研究	4	教 授 金 文 京	注(4)
II 群	上代文学演習	4	—————	本年度閉講
	中古文学演習	4	—————	本年度閉講
	中世文学演習	4	教 授 中 川 博 夫	
	近世文学演習	4	—————	本年度閉講
	近代文学演習	4	—————	本年度閉講
	日本語学演習	4	—————	本年度閉講

指導教授の授業科目12単位を含め、20単位以上履修し単位を修得すること。同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

- 注(1) 前期課程科目「日本文学研究Ⅰ(上代)」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅰ(上代)」、後期課程の学生は「上代文学特殊研究」として履修することとする。
- 注(2) 前期課程科目「日本文学研究Ⅱ(中古)」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅱ(中古)」、後期課程の学生は「中古文学特殊研究」として履修することとする。
- 注(3) 前期課程科目「中国文学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「中国文学研究」、後期課程の学生は「中国文学特殊研究」として履修することとする。
- 注(4) 前期課程科目「日本文学演習Ⅴ」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学演習Ⅴ」、後期課程の学生は「近代文学特殊研究」として履修することとする。

2. 英米文学専攻

博士前期課程

科 目	単位	開講期	担 当 者	備 考
イギリス文学演習	4	通年	講 師 菅野素子	
アメリカ文学演習	4	通年	准教授 深谷素子	
英語学演習	4	通年	—————	本年度閉講
英米文化演習	4	通年	教 授 相良英明	注(1)
イギリス文学研究	4	通年	准教授 コネリー	注(2)
アメリカ文学研究	4	通年	—————	本年度閉講
英語学 研 究	4	通年	准教授 宮下治政	注(3)
英米文化 研 究	4	通年	講 師 鈴木周太郎	
ヨーロッパ文学・文化研究	4	通年	—————	本年度閉講
比較文学・文化研究	4	通年	教 授 相良英明	注(4)
言語学 研 究	4	通年	—————	本年度閉講
表象文化 研 究	4	通年	—————	本年度閉講
異文化間コミュニケーション研究	4	通年	准教授 松山明子	注(5)
アカデミック・ライティング	4	通年	—————	本年度閉講
アカデミック・プレゼンテーション	4	通年	准教授 コネリー	
人文情報管理演習	4	通年	教 授 角田浩之	
人文情報管理研究	4	通年	教 授 田辺良則	
人文情報検索研究	4	通年	教 授 河西由美子	
人文情報演習Ⅰ	4	通年	教 授 大矢一志	
人文情報演習Ⅱ	4	通年	教 授 元木章博	
英語教育 研 究	4	通年	准教授 根岸純子	
英語教育演習	4	通年	教 授 草薙優加	注(6)
国際文化 研 究	4	通年	教 授 加川順治	注(7)

注(1) 後期課程科目「英米文化特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英米文化演習」、後期課程の学生は「英米文化特殊研究」として履修することとする。

注(2) 後期課程科目「英文学特殊研究Ⅰ」と合併して開講し、前期課程の学生は「イギリス文学研究」、後期課程の学生は「英文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(3) 後期課程科目「英語学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語学研究」、後期課程の学生は「英語学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 後期課程科目「比較文学・文化特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「比較文学・文化研究」、後期課程の学生は「比較文学・文化特殊研究」として履修することとする。

注(5) 後期課程科目「異文化間コミュニケーション特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「異文化間コミュニケーション研究」、後期課程の学生は「異文化間コミュニケーション特殊研究」として履修することとする。

注(6) 後期課程科目「英語教育特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語教育演習」、後期課程の学生は「英語教育特殊研究」として履修することとする。

注(7) 後期課程科目「国際文化特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「国際文化研究」、後期課程の学生は「国際文化特殊研究」として履修することとする。

博士後期課程

平成 27 ～ 28 年度入学生

科 目	単位	開講期	担 当 者	備 考
英 文 学 特 殊 研 究 I	4	通 年	准教授 コネリー	注(1)
英 文 学 特 殊 研 究 II	4	通 年	—————	本年度閉講
米 文 学 特 殊 研 究 I	4	通 年	—————	本年度閉講
米 文 学 特 殊 研 究 II	4	通 年	—————	本年度閉講
英 語 学 特 殊 研 究	4	通 年	准教授 宮下治政	注(2)
英 文 学 演 習	4	通 年	教 授 相良英明	
米 文 学 演 習	4	通 年	—————	本年度閉講
英 語 学 演 習	4	通 年	准教授 宮下治政	
英 米 文 化 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 相良英明	注(3)
比 較 文 学・文 化 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 相良英明	注(4)
英 語 教 育 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 草薙優加	注(5)
国 際 文 化 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 加川順治	注(6)
異文化間コミュニケーション特殊研究	4	通 年	准教授 松山明子	注(7)

注(1) 前期課程科目「イギリス文学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「イギリス文学研究」、後期課程の学生は「英文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(2) 前期課程科目「英語学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語学研究」、後期課程の学生は「英語学特殊研究」として履修することとする。

注(3) 前期課程科目「英米文化演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「英米文化演習」、後期課程の学生は「英米文化特殊研究」として履修することとする。

注(4) 前期課程科目「比較文学・文化研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「比較文学・文化研究」、後期課程の学生は「比較文学・文化特殊研究」として履修することとする。

注(5) 前期課程科目「英語教育演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語教育演習」、後期課程の学生は「英語教育特殊研究」として履修することとする。

注(6) 前期課程科目「国際文化研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「国際文化研究」、後期課程の学生は「国際文化特殊研究」として履修することとする。

注(7) 前期課程科目「異文化間コミュニケーション研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「異文化間コミュニケーション研究」、後期課程の学生は「異文化間コミュニケーション特殊研究」として履修することとする。

平成 24 ～ 26 年度入学生

科 目	単 位	開講期	担 当 者	備 考
英 文 学 特 殊 研 究 I	4	通 年	准教授 コネリー	注(1)
英 文 学 特 殊 研 究 II	4	通 年	—————	本年度閉講
米 文 学 特 殊 研 究 I	4	通 年	—————	本年度閉講
米 文 学 特 殊 研 究 II	4	通 年	—————	本年度閉講
英 語 学 特 殊 研 究	4	通 年	准教授 宮下治政	注(2)
英 文 学 演 習	4	通 年	教 授 相良英明	
米 文 学 演 習	4	通 年	—————	本年度閉講
英 語 学 演 習	4	通 年	准教授 宮下治政	
英 米 文 化 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 相良英明	注(3)
比 較 文 学・文 化 特 殊 研 究	4	通 年	教 授 相良英明	注(4)

- 注(1) 前期課程科目「イギリス文学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「イギリス文学研究」、後期課程の学生は「英文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。
- 注(2) 前期課程科目「英語学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語学研究」、後期課程の学生は「英語学特殊研究」として履修することとする。
- 注(3) 前期課程科目「英米文化演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「英米文化演習」、後期課程の学生は「英米文化特殊研究」として履修することとする。
- 注(4) 前期課程科目「比較文学・文化研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「比較文学・文化研究」、後期課程の学生は「比較文学・文化特殊研究」として履修することとする。

3. 文化財学専攻

博士前期課程

科 目		単 位	担 当 者	備 考
A 群	文化財学特殊講義Ⅰ (文献資料学)	4	教授 伊藤正義	
	文化財学特殊講義Ⅱ (文献資料学)	4	教授 石田千尋	
	文化財学特殊講義Ⅲ (考古資料学)	4	教授 宗基秀明	
	文化財学特殊講義Ⅳ (考古資料学)	4	准教授 田中和彦	
	文化財学特殊講義Ⅴ (美術・工芸資料学)	4	教授 小池富雄	
	文化財学特殊講義Ⅵ (美術・工芸資料学)	4	准教授 緒方啓介	
	文化財学特殊講義Ⅶ (分析・保存科学)	4	准教授 星野玲子	
	文化財学特殊講義Ⅷ (人文情報検索研究)	4	教授 河西由美子	
B 群	文化財学演習Ⅰ (文献資料学)	4	教授 石田千尋 教授 伊藤正義	
	文化財学演習Ⅱ (考古資料学)	4	教授 宗基秀明 准教授 田中和彦	
	文化財学演習Ⅲ (美術・工芸資料学)	4	教授 小池富雄 准教授 緒方啓介	
	文化財学演習Ⅳ (分析・保存科学)	4	准教授 星野玲子	
	文化財学演習Ⅴ (情報検索学)	4	教授 河西由美子	
C 群	建築文化財特殊講義	4	講師(非) 大野 敏	
	日本仏教史特殊講義	4	教授 下室覚道	
	文献資料演習 (文字・訓点)	4	教授 小林恭治	
	人文情報管理研究	4	教授 田辺良則	

博士後期課程

科 目	単位	担 当 者	備 考
文化財学特殊研究Ⅰ (文献資料学)	4	教授 石田千尋 教授 下室覚道	
文化財学特殊研究Ⅱ (考古資料学)	4	教授 宗基秀明	
文化財学特殊研究Ⅲ (美術・工芸資料学)	4	教授 小池富雄 准教授 緒方啓介	
文化財学特殊研究Ⅳ (分析・保存科学)	4	准教授 星野玲子	
研 究 指 導		教授 石田千尋	
		教授 伊藤正義	
		教授 小池富雄	
		教授 宗基秀明	

履修方法・研究指導

白紙

1. 博士前期課程

(1) 指導教授

- ① 学生は所定の期日までに研究題目を提出しなければならない。
- ② 研究題目に従って、各専攻は、所属教員が学生と面接した上、履修届の提出期日以前に、指導教授を決定する。
- ③ 指導教授は、学生の修士の学位論文（以下「修士論文」という）作成等、研究の指導を行う。
- ④ 研究題目に依り、指導教授は別に指導教員を定めることができる。
- ⑤ 原則として、指導教授の授業を、1学年ごとに1科目は履修しなければならない。

(2) 授業科目の履修

- ① 学生は本研究科の各専攻に従って、所定の授業科目について修了所要単位32単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次の通りとする。

【日本文学専攻】

修了所要単位32単位のうち、I群より4科目8単位、II群、III群よりそれぞれ3科目12単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。なお、I群は必修とし原則として1年次に履修すること。

各群所要単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修することができ、単位は認定される。

II群、III群については同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定される。

【英米文学専攻】

修了所要単位32単位のうちには、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修し修得した単位を、8単位を上限として含めることができる。

同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

【文化財学専攻】

修了所要単位32単位のうち、A群より3科目12単位以上、B群より2科目8単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。

各群所定単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修し修得した単位を、2科目8単位を上限として修了所要単位に含めることができる。

同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

④ 他大学院の授業科目の履修

各種協定に基づき他大学院の授業科目を履修し修得した単位は、10単位を上限として本大学院で修得したものとみなす。ただし、修了要件に算入できる単位は、各専攻で定める他専攻開講科目の修得単位を含めて8単位以内とする。

なお、他大学院の授業科目の履修にあたっては、事前に指導教授の承認を得なければならない。

(3) 修士論文

【修士論文審査基準】

文学研究科においては、以下の基準に従い、厳正・公平に修士の学位論文審査を行うものとする。

1. 当該分野に関する幅広い知識を備えていること。
2. 専攻分野における一定の研究能力を有すること。
3. 高度な専門性を必要とする社会的活動や職業を担うこと。

① 論文の作成

1年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得したものは、修士論文を提出することができる。

② 論文題目の届け出

(a) 修士論文を提出しようとする者は、所定の用紙に指導教授の承認印を得て論文の題目を文学部教学課大学院係に届け出なければならない。

(b) 当該年度修士論文を提出しない者は、その旨必ず指導教授・教学課に報告しなければならない。

(c) 題目提出の期限は6月1日(水)・2日(木)

(d) 最終題目の届出並びに題目変更届(所定用紙は教学課)は11月9日(水)・10日(木)午後4時までとする。

③ 論文作成上の注意

(a) 論文および論文要旨枚数等

専攻	論文		論文要旨
	用紙・枚数	書式	用紙・枚数
日本文学専攻	手書きの場合はB4版2つ折、400字詰原稿用紙100枚以上 ワープロ使用の場合B5版、400字詰原稿用紙換算100枚分以上	縦書きを原則とする	400字詰原稿用紙10枚程度 ワープロ使用の場合もこれに準ずる
英米文学専攻	英文の場合 1. ワープロまたは英文タイプライターを使用すること。 2. 用紙：A4版用紙使用。 3. 分量：1ページ1行60文字、25行で40枚以上。ただし、Title Page, Contents, Appendix は枚数に算入しない。	横書き	タイプ用紙またはワープロ印刷用紙3枚程度 英文による
英米文学専攻	和文の場合 A4版 400字詰原稿用紙 80枚以上 ワープロ使用の場合は1ページ1行30文字20行とし、これに準じて枚数を計算する(A4版ワープロ印刷用紙)	横書き	タイプ用紙またはワープロ印刷用紙3枚程度 英文による
文化財学専攻	用紙判型はA4とする。 枚数は指導教授の課するところとする。(手書きの場合は400字詰原稿用紙を使用。ワープロ・パソコン使用のときは字数換算とする。)	縦書き、横書きは指導教授の定めるところとする。	400字詰原稿用紙5～10枚程度(ワープロ・パソコン使用の場合もこれに準ずる。)

- (注) 1. 論文本文は、日本文学専攻では自筆（黒または青インクを使用）またはワープロで作成すること（鉛筆・ボールペンは不可）。
2. 英米文学専攻では、論文作成は英文または和文のいずれによってもよいが、その決定には、必ず指導教授の指導を受けなければならない。英文論文の場合は英文タイプライターまたはワープロで作成すること。和文論文の場合は自筆（黒または青インクを使用）またはワープロで作成すること。
3. 文化財学専攻では、論文作成は和文または英文いずれでもよい。自筆またはワープロ・パソコン使用は、指導教授の定めるところに従うこと。
4. 論文は必ず製本すること。ただし簡易製本でもよい。
5. 論文要旨の書式は、論文に準ずる。表紙も論文と同じ様式とし、「論文要旨」と明記すること
- (b) 論文および論文要旨作成部数
論文 3部作成し、提出すること。副本2部は正本からコピーしたものでよい。
要旨 3部作成し、論文に添えて提出すること。2部はコピーしたものでよい。
- (c) 修士論文の表紙・体裁
日本文学専攻・文化財学専攻（縦書きのとき） 英米文学専攻・文化財学専攻（横書きのとき）

大学院文学研究科 ○○○専攻 氏名 論文題目 副題	平成○年度 ○○○教授 論文題目 氏名	平成○年度 ○○○教授 論文題目 氏名	平成○年度 ○○○教授 論文題目 氏名	
	平成○年度 ○○○教授	論文題目 副題	氏名	
	平成○年度 ○○○教授	論文題目 副題	氏名	平成○年度 ○○○教授 論文題目 副題 氏名
	平成○年度 ○○○教授	論文題目 副題	氏名	平成○年度 ○○○教授 論文題目 副題 氏名

- ④ 論文の提出
- (a) 修士論文 正本1部 副本2部に論文要旨3部・修士学位論文審査申請書（所定の様式）を添付し、学生証を提示のうえ提出する。
- (b) 提出日時並びに提出場所
提出日時 平成29年1月11日（水）・12日（木） 午後4時（厳守）
提出場所 文学部教学課大学院係

⑤ 論文の審査および最終試験

- (a) 提出された修士論文は、各専攻において主査および副査があらかじめ審査を行い、その後、各専攻の専任教員全員の審査を経て、最終試験を口頭で行う。
- (b) 文学研究科委員会は、各専攻における修士論文の審査および最終試験の結果を審議し、合格を決定する。
- (c) 最終試験（口頭試問）の日時等については、掲示で連絡する。

⑥ 合格した論文の取扱

最終試験に合格した論文の正本は指導教授のもとに保管し、残り2部は学位記授与式当日に返却する。

(4) 履修手続き

- ① 履修科目の登録は、1年間の修学方針を決める上で最も重要なことであり、単位修得に欠かすことのできないものである。具体的な履修登録の手続きは本文183頁「履修登録の手引き」による。期日までに指導教授の承認を得て、この手続きをとらなかった場合は、たとえ授業を受け、試験に合格しても全て無効となるので、十分に注意をし、手続きすることが必要である。

- ② 科目を登録する際には、次の諸点に注意が必要である。

履修科目の登録は、指定された期間に必ず本人が行うものとする。登録期間内に手続きができない場合は必ず事前に教学課に申し出ること。

(5) 試験および成績の評価

① 試験

- (a) 学年末に試験（筆記試験・レポートまたは口述試験）を行う。

- (b) 試験の方法等は、1月上旬に掲示によって発表する。

(c) 受験上の諸注意

(イ) 提出した履修届に記入されている科目でなければ受験することができない。

(ロ) 授業料などの学納金未納者は、受験することができない。

(ハ) 受験中は机上に学生証を提示しなければならない。

(ニ) レポート提出の場合は、題目、枚数、提出期限、提出先を掲示等により確認し、必ず指定された期日に提出しなければならない。

② 成績の評価並びに単位の認定

各科目の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)を以て評価され、不可は不合格とする。

合格した科目については、所定の単位を認定する。

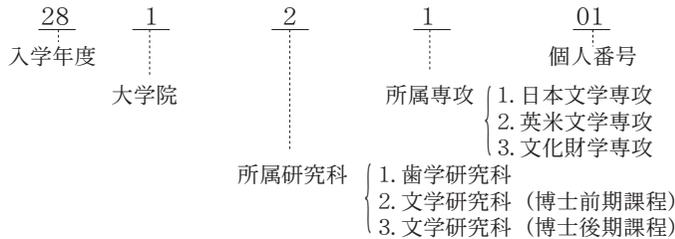
③ 成績発表

- (a) 試験の結果は、年度末に発表する。

- (b) 成績の質疑については決められた日時に教学課窓口に申し出ること。

(6) 学籍番号

- ① 入学と同時に各学生の学籍番号が決められ、課程修了までこれを用いる。
- ② 学籍番号の構造は次のとおりである。



- ③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は、すべて学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなくてはならない。

(7) 学籍・身上に関する異動

- ① 博士前期課程の修業年限（在学期間）は2年である。ただし、在学できる最長年数、4年を超えることはできない。
- ② 次の諸事項に関しては、それぞれ以下のように規定する。

(a) 休学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

(b) 復学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、2月末までに学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

(c) 退学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願に、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

(d) 除籍

学費未納入の学生で、督促をうけた後も必要な手続きを怠るなど、正当な理由の認められない者に対しては、文学研究科委員会の議を経て除籍する。

- (注) 1 提出書類はすべてペン書とし、鉛筆書は受け付けない。
2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意のこと。
3 保証人印と学生本人の印が同一のものは正式書類として受け付けない。

(8) 教育職員免許状の取得について

① 本学大学院文学研究科で取得できる免許状の種類並びに免許教科

専攻	免許状の種類	教科
日本文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
英米文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語 (英語)
文化財学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史

② 基礎資格並びに最低修得単位数

所要資格 免許状	基礎資格	本学大学院における最低修得単位数
中学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること (大学院に1年以上在学し、30 単位以上修得した場合を含む)	24単位
高等学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること (大学院に1年以上在学し、30 単位以上修得した場合を含む)	24単位

(a) すでに中学校教諭一種免許状並びに高等学校教諭一種免許状を取得しているか、又は同免許状の取得に必要な教科並びに教職に関する科目の単位を修得している者。

(b) 上記の中学校教諭一種免許状並びに高等学校教諭一種免許状の教科と大学院で取得しようとする中学校教諭専修免許状並びに高等学校教諭専修免許状の教科は同じでなければならない。

③ 単位の履修方法

【日本文学専攻】

本大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうちI群及び「中国文学研究」「日本書誌研究」「人文情報管理研究」「人文情報検索研究」「日本史史料演習」「日本書誌演習I(古典)」「日本書誌演習II(近代)」以外の科目の中より修得しなければならない。

【英米文学専攻】

本学大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうち「ヨーロッパ文学・文化研究」「表象文化研究」「言語学研究」「比較文学・文化研究」「人文情報管理演習」「人文情報管理研究」「人文情報検索研究」「人文情報演習I」「人文情報演習II」以外の科目の中より修得しなければならない。

【文化財学専攻】

本学大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうちA・B群の中より修得しなければならない。ただし、「文化財学特殊講義VII(分析・保存科学)」「文化財学特殊講義VIII(人文情報検索研究)」「文化財学演習IV(分析・保存科学)」「文化財学演習V(情報検索学)」は、単位数に含めることができない。

④ 中学校並びに高等学校教諭一種免許状の取得について

新たに中学校並びに高等学校教諭一種免許状を取得するために、教職課程の履修を希望す

る者は、本学文学部の教職課程科目等履修生として履修することができる。

ただし、大学院本来の学修・研究に支障のない限りにおいて、これを許可する。この場合、まず、大学院の指導教授の許可を得たのち、履修科目、手続き等については、4月5日(火) 16:00までに教学課に申し出ること。

2. 博士後期課程

(1) 指導教授

【日本文学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 指導教授の授業科目を、1学年ごとに1科目は履修しなければならない。

【英米文学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 指導教授の演習科目または特殊研究を1年次から3年次まで毎年履修し、計12単位を修得しなければならない。

【文化財学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 単位化されてはいないが、指導教授の「研究指導」を受けなければならない。

(2) 研究計画書

1年次生は、10月1日(土)から31日(月)までの間に研究題目と研究計画の内容を記載した「研究計画書」に指導教授の承認を得て、教学課に提出しなければならない。(用紙は教学課で配布する)

(3) 授業科目の履修

【日本文学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位20単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次のとおりとする。

指導教授の授業科目12単位を含め、20単位以上を履修し単位を修得すること。学生は各自の専門分野を担当する指導教授のもとに履修すべき科目を選定し、かつ指導教授について原則として週1回の論文指導を受け、学位論文を作成するものとする。

【英米文学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位20単位以上修得しなけれ

ばならない。

- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次のとおりとする。

指導教授の演習科目および特殊研究12単位を含め、20単位以上履修し単位を修得すること。学生は各自の専門分野を担当する指導教授のもとに履修すべき科目を選定し、承認を得なければならない。

【文化財学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位8単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 「研究指導」に関しては、指導教授と相談し、「研究日」または「研究時間」を決めなければならない。

(4) 学位論文

【修士論文審査基準】

文学研究科においては、以下の基準に従い、厳正・公平に修士の学位論文審査を行うものとする。

- 1. 当該分野に関する幅広く深い学識を備え、資料の適切な把握がなされていること。
 - 2. 先行研究への理解が的確であり、専攻分野における高い研究能力を有すること。
 - 3. 研究目的・研究対象および研究方法が十分に妥当であること。
 - 4. 研究者として自立し、学界への貢献が期待されること。
- ① 論文の作成に当たっては、指導教授の指導を受けなければならない。
 - ② 学位論文の作成並びに提出方法については別に定める。

(5) 試験および成績の評価

① 試験

- (a) 学年末に試験（筆記試験・レポート又は口述試験）を行う。
- (b) 試験の方法等は、1月上旬に掲示によって発表する。
- (c) 受験上の諸注意

- (イ) 提出した履修届に記入されている科目でなければ受験することができない。
- (ロ) 授業料などの学納金未納者は、受験することができない。
- (ハ) 受験中は机上に学生証を提示しなければならない。

(ニ) レポート提出の場合は、題目、枚数、提出期限、提出先を掲示等により確認し、必ず指定された期日に提出しなければならない。

② 成績の評価並びに単位の認定

各科目の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）を以て評価され、不可は不合格とする。

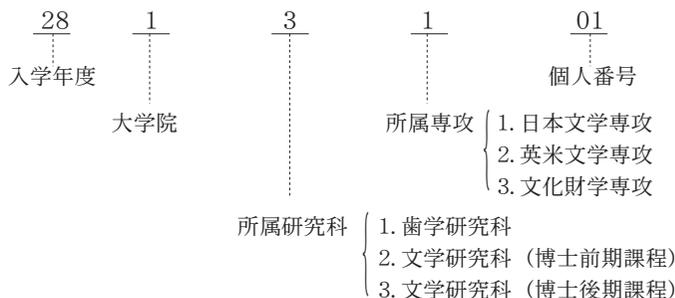
合格した科目については、所定の単位を認定する。

③ 成績発表

- (a) 試験の結果は、年度末に発表する。
- (b) 成績の質疑については決められた日時に教学課窓口申し出ること。

(6) 学籍番号

- ① 入学と同時に各学生の学籍番号が決められ、課程修了までこれを用いる。
- ② 学籍番号の構造は次のとおりである。



- ③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は、すべて学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなければならない。

(7) 学籍・身上に関する異動

- ① 博士後期課程の修業年限（在学期間）は3年である。ただし、在学できる最長年数、6年を超えることはできない。
- ② 次の諸事項に関しては、それぞれ以下のように規定する。

(a) 休学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

(b) 復学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、保証人連署のうえ、2月末までに学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

(c) 退学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願に、保証人連署のうえ、学長に願い出る。

書類の提出先は教学課。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

(d) 除籍

学費未納入の学生で、督促をうけた後も必要な手続きを怠るなど、正当な理由の認められない者に対しては、文学研究科委員会の議を経て除籍する。

- (注) 1 提出書類はすべてペン書とし、鉛筆書は受け付けない。
- 2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意のこと。
- 3 保証人印と学生本人の印が同一のものは正式書類として受け付けない。

その他の事項

白紙

1. 授 業 時 間

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
9 : 00	10 : 40	13 : 00	14 : 40	16 : 20
10 : 30	12 : 10	14 : 30	16 : 10	17 : 50

※補講については
その都度掲示する。

2. 掲 示

学生に対する伝達事項は、すべて大学院掲示板によって行う。登校、下校の際は必ず掲示板を見ること。

3. 休 講

(1) 担当教員より連絡があり次第、大学院文学研究科の掲示板にその旨を掲示する。始業時間より 30 分以上経過しても連絡のない場合は、教学課に申し出てその指示を受けること。

(2) 「暴風警報」、「大雨警報」、「洪水警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」の気象警報が発令された場合

(1) 対象となる警報並びに条件

神奈川県下に「暴風警報・大雨警報・洪水警報」が同時に発令された場合及び「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」が発令された場合、次項(2)の基準を適用する。

(2) 授業・試験の実施基準

【警報解除時刻】	【授業・試験の取扱】
午前 7 時までに警報が解除された場合	平常どおり実施
午前11時までに警報が解除された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後 1 時までに警報が解除された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後 1 時を過ぎても解除されない場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

(3) 自然災害や交通ストライキによって交通機関の運行が停止した場合

(1) 対象となる交通機関

下記 2 線のいずれも不通となった場合のみ、次項(2)の基準を適用する。

J R 京浜東北線・根岸線（東京～大船間）

私鉄 京浜急行線（品川～三崎口間）

(2) 授業・試験の実施基準

【運行開始時刻】	【授業・試験の取扱】
午前 7 時までに運行開始された場合	平常どおり実施
午前11時までに運行開始された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後 1 時までに運行開始された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後 1 時を過ぎても不通の場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等によって速やかに通知しますので、これに従ってください。

(4) 東海大地震等警戒宣言が発令された場合の措置等については、223頁を参照してください。

4. 問い合わせ

行事予定、休講、その他授業および試験等に関するの電話での問い合わせにはいっさい応じない。

必要ある場合は、登校のうえ、掲示板を見るか関係事務室窓口で問い合わせること。

5. 健康診断

春の定期健康診断は、必ず受けなければならない。これを受けなければ、諸証明書の発行は認められない。

6. 複写機の利用

学修・研究資料作成のための複写機の利用について次のとおり定める。

- (a) 用途 演習等の資料作成および研究上の資料収集に限る。
- (b) 枚数 博士前期課程 1人 1,000枚（年間）
博士後期課程 1人 2,000枚（年間）
- (c) 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
- (d) 使用複写機 図書館・学生用コピー機
- (e) カードの交付 博士前期課程
1学年度、1人2枚のICカード（500枚限定）を交付する。
博士後期課程
1学年度、1人4枚のICカード（500枚限定）を交付する。
- (f) カードの交付時 カードは年度毎に発行する。修了並びに退学の場合は、教学課に、速やかに返還する。
- (g) カードの管理方法 自己管理とする。なお、紛失した場合は、速やかに教学課に届け出る。再発行はしない。
- (h) 本人以外の利用は認めない。

7. 院生控室の図書の利用

文学研究科学生の学修並びに研究活動の便を計るため、院生控室を設け、文学研究科各専攻に必要なと思われる、基本的な辞書・辞典を備えている。大学院学生の利用は自由であるが、室外への持ち出しは禁止されている。

8. ロッカーの利用

- (1) 学修・研究のために使用する資料等保管の便を計るため、院生控室にロッカーを置く。
- (2) ロッカーは在学期間中貸与する。
- (3) ロッカーの利用にあたっては次の事項に留意すること。
 - ① 鍵は利用する者に貸与する。
 - ② 鍵は各自責任をもって管理すること。
 - ③ ロッカーは常に整理・整頓に努めること。
 - ④ 現金・貴重品類は入れてはならない。各自がその責に当たること。(盗難・紛失等の事故が生じてても大学は責任を負わない)
 - ⑤ ロッカーの破損や鍵の紛失等で使用できない場合は、教学課に申し出ること。
 - ⑥ ロッカーの使用時間は午前8時30分～午後8時までとする。

9. 各種証明書

(4) 証明書発行について

各証明書の発行については、証明書自動発行機及び教学課窓口申込の2通りの方法がある。教学課で発行する証明書及び手数料は次のとおりである。

① 証明書自動発行機による発行

事 項	手数料	交付日	有効期限	備 考
単位成績証明書 (和文)	200	即日	3ヶ月	
単位修得証明書 (和文)	200	〃	〃	
修了見込証明書 (和文)	100	〃	〃	履修登録終了後より発行
在学証明書 (和文)	100	〃	〃	

(イ) 利用時間は教学課窓口取扱時間内とする。

※大学行事、メンテナンス等により利用時間が変更となる場合には、掲示及び鶴見大学ポータルシステムで知らせる。

(ロ) 証明書自動発行機の操作には、学生証と鶴見大学ポータルシステムのログイン用パスワードが必要である。操作方法は証明書自動発行機に表示される手順に従って行うこと。

- (ハ) 証明書用封筒は教学課窓口にある。また、厳封が必要な場合には教学課窓口に出ること。
- (ニ) 証明書自動発行機での証明書発行は在学生のみとなる。修了年次生については卒業式以降の証明書発行は、教学課窓口での申込受付となるので注意すること。

②教学課窓口申込による発行

事 項	手数料(円)		交 付 日	有効期限
	和文	英文		
単 位 成 績 証 明 書	200	1,000	3日以降 (英文は7日以降)	3ヶ月
単 位 修 得 証 明 書	200	1,000	3日以降	〃
修 了 (見 込) 証 明 書	100	500	3日以降 (英文は7日以降)	〃
学 位 授 与 証 明 書 (博士後期課程修了者のみ)	200	1,000	3日以降 (英文は7日以降)	〃
教員免許状取得見込証明書	100		3日以降 (英文は7日以降)	
調 査 書	1,000		7日以降	〃
在 学 証 明 書	100	500	3日以降 (英文は7日以降)	〃

- (ホ) 申込用紙に必要事項を記入し、所定の料金分の証紙を貼付の上、教学課窓口へ申し込むこと。なお、英文証明書申し込みの際は、教学課に相談すること。証明書交付の所要日数は原則として3日以降とする。ただし、英文による証明書並びに調査書は、7日以降とする。
- (ヘ) 電話による申し込みは受け付けない。

10. 事務室の事務取り扱い時間

◇授業実施期間 (※補講を含む)

月～金曜日 8時50分～18時00分

土曜日 8時50分～13時00分

◇上記以外の期間

月～金曜日 8時50分～16時50分

土曜日 8時50分～13時00分

ただし、春、夏、冬の休暇および定期試験期間の事務取り扱い時間については、その都度掲示で連絡する。

諸 規 程

鶴見大学大学院文学研究科学位論文審査内規

大学院文学研究科院生控室利用内規

鶴見大学大学院文学研究科聴講生規程

鶴見大学文学部ティーチング・アシスタント規程

白紙

鶴見大学大学院文学研究科博士学位論文審査内規

(趣旨)

第 1 条 この内規は、鶴見大学学位規程（以下「学位規程」という。）に基づき、鶴見大学大学院文学研究科（以下「研究科」という。）に博士学位請求論文（以下「学位論文」という。）を提出する場合の要領について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位論文提出者)

第 2 条 博士学位論文の提出者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学位規程第 3 条第 3 項の規定により博士学位を取得しようとする者
- (2) 学位規程第 3 条第 4 項の規定により博士学位の請求を行う者

(提出の手続)

第 3 条 前条第 1 号の規定による学位論文提出者は、当該の専攻（以下「各専攻」という。）に次の各号に掲げる文書を提出する。

- (1) 学位論文 4 部と論文要旨 4 部
- (2) 添付書類
 - (ア) 学位論文審査申請書（様式 1） 1 通
 - (イ) 論文目録（様式 3） 1 通
 - (ウ) 履歴書（様式 4） 1 通
 - (エ) 研究業績書（様式 5） 1 通
 - (オ) 参考論文提出の場合 各 4 部

2 前条第 2 号の規定による論文提出者は、各専攻に次の各号に掲げる文書を提出する。

- (1) 学位請求論文 4 部と論文要旨 4 部
- (2) 添付書類
 - (ア) 学位請求申請書（様式 2） 1 通
 - (イ) 論文目録 1 通
 - (ウ) 履歴書 1 通
 - (エ) 研究業績書 1 通
 - (オ) 最終学校卒業証明書 1 通
 - (カ) 参考論文提出の場合 各 4 部

(提出の時期)

第 4 条 学位論文提出の時期は、毎年 9 月 1 日から 9 月 30 日とする。

(用語)

第 5 条 学位論文の用語は、各専攻において定める。

(受理)

第 6 条 第 2 条第 1 号の規定による学位論文提出者の指導教授は、各専攻に諮って論文の受理の可否を審議する。

2 第 2 条第 2 号の規定による学位論文提出者から審査を依頼された本学教員は、各専攻に諮って学位論文の受理の可否を審議する。

第 7 条 前条第 1 項の規定により受理を妥当とする場合、各専攻主任は文学研究科長に学位論文の受理を文書で要請する。

2 前条第 2 項の規定により受理を妥当とする場合、各専攻主任は文学研究科長を経て、学長に

学位論文の受理を文書で要請する。

(学位論文審査料)

第 8 条 前条の規定により学位論文が受理された場合は、学位規程第 5 条並びに第 6 条により審査料を納付する。

2 納付された審査料は、返戻しない。

(審査)

第 9 条 文学研究科長は、文学研究科委員会において、学位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)を設置し、審査委員会は学位論文の審査を行う。

(報告)

第 10 条 学位論文審査委員会の構成・審査・審査の報告は、次の各号による。

(1) 第 7 条第 1 項の規定により受理された学位論文の場合、審査委員は、主査 1 名、副査 2 名、計 3 名とし、原則として主査は学位論文提出者の指導教授、副査のうち 1 名は研究科専任教員、他の 1 名は研究科内外の関連分野の研究者とする。

(2) 第 7 条第 2 項の規定により受理された学位論文の場合、審査委員は、主査 1 名、副査 2 名、計 3 名とし、主査、及び副査のうち 1 名は研究科専任教員、副査の他の 1 名は研究科内外の関連分野の研究者とする。

(3) 審査委員は、学位論文の内容が研究者として自立できるための基礎をなしているか否かを 1 年以内に審査し、同時に学位規程第 9 条第 1 項で定める最終試験又は試験、あるいは学位規程第 9 条第 3 項で定める試問を行い、全員出席の委員会で判定する。ただし、学外の委員は書面で審査結果を報告することができる。

(4) 審査委員会は、審査の結論とその理由を文学研究科委員会に報告する。

(合否の判定)

第 11 条 学位論文の合否の判定は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が行う。

2 文学研究科委員会は、学位論文審査委員会の報告及び論文提出者の属する専攻の意見を参考にし合否の審議を行う。

3 合否の判定は、審議を経たうえで、無記名投票により出席委員の 3 分の 2 以上の多数決をもって行い、その結果を学長に上申する。

(研究科長の上申)

第 12 条 提出論文が合格し、他の必要な条件が満たされている場合、文学研究科長は学位規程第 13 条の規定により、学長に上申する。

(その他)

第 13 条 学位規程及び本内規にない事項については、その都度文学研究科委員会の審議を経て学長が決定するものとする。

附則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

平成27年4月1日一部改正

(様式1)

学位論文審査申請書	
平成 年 月 日	
鶴見大学長殿	
鶴見大学大学院文学研究科 専攻 博士後期課程	
氏名	
印	
年 月 日生	
鶴見大学学位規程第3条第3項の規定により博士()の学位の授与の申請を したいので自著論文を提出いたします。御審査くださるよう下記の通り関係書類 を添えて申請いたします。	
論文 題目	
記	
1. 学位論文 (4部)	1. 研究業績書 (1通)
1. 論文要旨 (4部)	1. その他(参考論文がある場合ここに記載して下さい)
1. 論文目録 (1通)	(各4部)
1. 履歴書 (1通)	

受付日 (研究科事務担当)	委員会 受付日	委員会 議決日	教学課

(様式2)

学位請求申請書	
平成 年 月 日	
鶴見大学長殿	
現住所	
氏名	
印	
年 月 日生	
鶴見大学学位規程第3条第4項の規定により博士()の学位の授与の申請を したいので自著論文を提出いたします。御審査くださるよう下記の通り関係書類 を添えて申請いたします。	
論文 題目	
記	
1. 学位請求論文 (4部)	1. 最終学校卒業証明書 (1通)
1. 論文要旨 (4部)	(他大学出身者のみ)
1. 論文目録 (1通)	1. その他(参考論文がある場合ここに記載して下さい)
1. 履歴書 (1通)	(各4部)
1. 研究業績書 (1通)	

受付日 (研究科事務担当)	委員会 受付日	委員会 議決日	教学課

(様式3)

論 文 目 録		
		申請者氏名
		印
主 論 文	題 名	
	印刷公表 の方法お よび時期	
	冊 数	
参 考 論 文	題 名	
	印刷公表 の方法お よび時期	
	冊 数	

備 考

1. 未公表の論文の場合は、原稿の枚数、予定している公表の方法および時期を記入すること。
2. 参考論文が2以上ある場合は、それぞれ題名および冊数を記入すること。

(様式4)

履 歴 書				
ふりがな 氏 名				印
生年月日	年 月 日生	本籍地	都道府県	
現住所	(都道府県、市町村番地を正確に記入すること)			
学	大学	学部 学科	年 月 日	卒業 中途退学
	大学大学院 研究科	修士課程 専攻	年 月 日 年 月 日	入学 修了 中途退学
歴	大学大学院 研究科	博士課程 専攻	年 月 日 年 月 日	入学 修了 所定単位取得退学 中途退学
研究 歴				
職 歴				

上記のとおり相違ありません

平成 年 月 日

(様式5)

研 究 業 績 書			
著		書	
著 書 名	発行年月日	発 行 所	部 数
学 術 論 文			
学 術 論 文 名	発行年月日	発表雑誌又は発表学会名	

大学院文学研究科院生控室利用内規

1. この内規は、本学大学院文学研究科院生控室（以下「院生控室」という）の利用について、必要な事項を定める。
2. 院生控室は、本学大学院文学研究科学生の学修・研究活動に利用することを目的とする。
3. 院生控室を利用できる者は、文学研究科博士前期並びに博士後期課程の在学学生および学長が許可した者とする。
4. 院生控室の円滑な運営をはかり、学修・研究活動の一層の成果を期するため、各専攻ごとに1名の連絡責任者を置くものとする。
5. 前項に定める責任者は、当該院生控室内における秩序維持と円滑な運営をはかることを主たる任務とする。
6. 院生控室は、次の各号に掲げる日は閉室とする。
 - (1) 日曜日・国民の祝日に関する法律に定められた休日。
 - (2) 本学開学記念日および全学研修日。
 - (3) その他、大学が定めた日。
7. 第6項各号に定める閉室日に院生控室の利用を希望する場合は、あらかじめ、学長の許可を得なければならない。
8. 院生控室は、前項で定める日を除き午前8時30分から午後8時（土曜日は午後4時30分）まで開室する。
9. 院生控室においては、次の各号に掲げる事項を禁止する。
 - (1) 第3項に定める者以外の入室・利用。
 - (2) 学修・研究活動以外の利用。
 - (3) 酒類・危険物品等の持込み。
 - (4) 他の者の研究活動の妨げとなる行為。
 - (5) 所定のもの以外の各種電気器具および熱器具の使用。
10. 院生控室を利用する者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。
 - (1) 第8項で定める利用時間。
 - (2) 室内は禁煙とする。
 - (3) 常に室内の清潔・整頓に努め、通常の清掃は各人が行うこと。
 - (4) 許可なく、什器・備品等の移動を行わないこと。
 - (5) 火災その他、非常事態が発生したときは、教職員の指示に従うこと。
 - (6) 掲示物および連絡等の貼紙は所定の掲示板を利用すること。
 - (7) 所持品の保管は、各人がその責に当たること（盗難・紛失等の事故が生じてても大学は責任を負わない）。
11. 故意又は過失により、院生控室の施設・設備・什器・備品等を破損・汚損し、または紛失した者は、その損害の実費を償うものとする。
12. 院生控室を利用する者で、その内規に著しく違反する事実があったときは、文学研究科委員会の議を経て、学長がその利用を停止させることがある。
13. この内規に定めるものの外、院生控室の利用に関する必要な事項は、関係機関と協議してこれを定める。
14. この内規は、平成2年4月1日から実施する。

鶴見大学大学院文学研究科聴講生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、鶴見大学大学院学則（以下「学則」という。）第41条に基づき、鶴見大学大学院文学研究科聴講生（以下「聴講生」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

- 2 他の大学との協定等に基づく聴講生の受け入れにあたっては、第6条、第8条、第10条の規定にかかわらず、当該協定等に基づき定められたところによる。

(出願資格)

第 2 条 聴講生として出願することができる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

(聴講の科目)

第 3 条 聴講生が聴講することのできる科目は、原則として講義科目とし、当該年度開講科目とする。

- 2 聴講できる科目数は、年間3科目以内とする。

(受入範囲)

第 4 条 聴講生は、正規の学生の学修の妨げにならない範囲で許可する。

(聴講の期間)

第 5 条 聴講の期間は、1年とし、聴講開始は、学年の始めとする。

- 2 聴講期間の延長を希望する者があるときは、1年に限り、学長が聴講を認めることがある。

(出願手続)

第 6 条 聴講を志願する者は、所定の期日までに次の各号に掲げる書類に選考料を添えて願出するものとする。

- (1) 聴講願書（本学所定用紙）
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身学校の成績証明書及び卒業又は修了証明書
- (4) 健康診断書
- (5) 選考料 10,000 円

- 2 聴講期間の延長を出願をするときは、前項第3号の書類の提出及び第5号の選考料の納入を免除する。

(審査方法)

第 7 条 聴講生の審査方法は、書類審査による。

(審査及び聴講許可)

第 8 条 聴講生の審査は、当該科目担当教員が当たり、文学研究科委員会の承認を経て、学長が聴講を許可する。

(聴講手続)

第 9 条 聴講を許可された者は、所定の期日までに、次の費用の納入及び書類の提出を完了しなければならない。

- (1) 登録料 21,000 円
ただし、本学の卒業生は、半額とする。

- (2) 聴講料 10,000 円 (1 単位)
- (3) 誓約書
- (4) 社会人の場合は勤務先の所属長の承諾書
- (5) 住民票記載事項証明書 (本学所定の用紙) ただし、外国人の証明書は別に定める
- (6) 写真 2 枚 (3 か月以内に撮影したもの。タテ 4cm× ヨコ 3cm)
- (7) 履修届

2 第 5 条第 2 項による聴講期間の延長手続は、前項第 1 号の登録料の納入及び第 3 号、第 5 号及び第 6 号の書類の提出は免除する。

(聴講生証の交付)

第10条 聴講手続きを完了した者には、聴講生証を発行する。

(単位の認定)

第11条 聴講した科目の単位の認定はしない。ただし、本人の願い出により聴講証明書を交付することができる。

(聴講許可の取消)

第12条 聴講生が次の各号のいずれかに該当する場合、学長は、聴講許可を取消することがある。

- (1) 学則又は学内諸規程に反したとき
- (2) 病気その他の事由により聴講の継続が不可能になったとき

(規程の準用)

第13条 この規程に定めるもののほか、聴講生に関する事項は、学則及びその他学内規程を準用する。

(適用除外)

第14条 他の大学等との協定等に基づく聴講生については、第 6 条、第 8 条及び第 10 条の規定を適用しない。

附 則

- 1 この規程は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程に定めのない事項については、鶴見大学大学院学則を準用する。

附 則

この改正規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程に定めのない事項については、鶴見大学大学院学則を準用する。

鶴見大学文学部ティーチング・アシスタント規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴見大学(以下「本学」という。)における文学部ティーチングアシスタント(以下「TA」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 TAは、本学大学院文学研究科博士後期課程(以下「博士後期課程」という。)に在籍する優秀な学生に対し、教育的配慮の下に本学文学部学生のための補助業務を行わせ、大学教育の充実及び教育者としてのトレーニングの機会を提供するとともに、これに対する給与を支給することにより、学生の処遇改善に資することを目的とする。

(任用等)

第 3 条 TAは、原則として、博士後期課程に在籍する優秀な学生とし、本学大学院文学研究科各専攻より推薦された者を文学部教授会の審議を経て、学長が任用する。

2 TAの任用は、各専攻より2人以内とする。

3 TAの任用期間は、1年とする。ただし、再任用を妨げない。

(業務内容)

第 4 条 TAは、本学文学部学科主任(以下「学科主任」という。)の責任・指導の下に、次の文学部教育補助業務を行う。

(1) 授業に必要な教材の収集・整備

(2) 演習の指導

(3) 学生の勉学上の助言

(4) その他、学科主任が必要と認める業務

(勤務時間)

第 5 条 TAの勤務時間は、週5時間以内とする。

(給与等)

第 6 条 TAの給与等の処遇については、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規程の改正は教授会が行う。

附 則

この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

白紙

《履修登録の手引き》

白紙

履修登録について

その年度の授業を受けるためには、学生は学年始めの所定の期間に履修登録を完了しなければなりません。

この手続きを行わない場合は、その年度の履修が認められず、たとえ授業を受けていても試験を受ける資格がありません。したがって単位も認定されません。

このように履修登録は、非常に重要な手続きですので間違いのないように登録期間内に必ず手続きを完了してください。

※履修科目の登録について、履修要項の6（文学部）、155（文学研究科博士前期課程）、161（文学研究科博士後期課程）ページに注意事項が記載されていますので熟読してください。

履修登録完了までの手順

1. 履修登録の準備



2. Web 履修登録説明会（新入学生は必須。それ以外の学生は希望者のみ。）



3. 人数制限科目の Web 履修登録（文学部学生のみ。）



4. 人数制限科目以外のすべての科目の Web 履修登録

4月6日（水）～20日（水）16時（時間厳守）までの間に登録及び修正を行う。



5. 履修登録確認表の配布および確認

4月22日（金）～30日（土）の9時～18時（土曜は9時～13時）の間に文学部教学課で履修登録確認表を受け取り確認する。受け取りの際には学生証を提示すること。



6. 指導教授の承認（文学研究科生のみ）

履修登録確認表を指導教授まで持参し、承認の署名・捺印をいただく。その後、履修登録確認表を文学部教学課へ提出する。（4月30日（土）13時まで）



7. 履修登録完了

1. 履修登録の準備

(1) 履修登録に必要なもの

- ① 履修要項
- ② 授業概要
- ③ 授業時間割
- ④ クラス区分表（文学部1年生のみ）

(2) 履修登録の準備・手順

① 履修科目の選択

履修要項を熟読のうえ、科目や単位の履修方法をよく確認しながら履修計画をたて、履修する科目を選択します。

文学部学生は特に、学年・クラス指定の科目、必修科目、各資格取得に必要な科目に注意してください。

授業内容については「授業概要」を参照してください。(大学のホームページからも閲覧できます。)

② 各自時間割表の作成

授業時間割の曜日・時限・科目担当教員等を確認しながら、各自時間割表を作成してください。

2. Web 履修登録説明会

下記の日程で Web 履修登録説明会を開催しますので必ず出席してください。

学科・学年	日時	教室	人数制限科目 Web 履修申請の有無
日本文学科 1 年生	4月4日 (月) 12:00～13:00	402・403・502	○
英語英米文学科 1 年生	4月4日 (月) 13:30～14:30	402・403・502	○
文化財学科 1 年生	4月2日 (土) 12:30～13:30	402・403	○
ドキュメンテーション学科 1 年生	4月4日 (月) 15:00～16:00	402・403	○
全学科 2 年生～4 年生 (希望者のみ)	4月2日 (土) 10:00～11:00	502	○
大学院文学研究科 1 年生及び大学院文学 研究科 (博士前期課程 2 年生、博士後期 課程 2・3 年生希望者)	4月2日 (土) 10:00～11:00	502	○

3. 人数制限科目の Web 履修登録 (文学部学生のみ)

授業科目の中には各クラスの定員が設けられ、これを超える履修希望者があった場合、コンピュータによる抽選によって履修者を決定する科目 (人数制限科目) があります。人数制限科目の履修を希望する場合は以下の手順に従って登録してください。なお、登録の結果、履修が認められた科目の変更・取り消しは一切できませんので注意してください。

登録・確認については、インターネットに接続できるパソコンがあればどこでも可能です。なお、教室に設置しているパソコンを使用する場合は、授業などで使用していない時間に限りしますので注意してください。

- ① 人数制限科目の履修登録
登録の期間：3月30日(水)9時～4月1日(金)16時まで(時間厳守)
 ※ただし、1年生については、オリエンテーション時に説明をします。
- ② コンピュータによる抽選処理(文学部教学課が行います。)
- ③ 登録結果発表
4月2日(土)9時より Web 上で確認してください。
- ④ 再登録
 抽選の結果、希望した科目が履修できなかった場合は、定員に満たない科目の中より Web 上で再登録することができます。
再登録の期間：4月2日(土)9時～13時(時間厳守)
- ⑤ 再登録結果発表
4月4日(月)9時より Web 上で確認してください。
- ⑥ 再々登録
 再登録の結果、さらに定員に満たない科目がある場合には、Web 上で再々登録することができます。
再々登録の期間：4月4日(月)9時～16時(時間厳守)
4月5日(火)9時より Web 上で確認してください。
- ⑦ 上記の①～⑥の手続きにより 人数制限科目の登録が完了します。
 なお、定員に満たない科目については、人数制限科目以外の科目の履修登録期間内に Web 上で、先着順で追加履修登録を受け付けます(一度履修登録すると取り消せません)。

《注意事項》

※ 登録手続完了後の変更・取消は一切認められません。

人数制限科目 一覧表

《全学科》

〈1年生〉(共通科目)	
キャリア形成論	(a)(b) 各 80 名
〈2年生〉(共通科目)	
キャリアスキル演習Ⅲ	(a)(b) 各 50 名
生涯スポーツⅠ	60 名
生涯スポーツⅡ	60 名
〈2年生〉(資格科目)	
視聴覚教育	(a)(b)(c)(d) 各 40 名
〈3年生〉(資格科目)	
情報サービス演習Ⅰ／レファレンスサービス演習	(a)(b) 各 30 名
情報サービス演習Ⅱ／情報検索演習	(a)(b) 各 30 名

《日本文学科・英語英米文学科・文化財学科》

〈2年生〉（共通科目）	
情報リテラシーⅡ	(a)(b) 各 40 名
〈2年生〉（資格科目）	
情報資源組織演習Ⅰ／資料組織演習Ⅰ	(a)(b) 各 40 名
情報資源組織演習Ⅱ／資料組織演習Ⅱ	(a)(b) 各 40 名

《英語英米文学科》

〈1年生〉（選択B群／選択必修英語科目）	
英文法	(a)(b) 各 55 名
〈2年生〉（選択B群／必修科目）	
コミュニケーション・スキルⅠ／オーラル・コミュニケーションⅢ(注1)	(a)(b) 各 40 名
〈2年生〉（選択B群／選択必修英語科目）	
リーディング・スキル	(a)(b) 各 55 名
プレゼンテーション・スキル	35 名
エッセイ・ライティング	(a)(b) 各 35 名
ビジネス・ライティング	(a)(b) 各 35 名
〈2年生〉（選択B群／選択科目）	
英語音声学	(a)(b) 各 40 名
スクリーン・イングリッシュ	35 名
〈3年生〉（選択B群／選択科目）	
翻訳演習	35 名
コミュニケーション・スキルⅡ／コミュニケーション・スキル	(a)(b) 各 40 名

(注1) オーラル・コミュニケーションⅢの履修希望者で希望するクラスの抽選にもれた学生は、
 教学課まで申し出てください。

《ドキュメンテーション学科》

〈2年生〉（選択科目）

プログラミング概論	24 名
情報サービス演習Ⅰ	(a)(b) 各 30 名
ドキュメント処理演習Ⅱ	(a)(b) 各 35 名
情報サービス演習Ⅱ	(a)(b) 各 30 名
プレゼンテーション演習	(a)(b) 各 30 名
〈3・4年生〉（選択科目）	
古写本演習	20 名
古版本演習	20 名
ビジネス・ライティング	(a)(b) 各 35 名
情報システム演習	18 名

4. 人数制限科目以外のすべての科目のWeb履修登録

履修登録の準備を経て各自決定した本年度履修科目（人数制限科目を除く）を、指定された期間内にWeb履修登録をします。

登録・確認については、インターネットに接続しているパソコンがあればどこでも可能です。なお、本学の教室に設置しているパソコンを使用する場合は、授業などで使用していない時間に限りますので注意してください。

履修登録期間（修正を含む。）：4月6日（水）～20日（水）16時まで（時間厳守）

※一部人数制限科目を含む。

〈文学部学生・文学研究科生〉

※ 特別な事由により、指定された期間内にWeb履修登録ができない場合は、事前に教学課へ連絡し、指示を受けてください。

※ 所定の期間内は自由に履修登録の変更ができます。ただし、それ以後の追加・変更・修正は一切できませんので注意してください。

〈文学部学生のみ〉

※ 履修中止について

正当な理由がある場合、履修中止が認められることがあります。通年・前期・集中科目については4月22日（金）～4月26日（火）の期間内に、後期科目については9月23日（金）～9月27日（火）の期間内に文学部教学課へ申し出をしてください。

※ 後期科目の修正について

後期開講科目については、下記の表のとおり修正を受け付けます。修正を希望する学生は9月7日（水）～9月13日（火）の期間内に文学部教学課へ申し出をしてください。

理 由	修正可能科目数
前期成績発表の結果、卒業、資格取得に支障のある場合	卒業、資格取得条件を充足するまで
上記以外の場合	追加のみの場合 2科目まで 削除のみの場合 2科目まで 削除と追加をする場合は各 1科目

※ 履修登録単位数の上限（履修要項6ページを参照）を超えての修正はできません。

※ 人数制限科目等、修正の認められない科目もあります。

5. 履修登録確認表の配布および確認

「履修登録確認表」は、Web履修登録された科目の一覧表として交付されます。

学生は、必ずこの「履修登録確認表」を受取り、履修登録した科目と「履修登録確認表」に記載された科目とを照合し、誤りがないかを確認してください。（特に、曜日・時限・担当者・開講期に注意すること。）

配布および確認：4月22日（金）～4月30日（土）9時～18時（土曜は9時から13時）

「履修登録確認表」の確認を怠り、誤りをそのままにしておくとその科目の履修が無効となり卒業や資格取得に重大な支障をきたすこととなります。十分注意してください。

6. 履修登録完了

履修登録確認表の確認の結果、間違いがない場合は本年度の履修登録は完了です。

Web履修登録・資格申請・成績照会の 操作方法

履修登録に関する注意

- 履修登録は4月の履修登録期間に1年分（前期・後期）の科目を登録する。
- クラス指定のある科目は必ず指定されたクラスに登録する。
- 集中講義は、別画面で登録するので注意する。

履修登録・資格申請・成績照会は、インターネットに接続しているパソコンを使用し、Web上で行います。

- ① 本学ホームページを開き、「**キャンパスライフ**」をクリックする。



② 「鶴見大学ポータルシステム」をクリックする。



③ さらに「鶴見大学ポータルシステム」をクリックする。

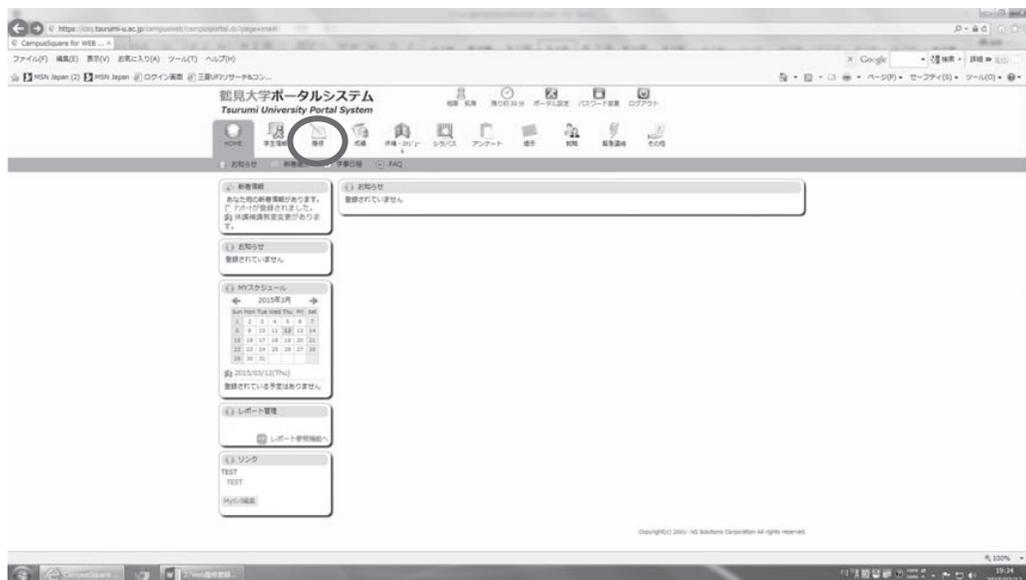


履修登録

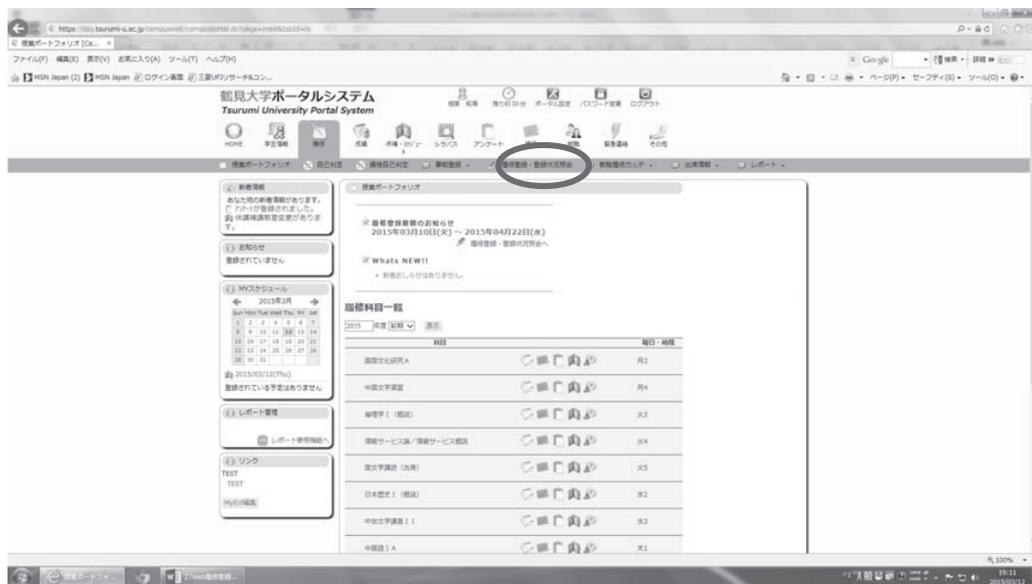
① ユーザIDとパスワードを入力し、「ログイン」をクリックする。



② 「履修」をクリックする。

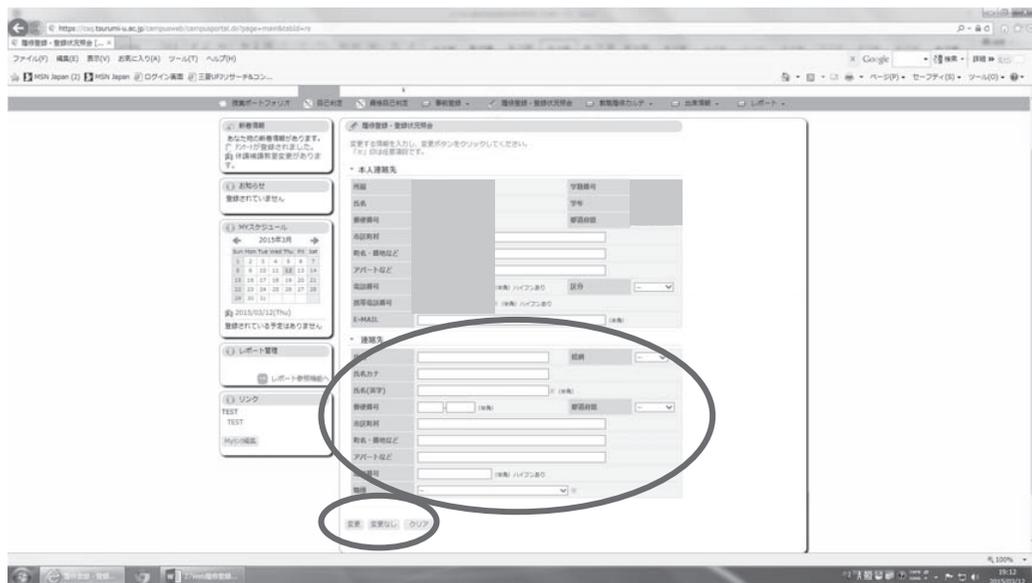


③ 「履修登録・登録状況照会」をクリックする。

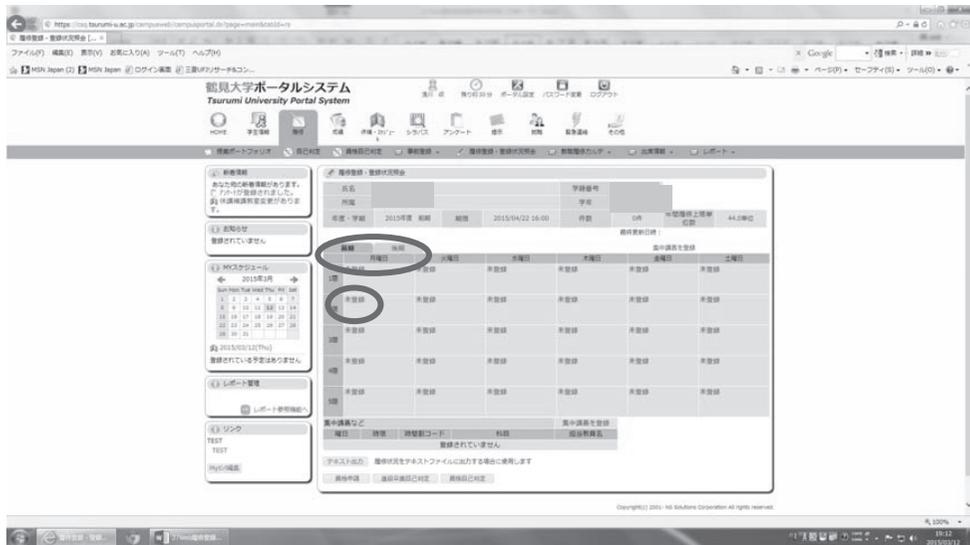


④ 登録している連絡先が表示される。上段の「本人連絡先」を確認し、住所を変更している学生は、必ず下段の「連絡先」に新しい現住所を入力し左下の「変更」をクリックする。連絡先に変更がない場合は、同じく左下の「変更なし」をクリックする。

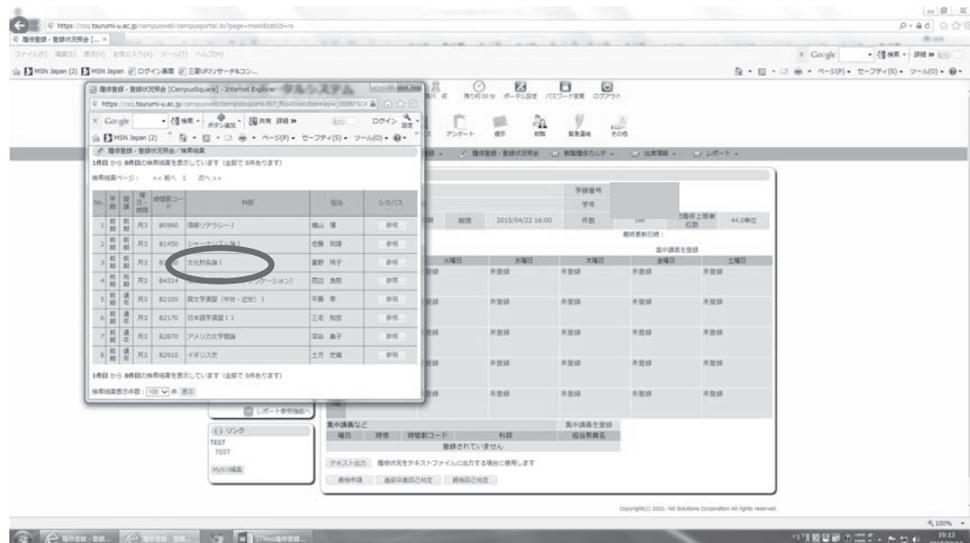
※注意 下記の画面は、画面下部にある「変更」または「変更なし」をクリックしない限り何度も表示されます。住所変更がある学生は、必ず新住所を入力すること！



- ⑤ 「履修登録・履修登録照会」の画面から1年間履修する講義を登録する。
 通年科目と前期科目は、「前期」のタグから登録し、次に「後期」のタグから後期で履修する講義を登録する。
 講義を登録するときは、登録する講義の曜日・時間の枠にある「未登録」をクリックする。



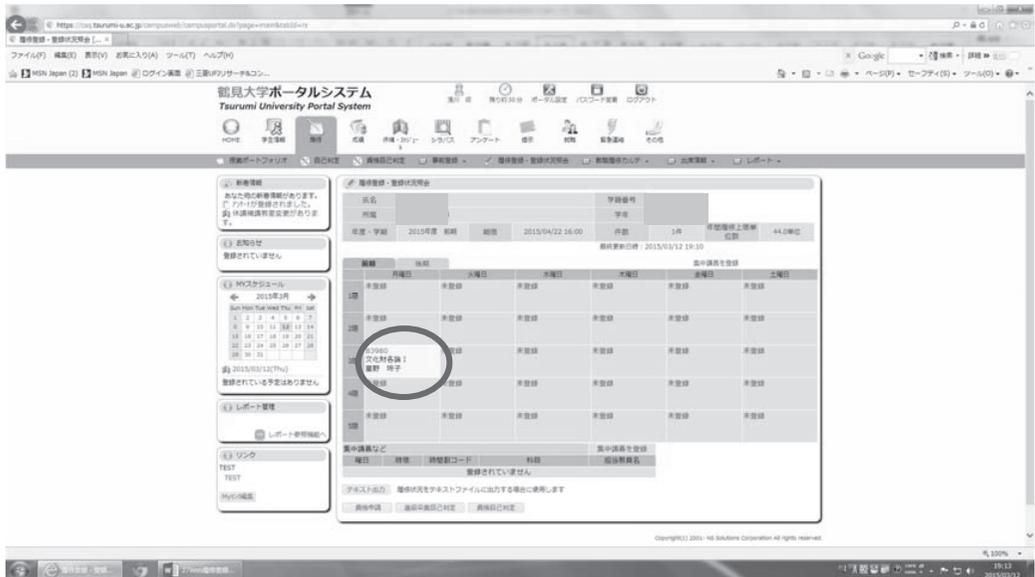
- ⑥ 「未登録」をクリックすると当該時間に開講されている講義が別ウィンドウに表示されるので、履修を希望する講義を選択し、「科目欄」にある「講義名」をクリックする。



⑦

⑦ 登録した講義が表示される。

登録するすべての講義について、この作業を繰り返す。

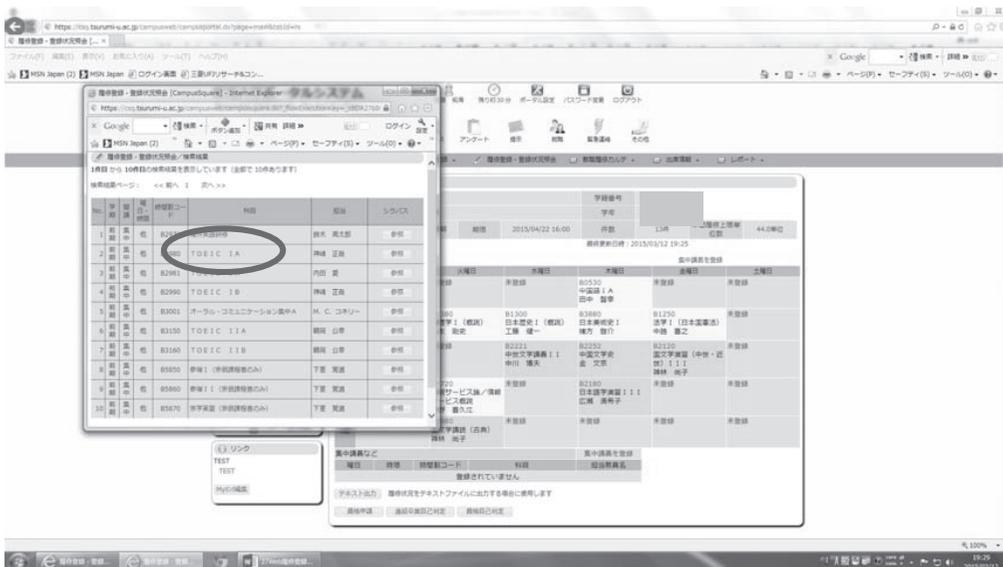


集中講義の登録

① 「集中講義」を履修する場合は、欄外の「集中講義を登録」をクリックする。

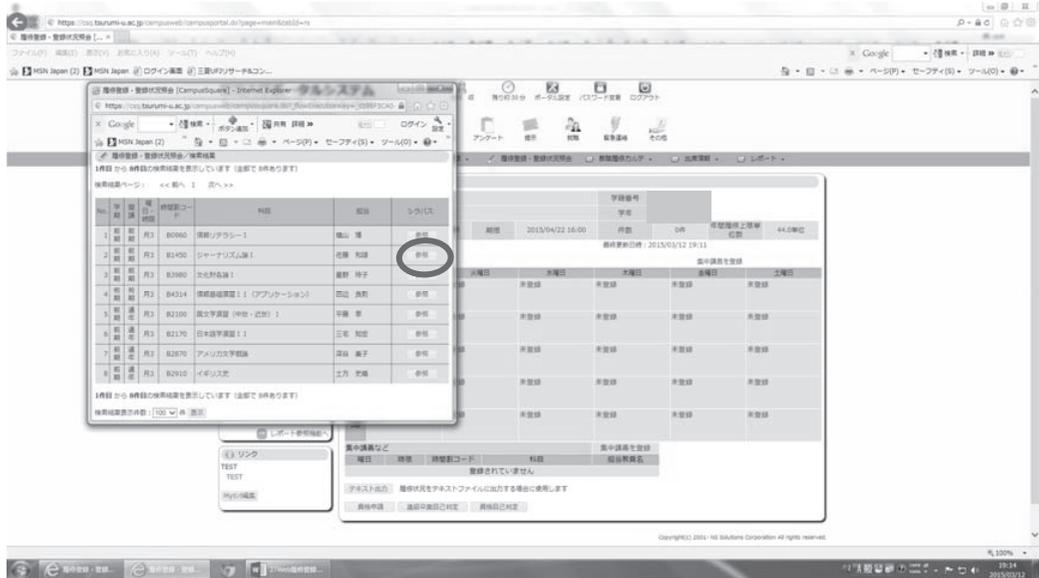


② 開講される講義一覧が別ウィンドウで表示されるので、履修を希望する集中講義をクリックする。
集中講義を複数履修する場合は、この作業を繰り返す。

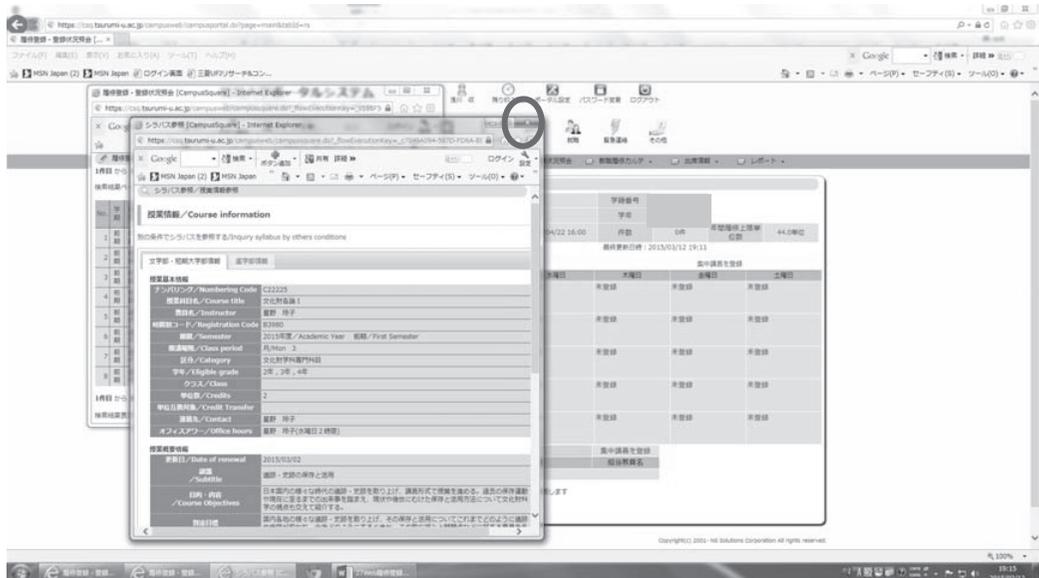


シラバスの参照

- ① 登録のために講義内容を知りたい場合、シラバスを参照することができる。
 希望する曜日の「未登録」をクリックし、「履修登録・登録状況照会／検索結果」を表示する。
 科目一覧の右側にある「シラバス」欄の「参照」をクリックする。

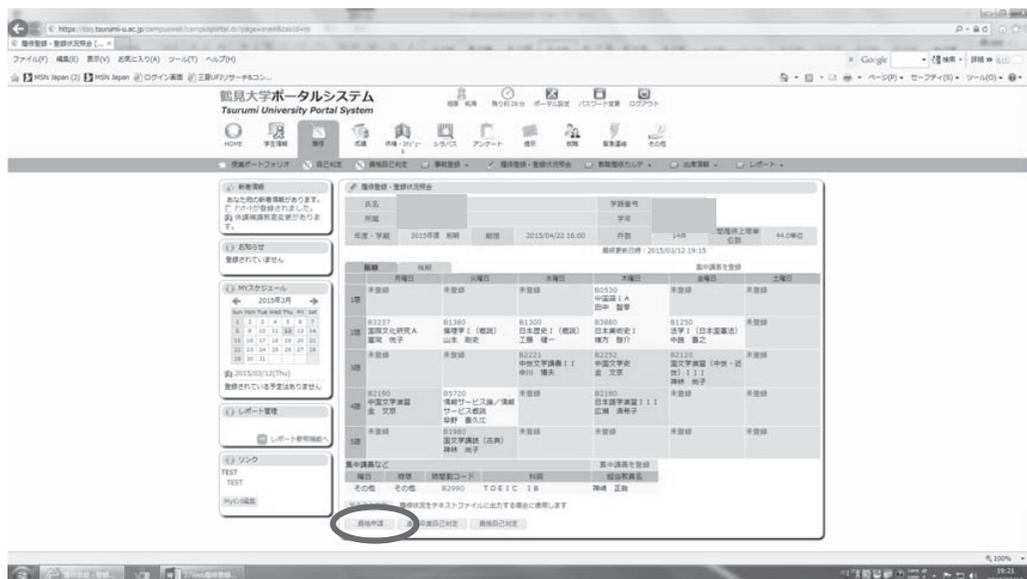


- ② 科目内容が別ウィンドウに表示されるので、授業内容を確認する。シラバスのウィンドウを閉じるときは右上の「×」をクリックする。



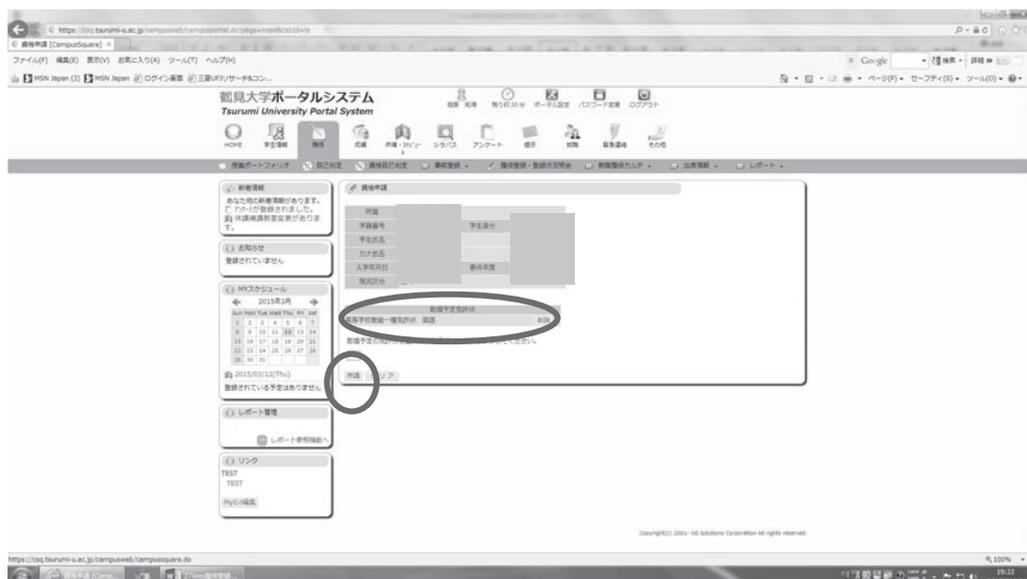
資格の申請

- ① 取得したい資格がある場合には、「履修登録・履修登録照会」の画面の下にある「資格申請」をクリックする。

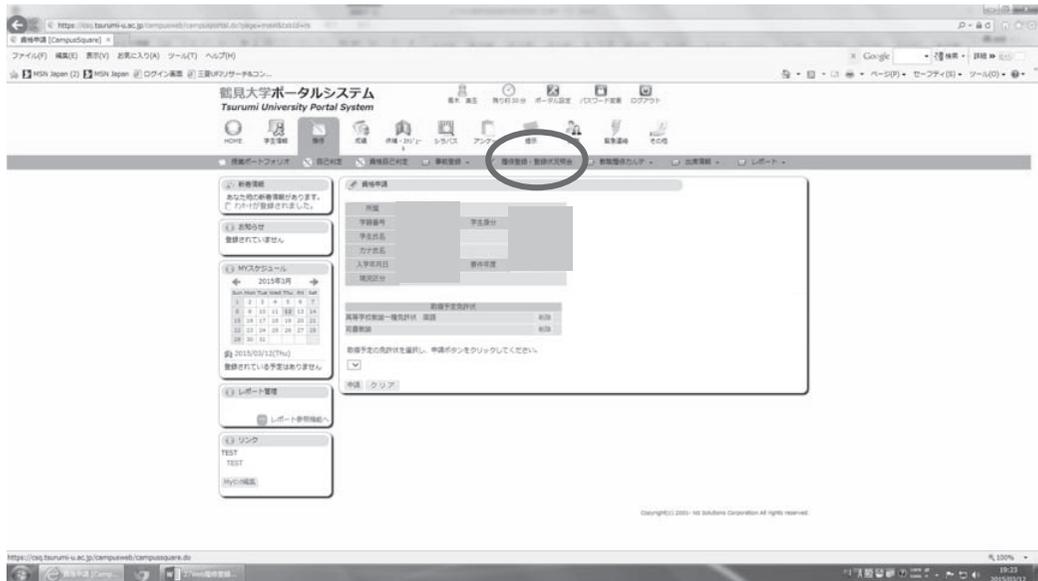


- ② 「資格申請」の画面を表示すると、2年生以上の場合、すでに登録済みの資格が表示される。
新しく資格を登録する場合、**v** をクリックすると各種資格が表示される。
希望する資格を選択し「申請」をクリックすると、「取得予定免許状」として表示される。

※各種資格の一覧を表示したものの、選択しない場合は「クリア」をクリックする



- ③ 登録が終了したら、「履修登録・登録状況照会」をクリックすると、「履修登録・履修登録照会」の画面にもどる。



※注意

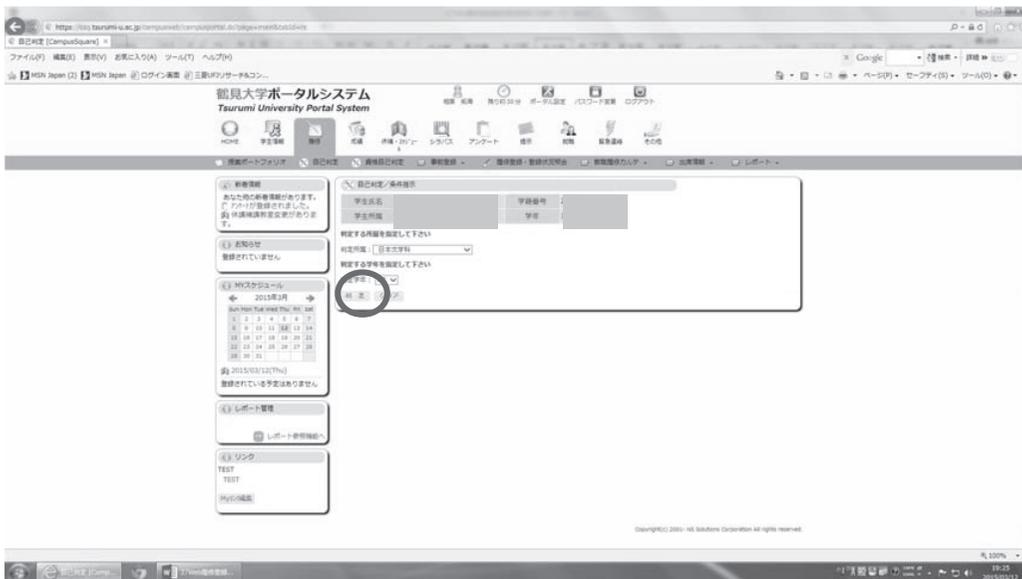
登録した資格を中止する場合は、必ず教学課の窓口申し出ること。

卒業所要単位の確認

- ① 卒業するために必要な単位数、不足している単位数を確認できる。
 確認するときは「履修登録、登録状況照会」下にある「**進級卒業自己判定**」をクリックする。

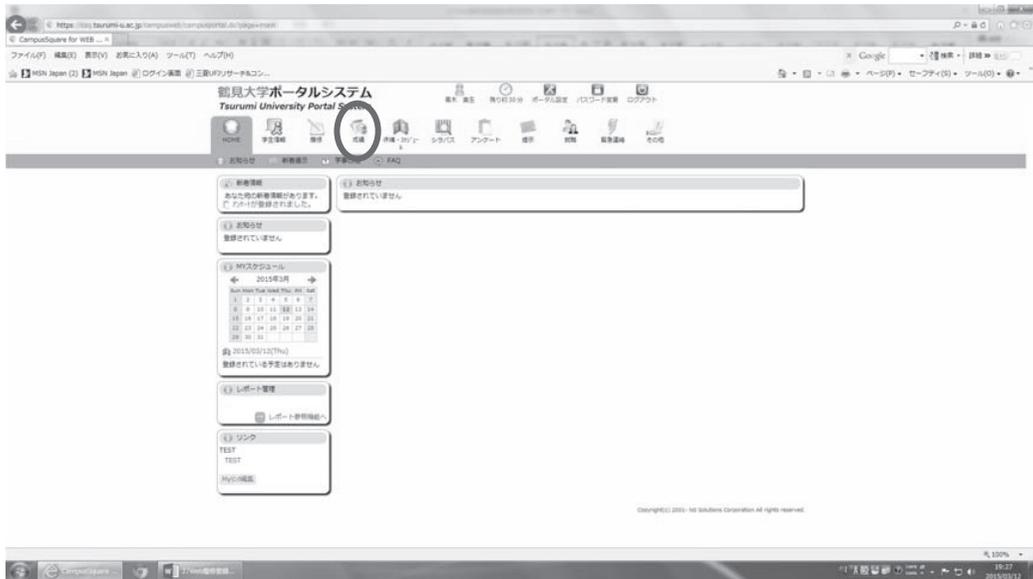


- ② 「**判定**」をクリックすると、履修登録した現在の状況が確認できる。

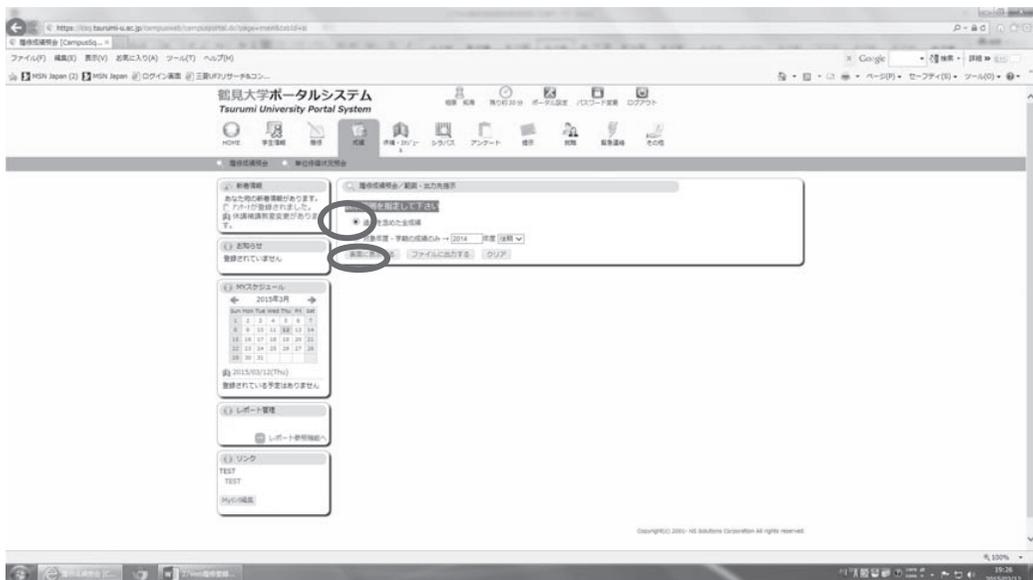


成績照会

- ① 履修登録期間中に限り、自身の成績を照会できる。
「成績」をクリックする。



- ② 「成績」をクリックし、成績を表示する範囲を選択する。
「過去を含めた全成績」または、「特定の学年・学期の成績」のみを表示するかを選択し、下段にある「画面を表示する」をクリックすると、指定した範囲の成績が表示される。



白紙

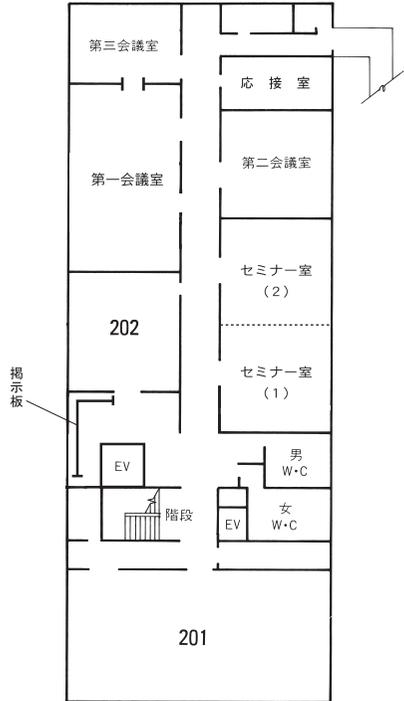
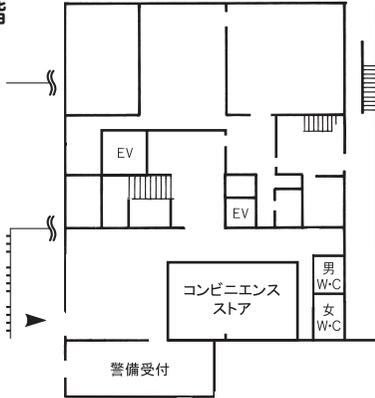
《教室等配置図》

白紙

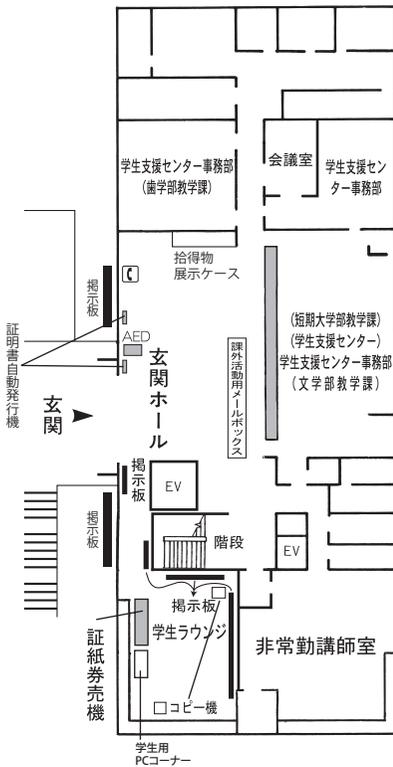
1 号 館

2 階

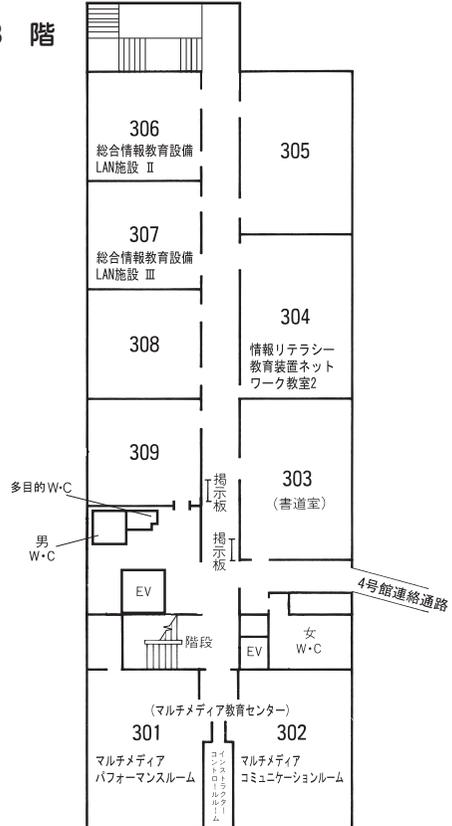
地下1階



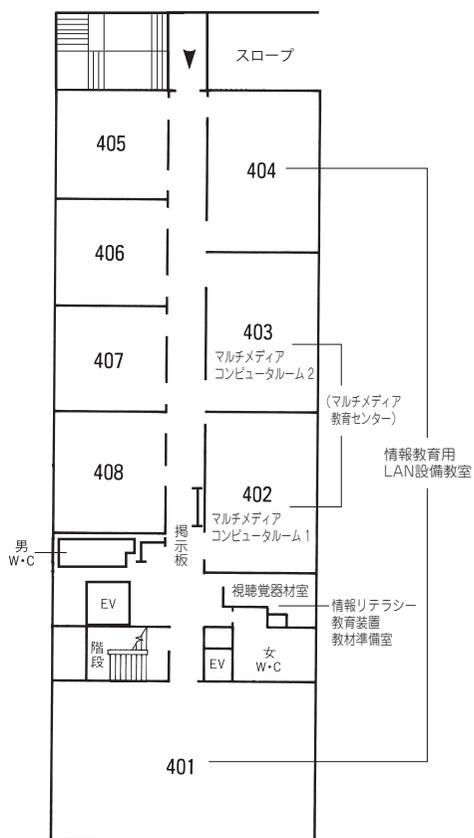
1 階



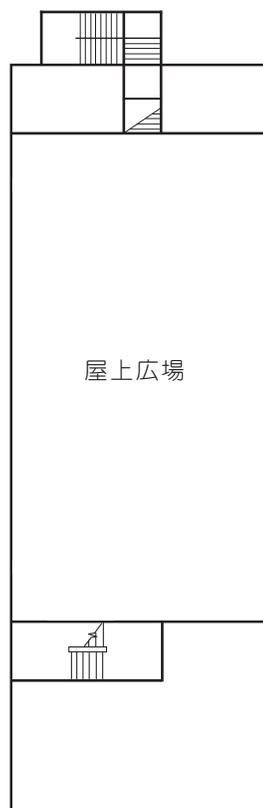
3 階



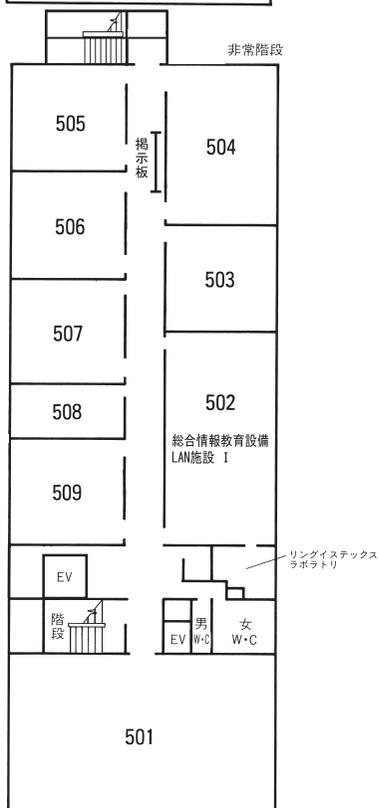
4 階



屋上

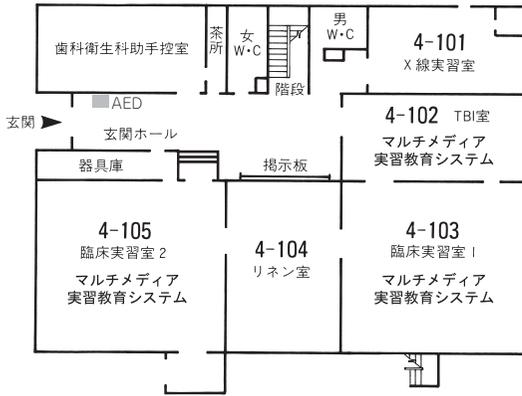


5 階

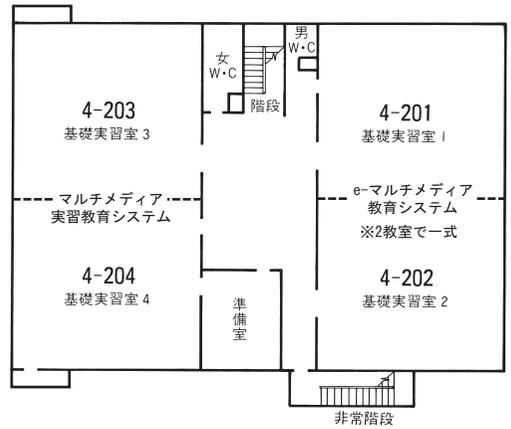


4 号 館

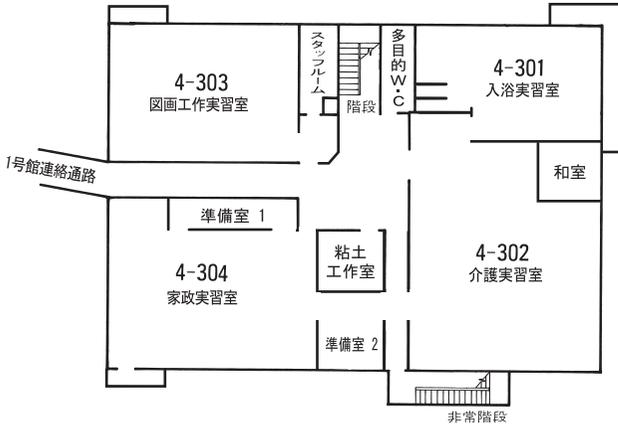
1 階



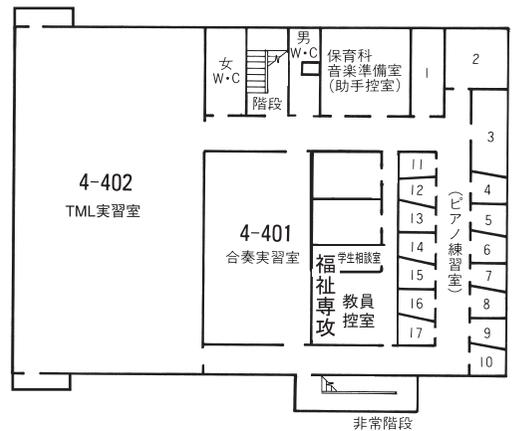
2 階



3 階

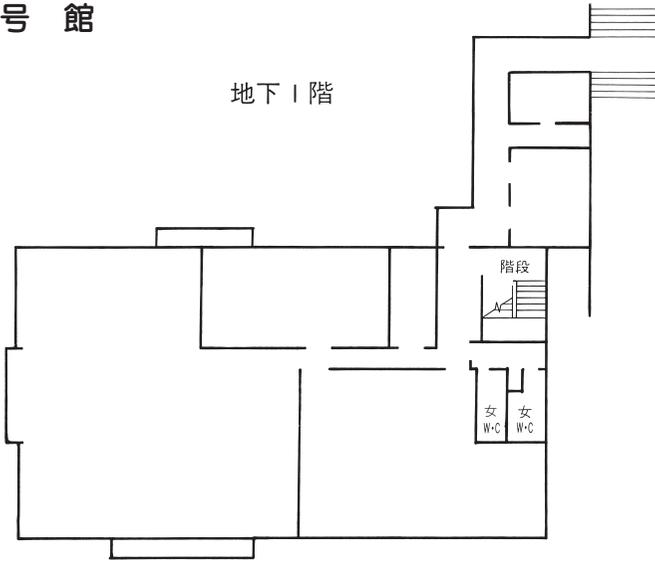


4 階

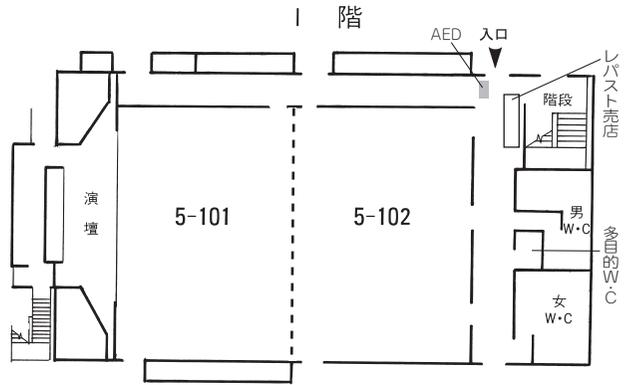


5号館

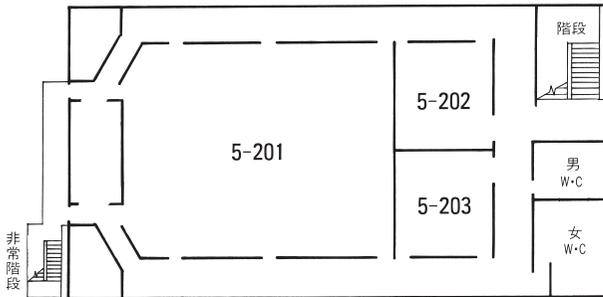
地下1階



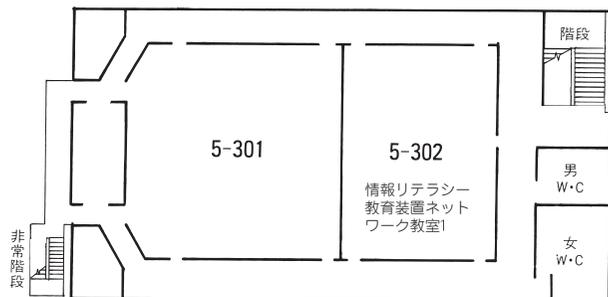
1階



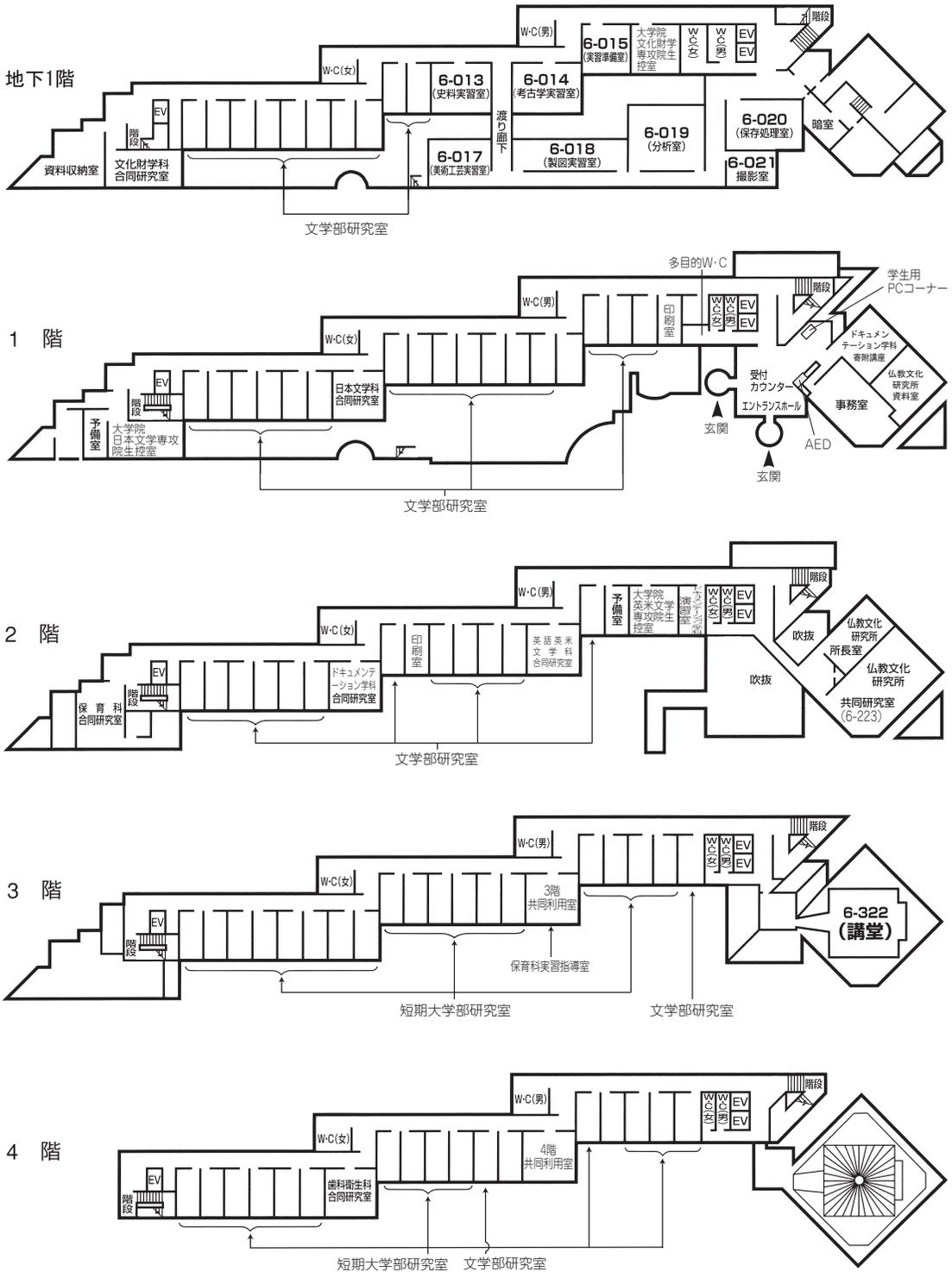
2階



3階



6号館

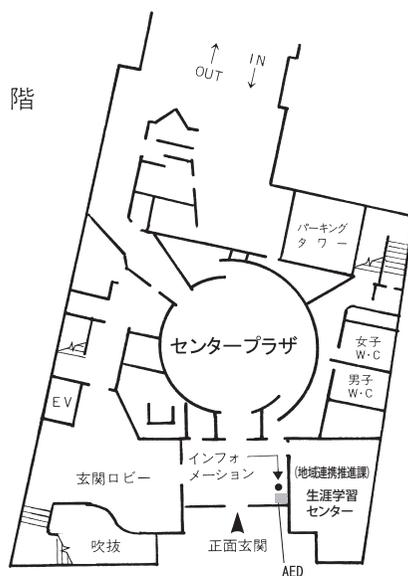


大学会館

地下1階



1階



2階



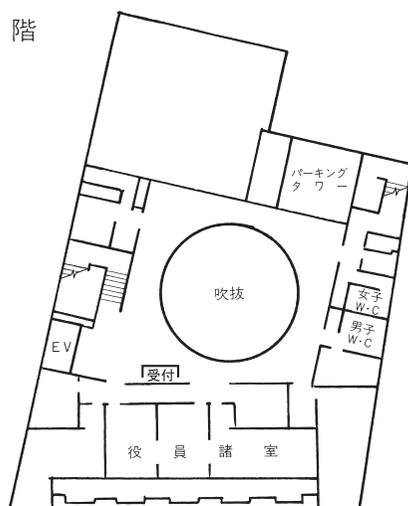
3階



4階

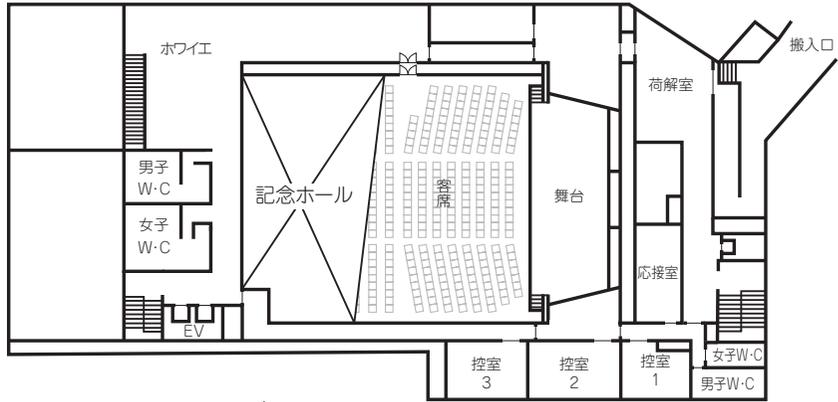


5階

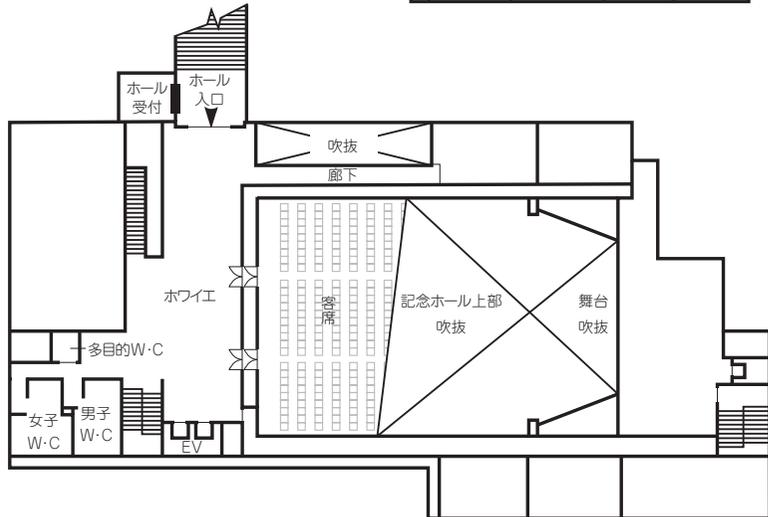


大学記念館

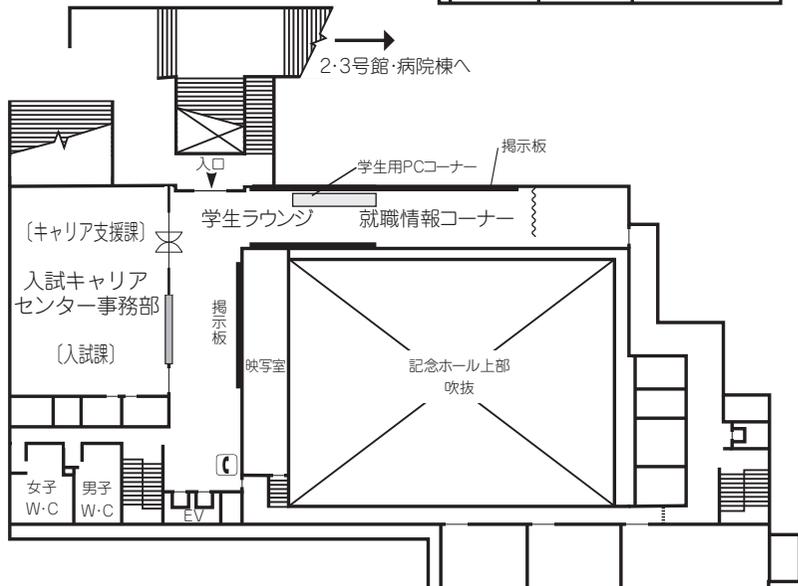
地下3階



地下2階



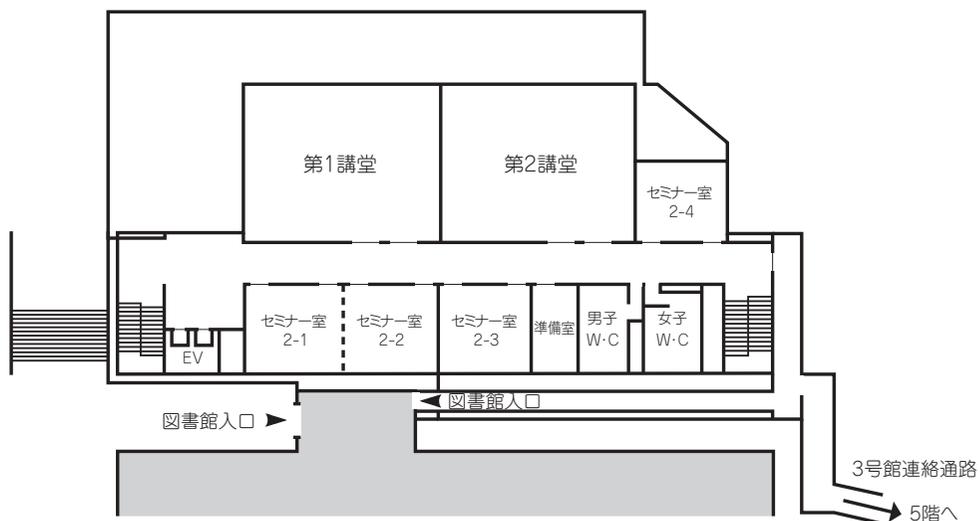
地下1階



1階



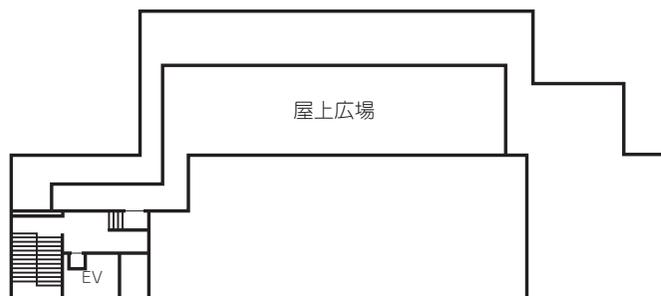
2階



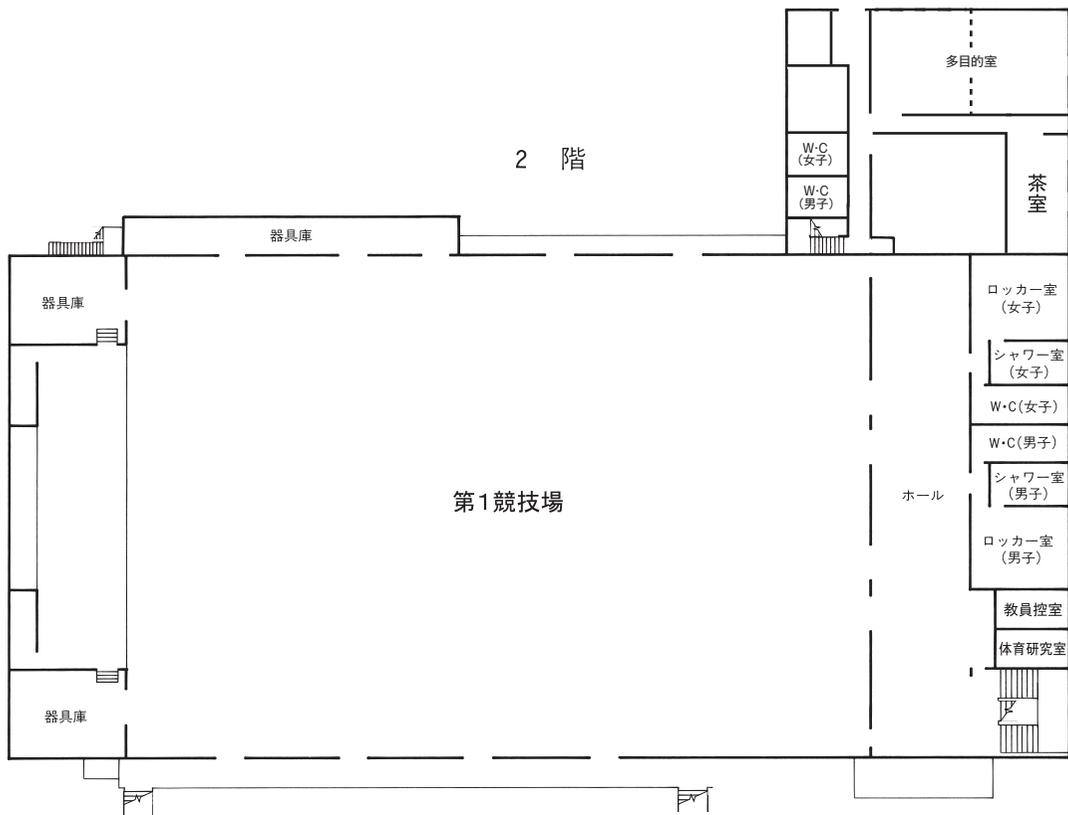
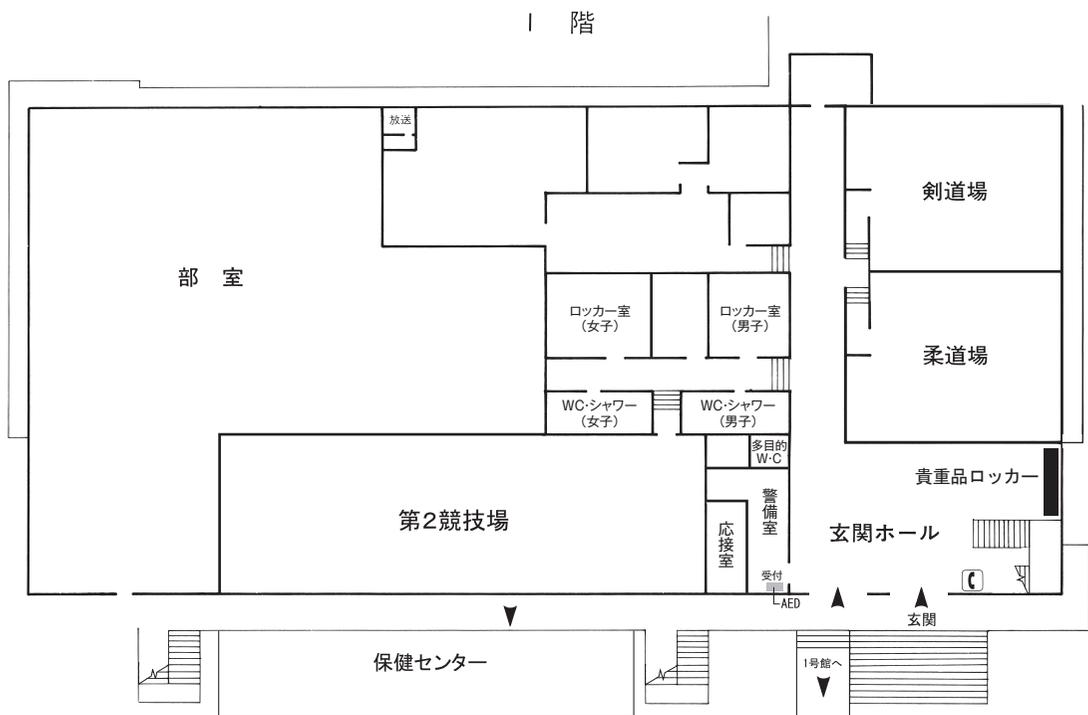
3階

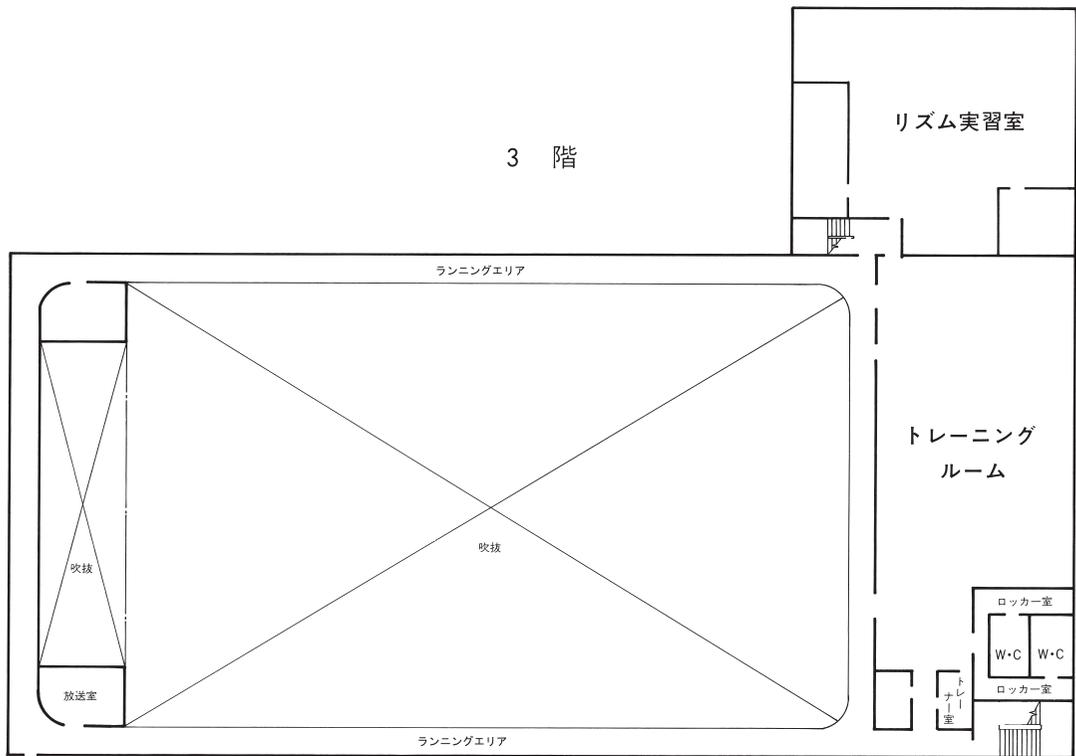


屋上

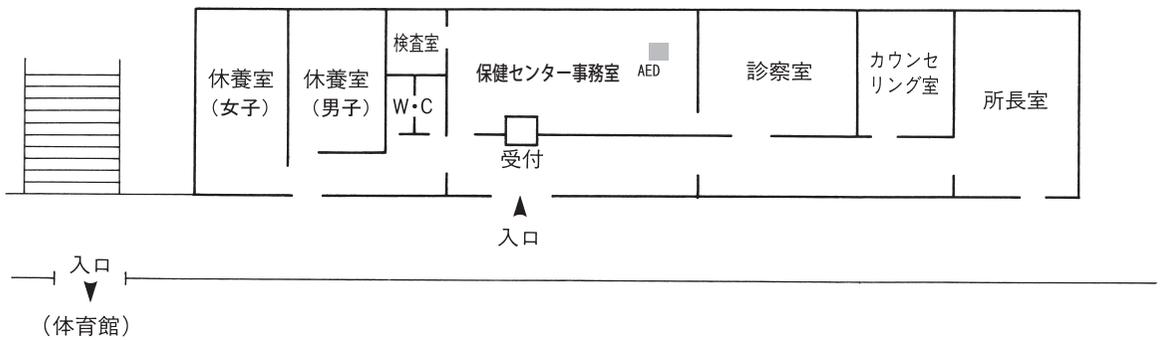


体育館

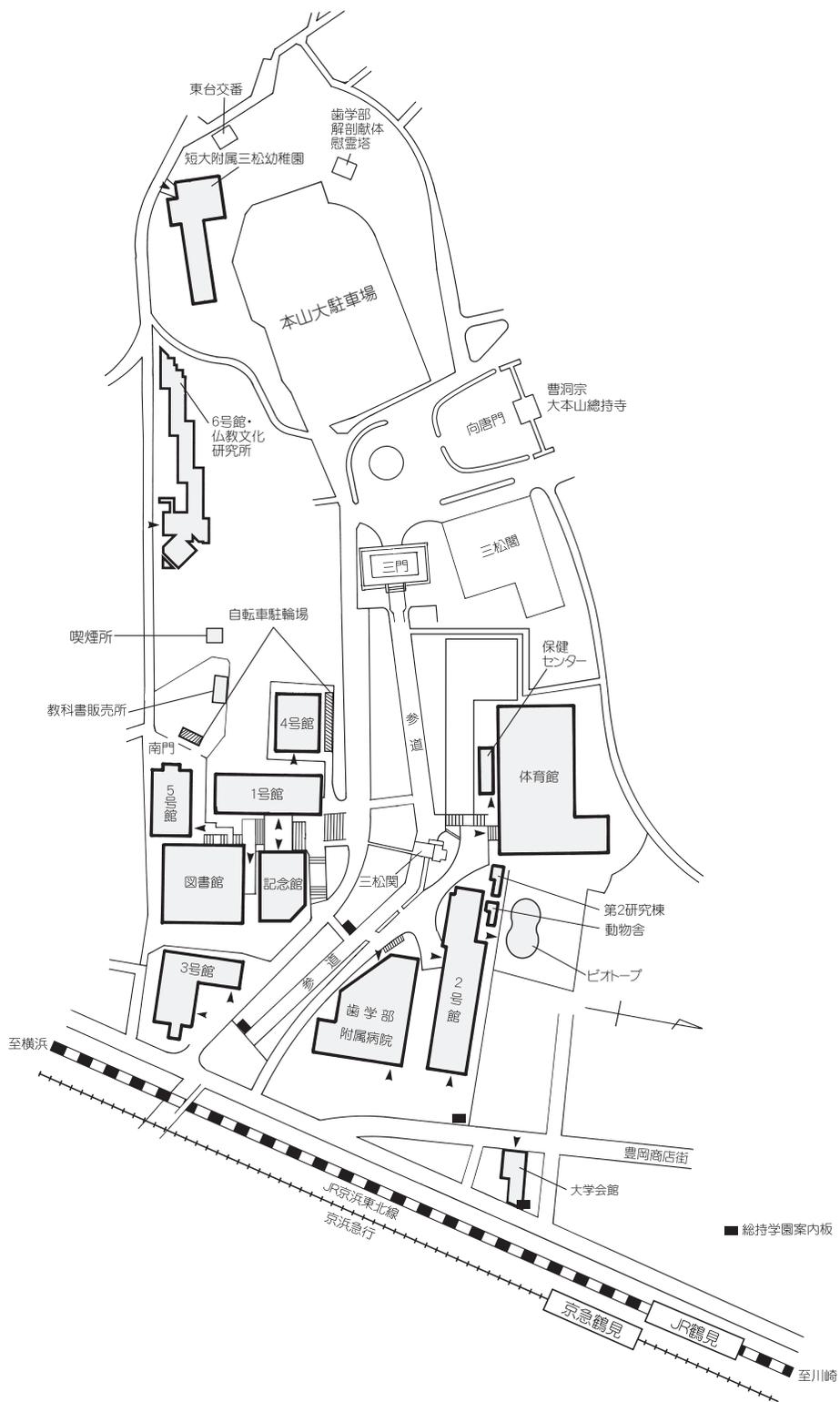




保健センター



《校舎配置図》



《地震発生時の措置及び東海
大地震等警戒宣言発令時の諸注意》

白紙

地震発生時の措置及び 東海大地震等警戒宣言発令時の諸注意

1. 地震発生時の措置

授業は打ち切りとします。各自持物をまとめ、放送や教職員の指示により速やかに避難してください。

避難場所：本山大駐車場

【地震発生時の心得】

- ① 出入口のドアを開ける。
- ② 窓ガラスから離れる。
- ③ 机の下に身体を入れるか、丈夫な物に身を寄せる。
- ④ 落下物に気をつけ頭部を守る。
- ⑤ あわてて外に飛び出さない。
- ⑥ 本震は、1分以内であるから震動中は行動を起こさない。
- ⑦ 火災発生の恐れがあるので、直ちに火を消し、ガス・電気等のスイッチを切る。
- ⑧ 避難は指示により、避難順路に従い、特に階段は注意する。
- ⑨ エレベーターの使用は厳禁する。
- ⑩ 本学の緊急避難場所は、本山大駐車場とする。
- ⑪ ハンカチ・タオル等を携帯し、不安定な靴・サンダル等はなるべくさける。

【帰宅対策の準備】

大規模地震の発生により公共交通機関が停止すると、通勤・通学等で外出中の多くの人々が帰宅困難になってしまいます。通常交通手段が使えない場合を想定して、徒歩帰宅に備えた準備をしておきましょう。

また、横浜市は「パシフィコ横浜・国立大ホール」及び「横浜アリーナ」を一時宿泊場所として指定しています。

《徒歩帰宅可否判断基準》

下記項目に1つでも当てはまる場合、徒歩帰宅はお勧めできません。

- ・自宅までの距離が20km以上ある。
- ・2.5km/時で歩行した場合、帰宅予定時刻が日没以降となる。
- ・携帯電話等の通信機器を持っていない。
- ・自宅までの道のりをよく知らない(地図を持っていない)。
- ・自宅までのルートが通行制限区域及び火災発生地域になっている。
- ・同一方面の帰宅者がいない。
- ・運動靴等の歩きやすい靴を履いていない。

《日頃から携帯しておく便利なもの》

- ・簡易食料(チョコ、あめなど)
- ・医薬品(ばんそうこう、胃腸薬、解熱剤など)
- ・ハンカチ・タオル
- ・携帯充電池

2. 東海大地震等警戒宣言発令時の諸注意

すでに承知のとおり、東海大地震等発生の危険性が報道されています。これに備えて、地震発生が予知された場合には「大規模地震対策特別措置法」に基づき、地震予知の警戒宣言が発令されることになります。

この警戒宣言が発令された場合には、次の心構えで行動してください。

(1) 警戒宣言発令の伝達と授業・試験の取扱

発令の伝達 全館に放送で発令されたことを伝達する。

授業・試験 警戒宣言が発令された場合、下記の基準を適用する。

授業又は試験中の場合は打ち切りとし、警戒宣言発令中は休講とする。

【授業・試験の実施基準】

【警戒宣言解除時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに警戒宣言が解除された場合	平常どおり実施
午前11時までに警戒宣言が解除された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに警戒宣言が解除された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても解除されない場合	全時限休講・試験延期

(2) 授業・試験打ち切り後の行動について

- ① 各教室で指示があるまで勝手に行動せず静かに待機する。実習・実技中の学生は更衣し、所持品を持って本山大駐車場に集合する。
- ② 火を使用している場合には直ちに消し、ガスを使用している場合には完全に栓を閉める。
- ③ 各教室の出入口のドアを開ける。
- ④ エレベーターの使用は厳禁する。
- ⑤ 交通機関の運行状況は、判明次第放送する予定。
- ⑥ 交通機関の状況により帰宅できないものは、指示により次の場所に所持品を持って集合する。

文学部・短期大学部……5-101・5-102 教室

歯学部……………大学記念館大学食堂

- ⑦ 警戒宣言発令と同時に交通が停止する地域からの通学生は、平素から家族と相談のうえ、知人等臨時避難先を決めておき、帰宅できない場合の住所を、事前に明確しておくように心がけること。

履修要項

平成 28 年度

平成 28 年 4 月 1 日

編集発行 **鶴見大学**
文学部
文学研究科

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
TEL 045-580-8211・8212